阪南市埋蔵文化財報告 51

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＸＸ

２０１３年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

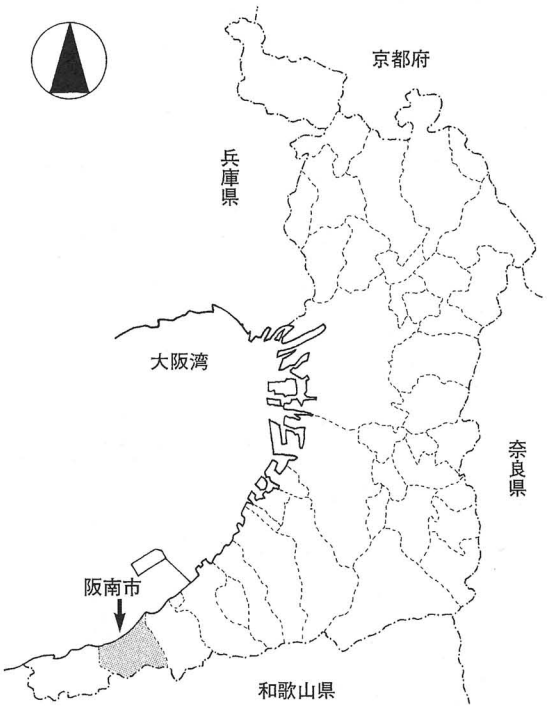
高度成長期に始まった開発の波が自然破壊と共に、多くの遺跡を破壊していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成24年度の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成25年３月31日

阪南市教育委員会



第１図　大阪府阪南市位置図

例　　言

1．本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。

2．調査は、平成24年度に国庫補助事業として計画実施した。

3．現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野　仁、大川　健（嘱託）を担当とし、平成24年1月から12月にかけて行った。

4．本書内で示した標高はT．P．（東京湾平均海面）を基準としている。

5．発掘調査にあたっては土地所有者等、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

6．土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修　小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（2000 年版）を使用した。

7．本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

8．本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。

9．発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。

根無吉隆、南　竹千代、杉田正千代、古牧　敬、和田旬世、井上祥子、
井上　進、島田万帆

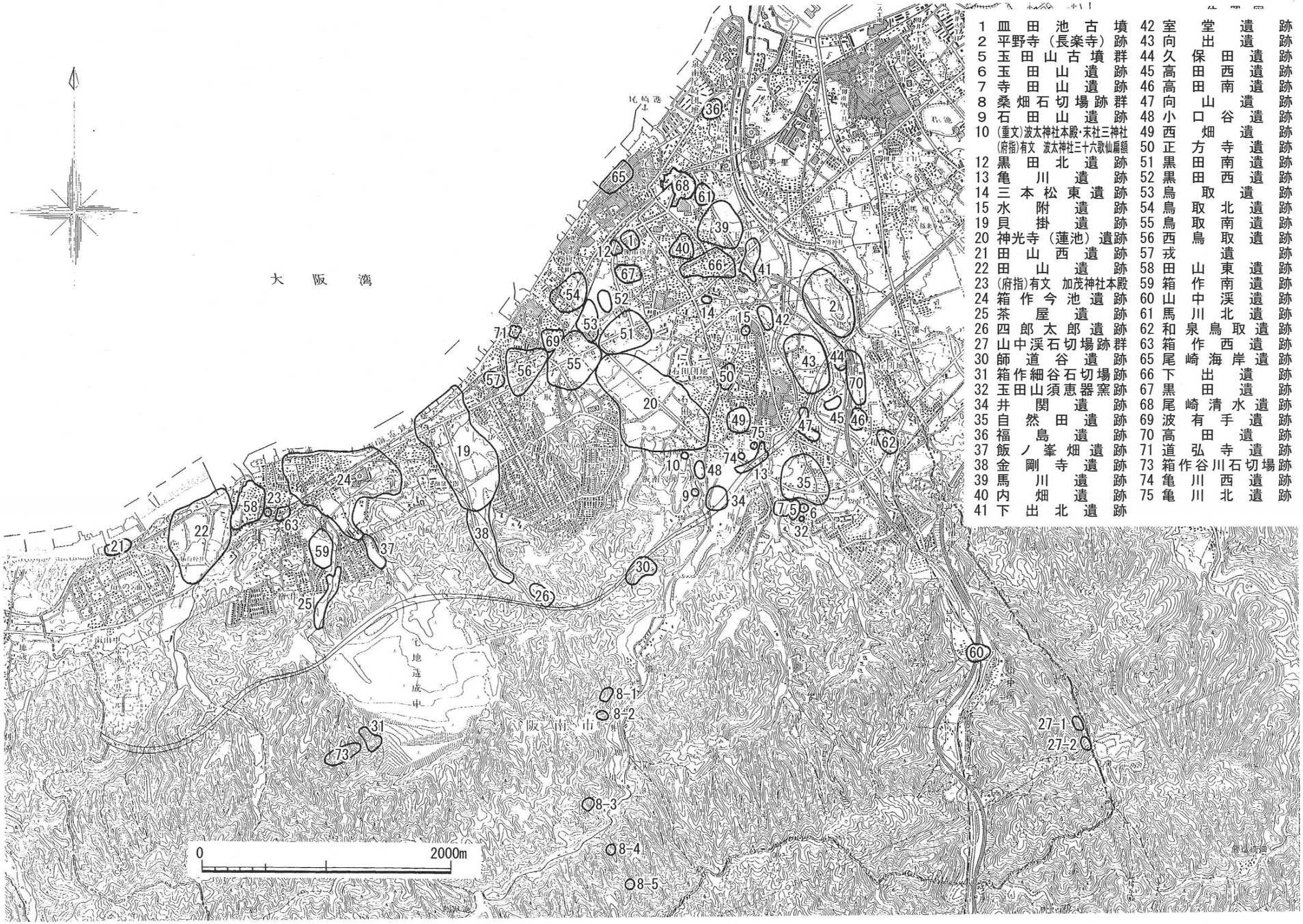
目　　次

第１章　調査の成果

第１節　尾崎海岸遺跡	（１）１２－２区	１
	（２）１２－３区	２
第２節　内畑遺跡	（１）１２－１区	４
第３節　下出遺跡	（１）１２－１区	５
第４節　黒田南遺跡	（１）１２－１区	６
第５節　鳥取南遺跡	（１）１２－１区	８
第６節　西鳥取遺跡	（１）１２－１区	９
第７節　神光寺（蓮池）遺跡	（１）１２－１区	１０
	（２）１２－３区	１１
	（３）１２－４区	１２
	（４）１２－５区	
第８節　向出遺跡	（１）１２－１区	１４
	（２）１２－２区	１５
	（３）１２－３区	
第９節　箱作今池遺跡	（１）１２－１区	１６
	（２）１２－２区	１７
第10節　田山東遺跡	（１）１２－１区	２０
	（２）１２－２区	２１
	（３）１１－１区	２８
	（４）１２－３区	３２
	（５）１２－４区	３３
	（６）１２－５区	
	（７）１２－６区	３４
	（８）１２－７区	
第11節　自然田範囲外	（１）１２－１区	３５

第２章　まとめ　３８

報告書抄録　３９



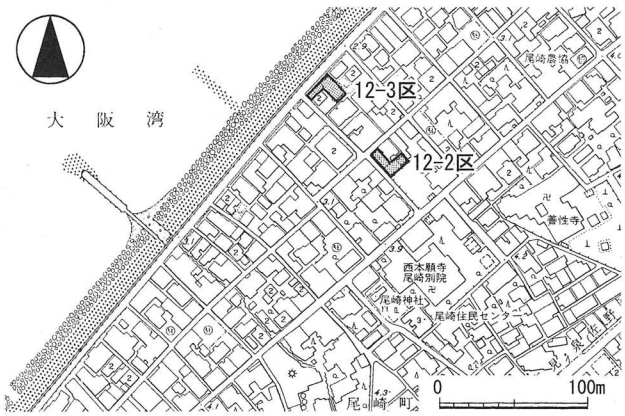
1 皿田池古墳
2 平野寺（長楽寺）跡
5 玉田山古墳群
6 玉田山遺跡
7 寺田山遺跡
8 桑畑石切場跡群
9 石田山遺跡
10 (重文)波太神社本殿・末社三神社
(府指)有文 波太神社三十六歌仙扁額
12 黒田北遺跡
13 亀川遺跡
14 三本松東遺跡
15 水附遺跡
19 貝掛遺跡
20 神光寺（蓮池）遺跡
21 田山西遺跡
22 田山遺跡
23 (府指)有文 加茂神社本殿
24 箱作今池遺跡
25 茶屋遺跡
26 四郎太郎遺跡
27 山中渓石切場跡群
30 師道谷遺跡
31 箱作細谷石切場跡
32 玉田山須恵器窯跡
34 井関遺跡
35 自然田遺跡
36 福島遺跡
37 飯ノ峯畑遺跡
38 金剛寺遺跡
39 馬川遺跡
40 内畑遺跡
41 下出北遺跡
42 室堂遺跡
43 向出遺跡
44 久保田遺跡
45 高田西遺跡
46 高田南遺跡
47 向山遺跡
48 小口谷遺跡
49 西畑遺跡
50 正方寺遺跡
51 黒田南遺跡
52 黒田西遺跡
53 鳥取遺跡
54 鳥取北遺跡
55 鳥取南遺跡
56 西鳥取遺跡
57 戎遺跡
58 田山東遺跡
59 箱作南遺跡
60 山中渓遺跡
61 馬川北遺跡
62 和泉鳥取遺跡
63 箱作西遺跡
65 尾崎海岸遺跡
66 下出遺跡
67 黒田遺跡
68 尾崎清水遺跡
69 波有手遺跡
70 高田遺跡
71 道弘寺遺跡
73 箱作谷川石切場跡
74 亀川西遺跡
75 亀川北遺跡

第２図　阪南市埋蔵文化財分布図

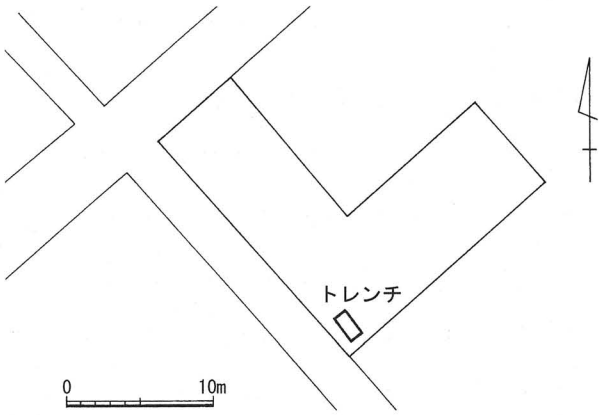
第１章　調査の成果

第１節　尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は阪南市北東部に位置し、現海岸線と旧街道（浜街道）に挟まれた東西約300m、南北約150mの遺跡である。近世期の尾崎村、現在の尾崎地区の中心地とほぼ一致する。平成2(1990)年度の住宅建築工事の折に発見された。その調査で砂地に焼けた石が約3㎡に敷き詰められ、その上に弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての製塩土器や蛸壺等が多数散乱する製塩遺構が検出されており、このことから生産遺跡の性格を持つと考えられる。その後の調査では、近世期の日用生活雑器が多く出土しているものの、製塩関係の遺構・遺物は検出されていない。



第３図 尾崎海岸遺跡 調査区位置図



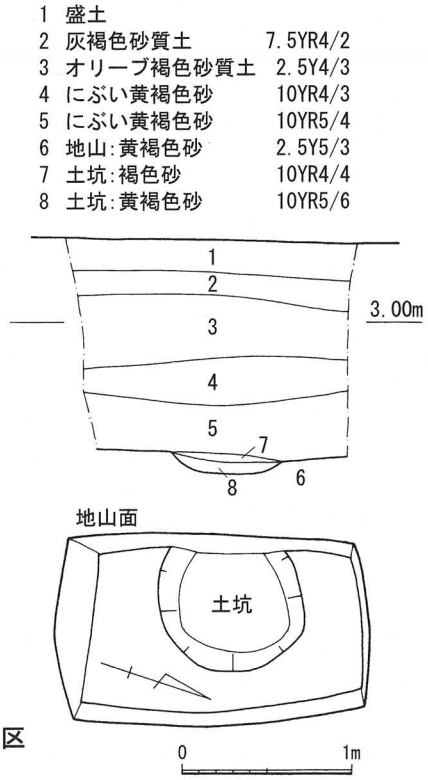
第４図 尾崎海岸遺跡 12-2 区 トレンチ位置図

(1) 12-2 区（第３～６図）

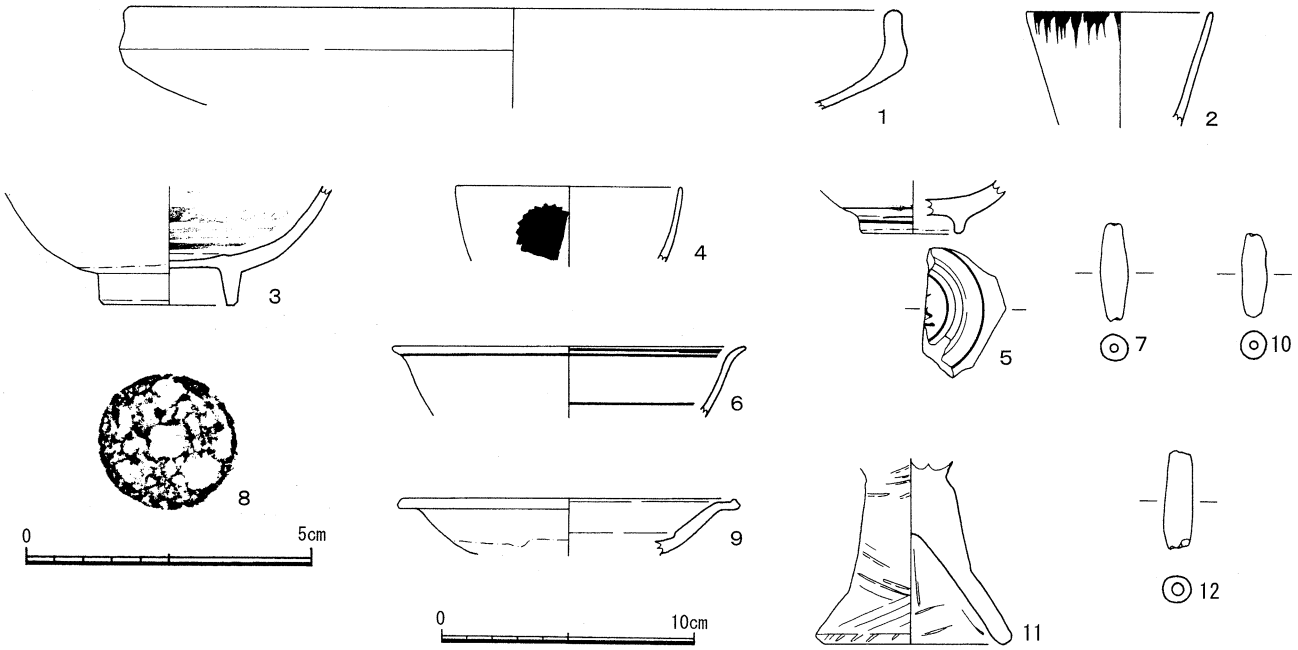
調査区は尾崎海岸遺跡の中央部に位置し、過去に製塩遺構が検出された調査区90-1区の南東に位置する。

調査区の南部に2.0m×1.0mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層灰褐色砂質土7.5YR4/2、第3層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、第4層にぶい黄褐色砂10YR4/3、第5層にぶい黄褐色砂10YR5/4、第6層黄褐色砂2.5Y5/3 である。第6層は地山で、地表面より約－1.20mで検出した。



第５図 尾崎海岸遺跡 12-2 区
トレンチ平面・断面図



第６図 尾崎海岸遺跡 12-2 区 出土遺物

遺物は第2～4層から土師質土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、近世瓦、陶器、磁器、銅銭、スサ入り焼土塊等、第5層から土師質土器、土師質管状土錘、土師質真蛸壺が出土した。第2層から第4層は近世期、第5層は中世期と思われる。また、各層から弥生土器も出土している。1は近世の土師質炮烙、2は磁器猪口で第2層から、3は陶器椀、4～6は磁器椀、7は土師質管状土錘、8は（古）寛永通宝で第3層から、9は陶器皿、10は土師質管状土錘で第4層から、11は弥生時代後期の製塩土器脚部で第5層から出土した。

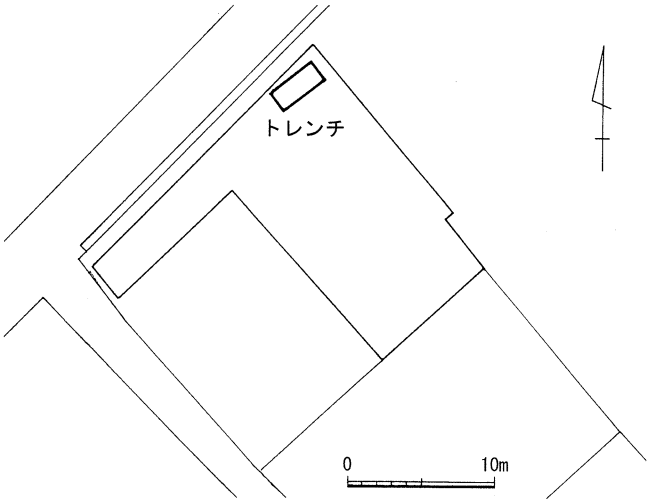
遺構は地山面で土坑を１基検出した。東西0.70m以上、南北0.90m、深さ0.13mを測り、西部はトレンチ外へ広がる。埋土は上層が褐色砂10YR4/4、下層が黄褐色砂10YR5/6である。下層から弥生土器、土師質土器、土師質管状土錘が出土した。中世期の遺構である。12は土師質管状土錘で、下層から出土した。

(2) 12-3区（第3・7～9図）

調査区は尾崎海岸遺跡の北部に位置する。

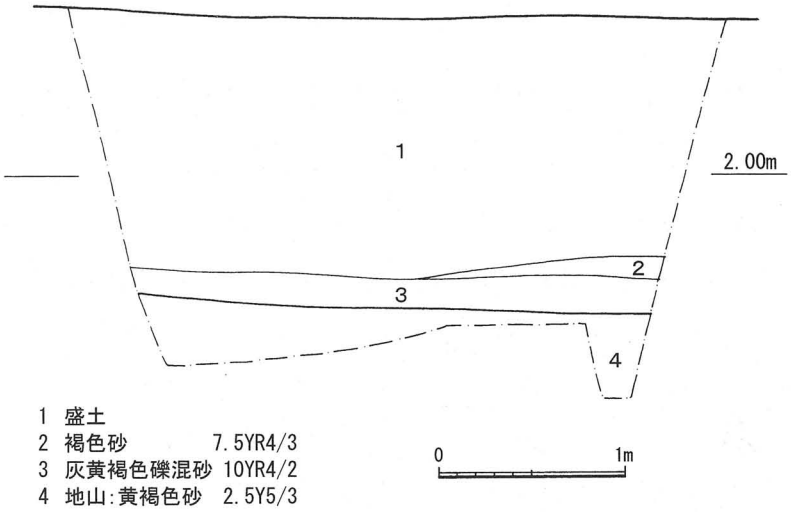
調査区の北部に3.5m×1.6mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層褐色砂7.5YR4/3、第3層灰黄褐色礫混砂10YR4/2、第4層黄褐色砂2.5Y5/3である。第4層は地山で、地表面より約－1.60mで検出した。



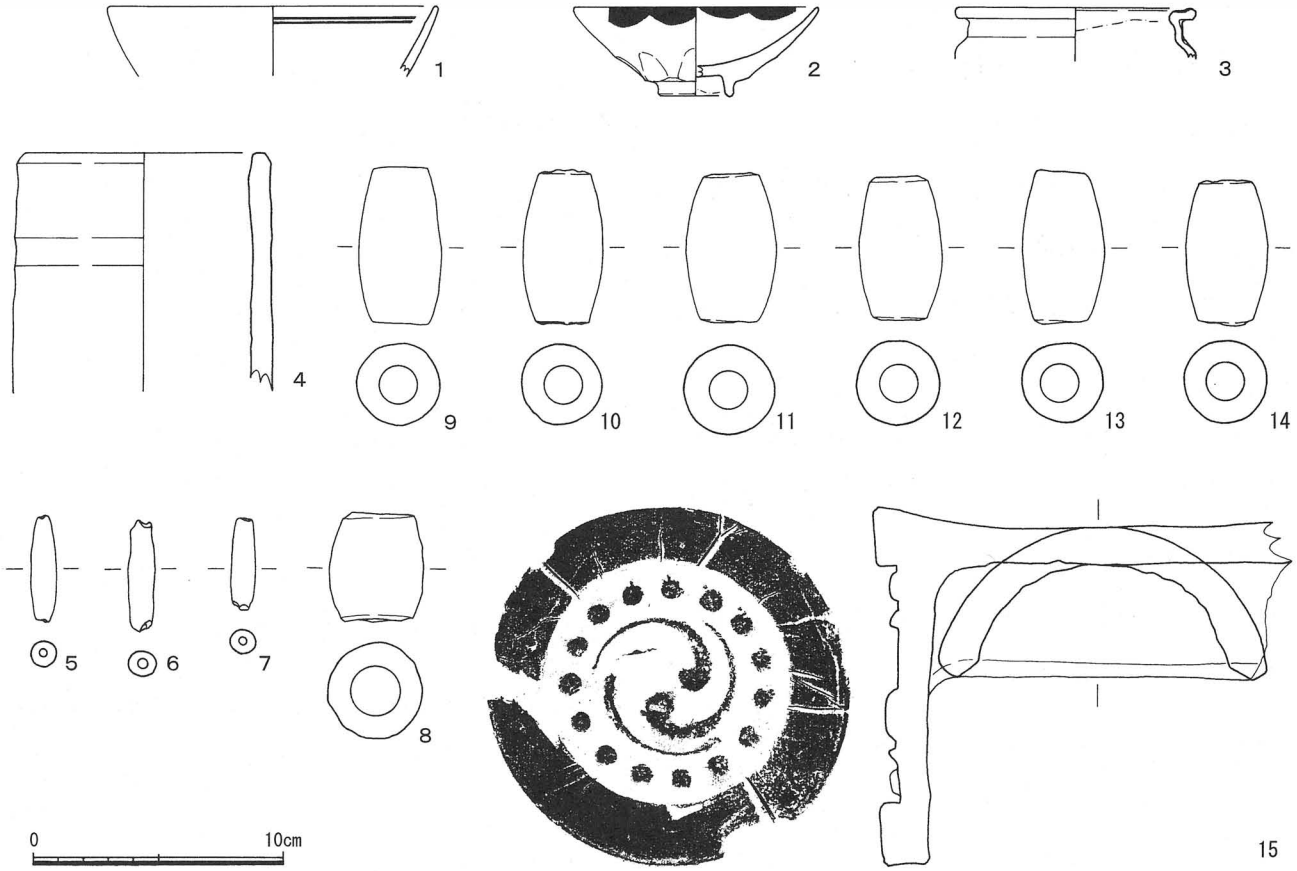
第７図 尾崎海岸遺跡 12-3 区 トレンチ位置図

遺物は第2層から陶器、磁器、第3層から陶器、磁器、土師質真蛸壺、土師質及び陶質管状土錘、近世及び近代瓦、鉄製品が出土した。第3層から近代の磁器や瓦が出土しているため、第2・3層とも近代期である。1・2は磁器椀、3は波佐見青磁の香炉、4～8は土師質で、4は内面に布目圧痕の残る真蛸壺、5～8は管状土錘で、8は施釉である。9～14は焼締陶器の管状土錘で、一部に自然釉が見られる。15は巴文の軒丸瓦である。すべて第3層から出土した。



第8図 尾崎海岸遺跡 12-3 区 トレンチ北側断面図

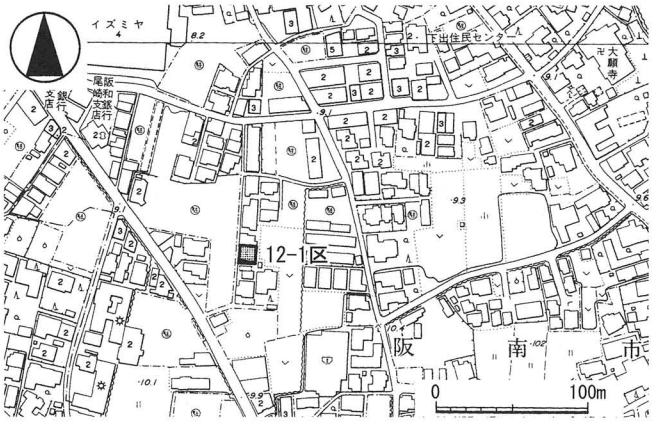
遺構は検出されなかった。



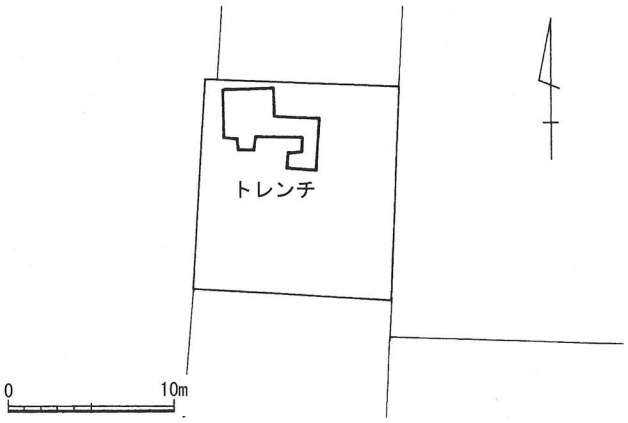
第9図 尾崎海岸遺跡 12-3 区 出土遺物

第２節　内畑遺跡

内畑遺跡は、平成元(1989)年度の民間開発工事に先立つ確認調査によって発見された。既往の調査では溝や土坑等が検出されると共に多量の近世瓦、製糖に用いられた土師質瓦漏をはじめ、膨大な量の陶磁器、擂鉢や炮烙等の日用生活雑器も多く出土している。遺跡の中央部には尾崎を起点に和歌山へ至る井関越街道が縦断していることから、当遺跡が江戸時代に下出村の中心地であったことが伺える。



第 10 図 内畑遺跡 調査区位置図



第 11 図 内畑遺跡 12-1 区 トレンチ位置図

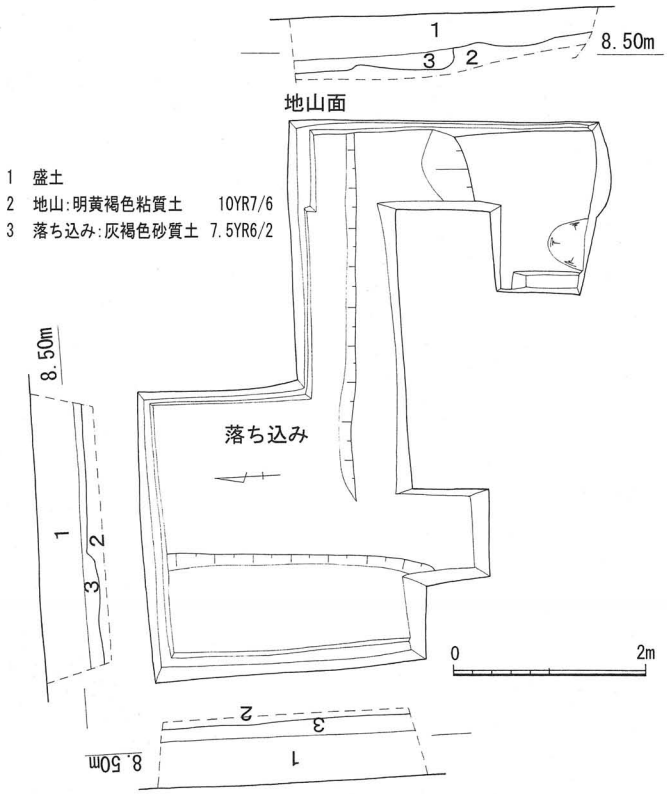
(1) 12-1区（第10～13図）

調査区は内畑遺跡の北西部に位置する。

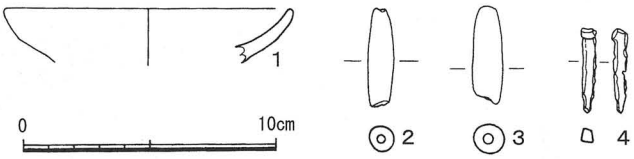
調査は調査区の北部に16.00㎡のトレンチを設定し行った。

基本層序は第1層盛土、第2層明黄褐色粘質土10YR7/6の地山である。地山は地表面より約－0.50mで検出した。

遺構はトレンチ東部の地山面で北方向への落ち込みを検出した。埋土は灰褐色砂質土7.5YR6/2で、トレンチ全体がほぼ落ち込み内である。遺物は黒色土器、土師質土器、土師質管状土錘、陶器、磁器が出土したが、近代の遺物も出土しているため、近代期の遺構と思われる。1は陶器皿、2・3は土師質管状土錘、4は断面方形の鉄釘である。



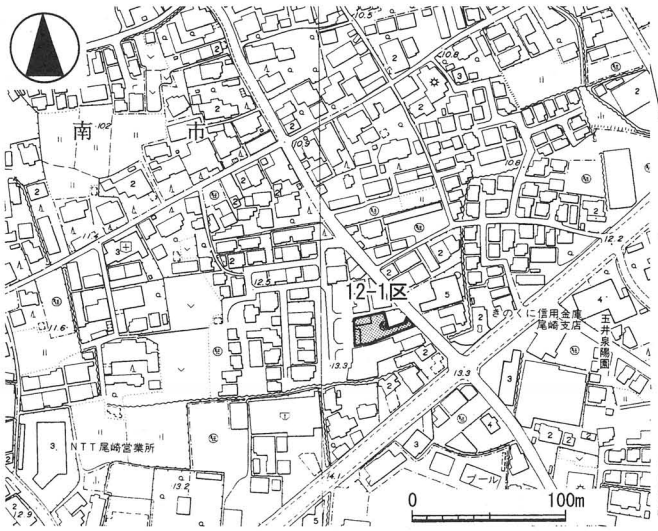
第 12 図 内畑遺跡 12-1 区 トレンチ平面・断面図



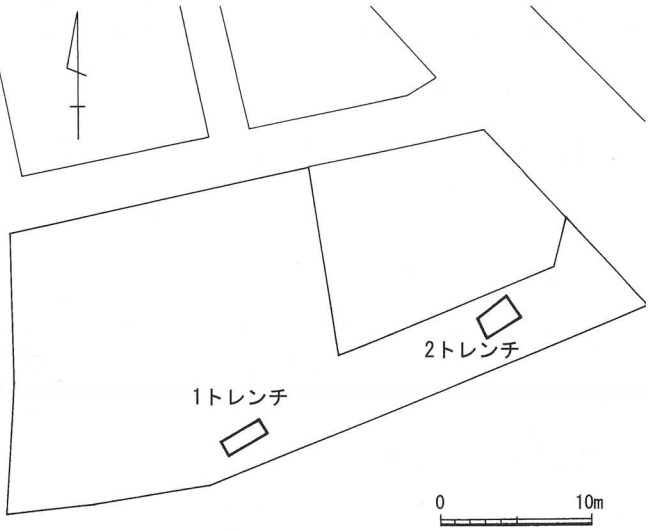
第 13 図 内畑遺跡 12-1 区 出土遺物

第３節　下出遺跡

下出遺跡は、遺跡の北部を信長街道が東西に貫通し、西部は井関越街道と接しており、古い民家が立ち並ぶ旧集落に位置する。平成3(1991)年度の民間開発工事に伴う確認調査で発見された。その後の調査でも、鎌倉時代から近世期にかけての瓦が多量に出土しており、付近に寺院の存在が想定されている。



第 14 図 下出遺跡 調査区位置図



第 15 図 下出遺跡 12-1 区 トレンチ位置図

(1) 12-1区（第14～16図）

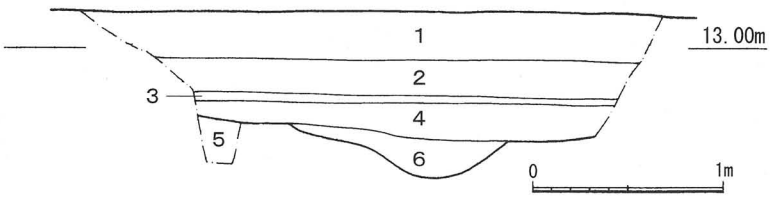
調査区は下出遺跡の南部に位置する。

調査は調査区の南部に西から1.0m×3.0mの1トレンチ、東側に2.4m×1.5mの2トレンチを設定し行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層黒褐色風化礫混土7.5YR3/2、第5層褐色礫混土10YR4/4である。第5層は地山で1トレンチでは地表面より約－0.7m、2トレンチでは約－0.6mで検出した。

遺物は1トレンチの第3層で磨滅の激しい土師質真蛸壺が1点出土したのみである。

遺構は1トレンチで不定形の土坑を検出した。埋土は黒色土7.5YR2/1で、倒木痕と思われる。遺物は出土しなかった。



1 盛土
2 耕作土
3 床土
4 黒褐色風化礫混土 7.5YR3/2
5 地山:褐色礫混土 10YR4/4
6 土坑:黒色土 7.5YR2/1

第 16 図 下出遺跡 12-1 区 トレンチ南側断面図

第４節　黒田南遺跡

黒田南遺跡は阪南市の東部を流れる男里川によって形成された、市内で最も大きい平野に位置する。北は黒田西遺跡、南は神光寺(蓮池)遺跡、西は鳥取遺跡、鳥取南遺跡に囲まれている。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。過去30数件に及ぶ調査が行われ、弥生時代の土器や石器が出土しているものの、その時代の遺構は検出されていない。しかし、多くの調査区から中世期の遺構、遺物が検出されていることから、この地を開墾し、人々の定住がはじまったのは中世期頃と考えられる。

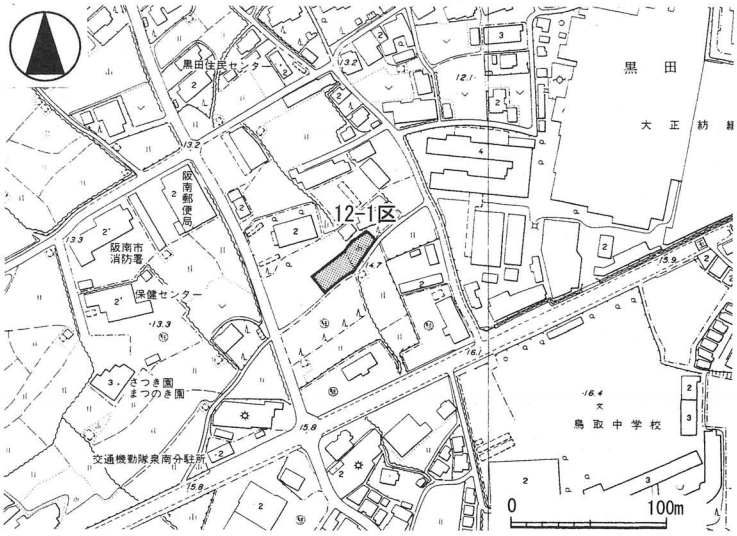
(1) 12-1区（第17～20図）

調査区は黒田南遺跡の北部に位置する。

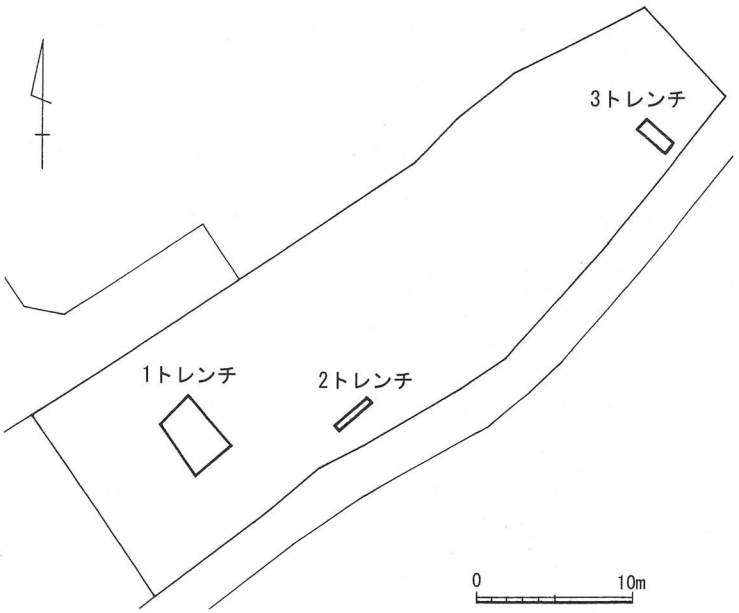
調査区に西から4.1m×2.7mの1トレンチ、2.8m×0.5mの2トレンチ、2.4m×0.7mの3トレンチを設定し調査を行った。

１トレンチの基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層灰黄褐色土10YR6/2、第5層にぶい黄褐色砂混粘質土10YR5/3、第6層灰黄褐色砂混粘質土10YR4/2、第7層オリーブ褐色砂混土2.5Y4/6。第8層は明黄褐色粘土10YR6/6の地山で地表面より約－1.20mで検出した。

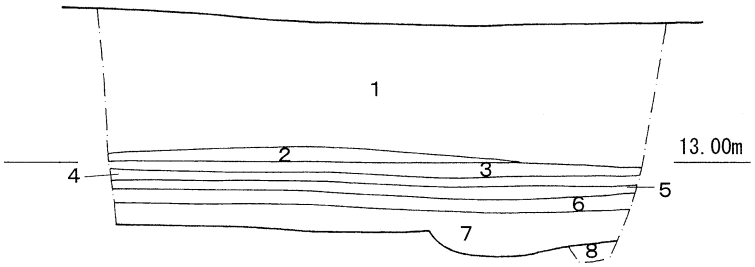
遺物は第4層から須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、製塩土器、磁器、中世瓦、第5層からサヌカイト製石鏃、須恵器、瓦器、土師質土器、陶器、第6層から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、製塩土器、スサ入り焼土塊が出土した。第4・5層

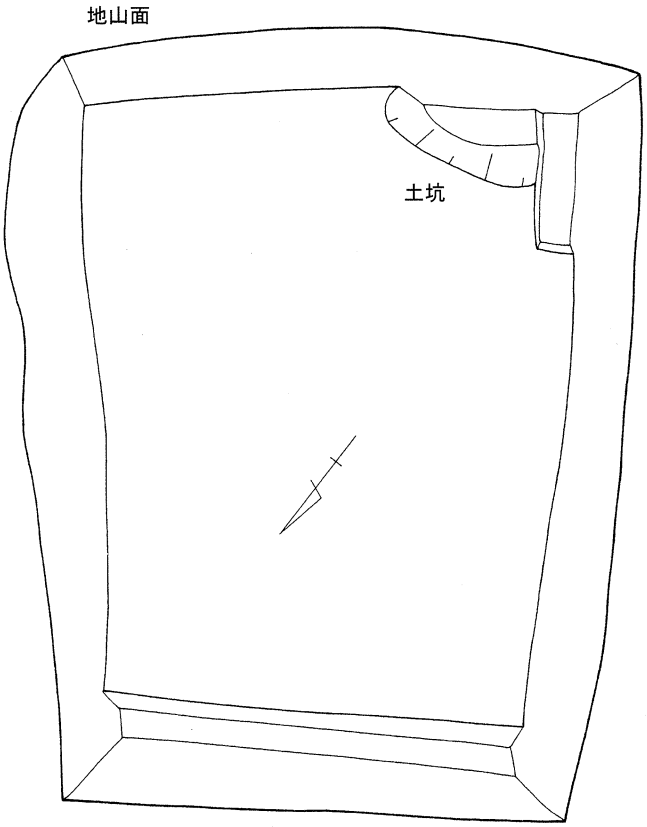


第 17 図 黒田南遺跡 調査区位置図



第 18 図 黒田南遺跡 12-1 区 トレンチ位置図





1 盛土
2 耕作土
3 床土
4 灰黄褐色土 10YR6/2
5 にぶい黄褐色砂混粘質土 10YR5/3
6 灰黄褐色砂混粘質土 10YR4/2
7 オリーブ褐色砂混土 2.5Y4/6
8 地山:明黄褐色粘土 10YR6/6

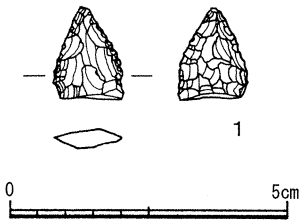
0 1m

第19図 黒田南遺跡12-1区 1トレンチ平面・断面図

は近世期、第6層は中世期と思われる。1はサヌカイトの石鏃で、基部は欠損している。第5層から出土した。

遺構は1トレンチ南端の地山面で土坑を1基検出した。東西1.00m以上、南北0.45m以上、深さ0.14mで南部はトレンチ外へ広がる。埋土は第7層と同じである。遺物は出土しなかったが、第6層が中世期であるため、中世期もしくは中世期以前の遺構と思われる。

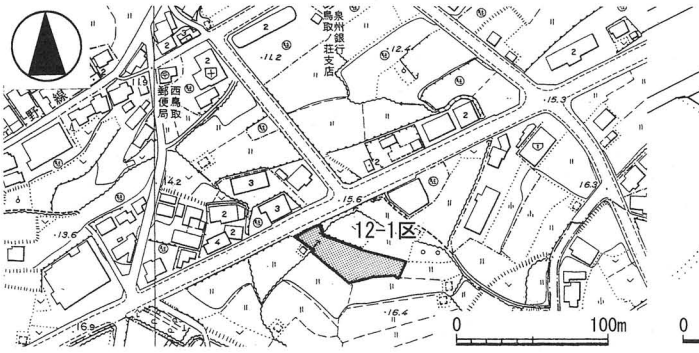
2･3トレンチについては工事で掘削が及ぶ深さが盛土内となっていたため、それ以下は確認していない。



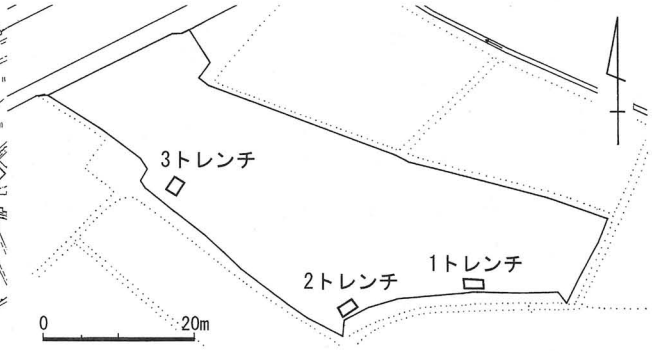
第20図 黒田南遺跡12-1区 出土遺物

第５節　鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、昭和63 (1988) 年度に阪南町教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。既往の調査では、弥生時代後期から中期にかけての遺構、遺物が検出されているが、遺跡の詳細な性格は現在のところ不明である。



第 21 図 鳥取南遺跡 調査区位置図



第 22 図 鳥取南遺跡 12-1 区 トレンチ位置図

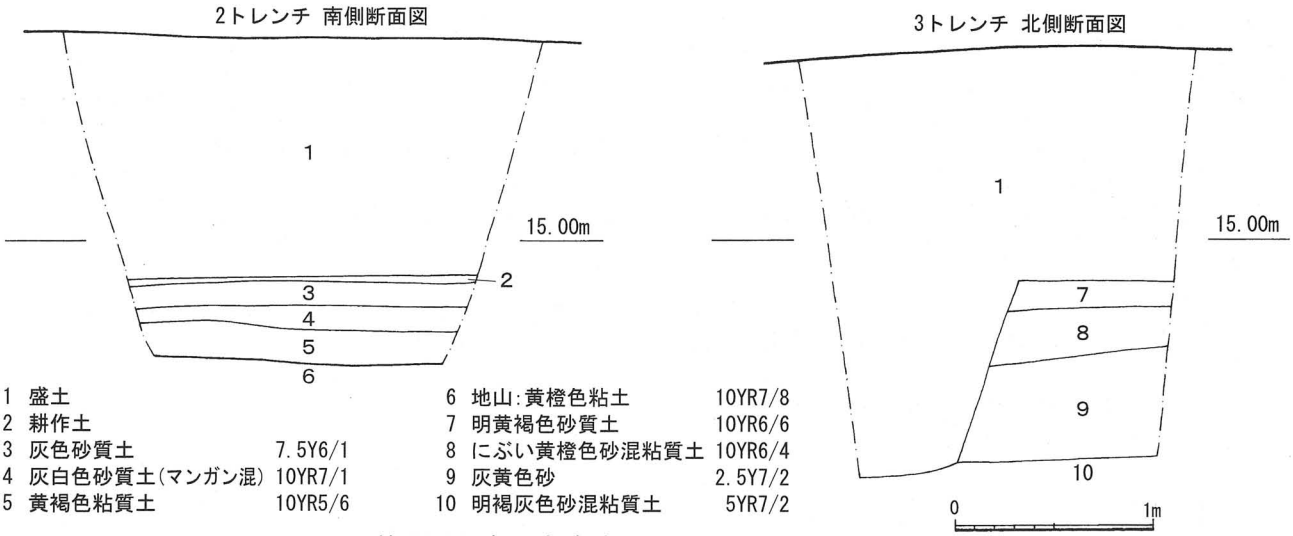
(1) 12-1区（第21～23図）

調査区は鳥取南遺跡の西端部に位置する。

調査区の南部に3ヶ所のトレンチを設定し、調査を行った。

1・2トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色砂質土7.5Y6/1、第4層マンガン混じりの灰白色砂質土10Y7/1である。2トレンチでは、地山上に黄褐色粘質土10YR5/6の層が存在する。地山は黄橙色粘土10YR7/8で、1トレンチでは地表面より約－1.50m、2トレンチでは地表面より約－1.70mで検出した。3トレンチは盛土以下、明黄褐色砂質土10YR6/6、にぶい黄橙色砂混粘質土10YR6/4、灰黄色砂2.5Y7/2、明褐灰色砂混粘質土5YR7/2であるが、周辺における既往の調査より、3トレンチ全体が流路内と思われる。

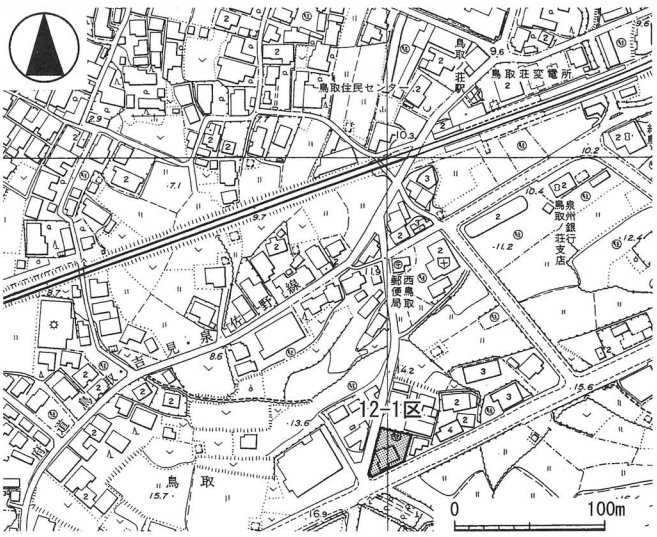
遺物は1・2トレンチの第3層より須恵器、瓦器、第4層より瓦器、土師質土器、瓦質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。第3・4層は中世期と思われる。



第 23 図 鳥取南遺跡 12-1 区 トレンチ断面図

第６節　西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は市域の東西に広がる平野部のほぼ中央部に位置する。昭和63 (1988) 年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その後、30数件の調査が行われており、中世期の流路と考えられる遺構やその時代の遺物が検出されているが、調査はすべて小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。



第 24 図 西鳥取遺跡 調査区位置図

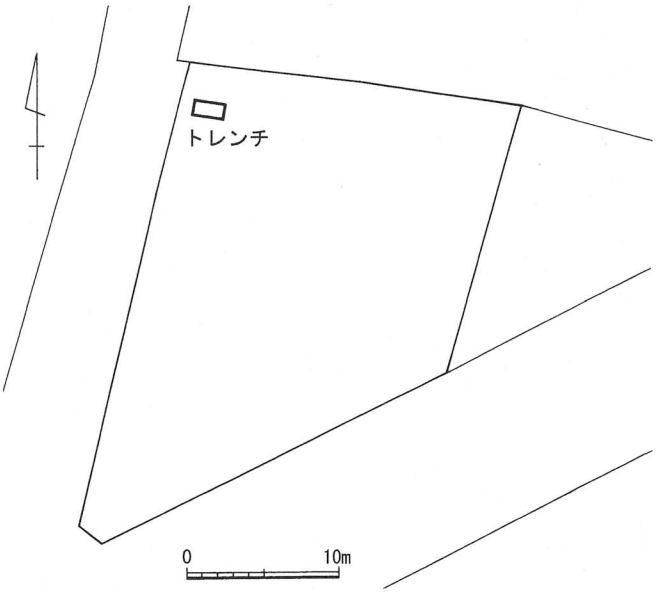
(1) 12-1区（第24～26図）

調査区は西鳥取遺跡の南部に位置する。

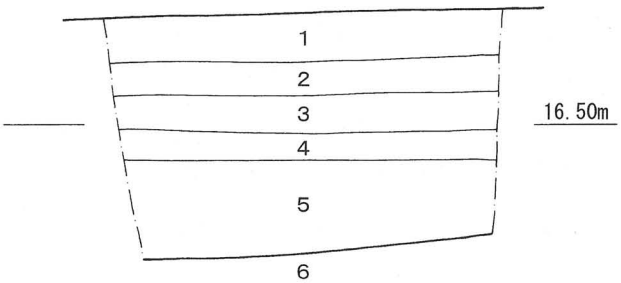
調査は調査区の北部に2.0m×1.0mのトレンチを設定し行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐色砂混土10YR4/6、第4層にぶい黄褐色砂混粘質土10YR5/4、第5層黄褐色粘質土10YR5/6、第6層マンガン混じりの明褐色粘質土7.5YR5/8である。第6層は地山で、地表面より約－1.20mで検出した。いずれの層からも遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

遺構は検出されなかった。



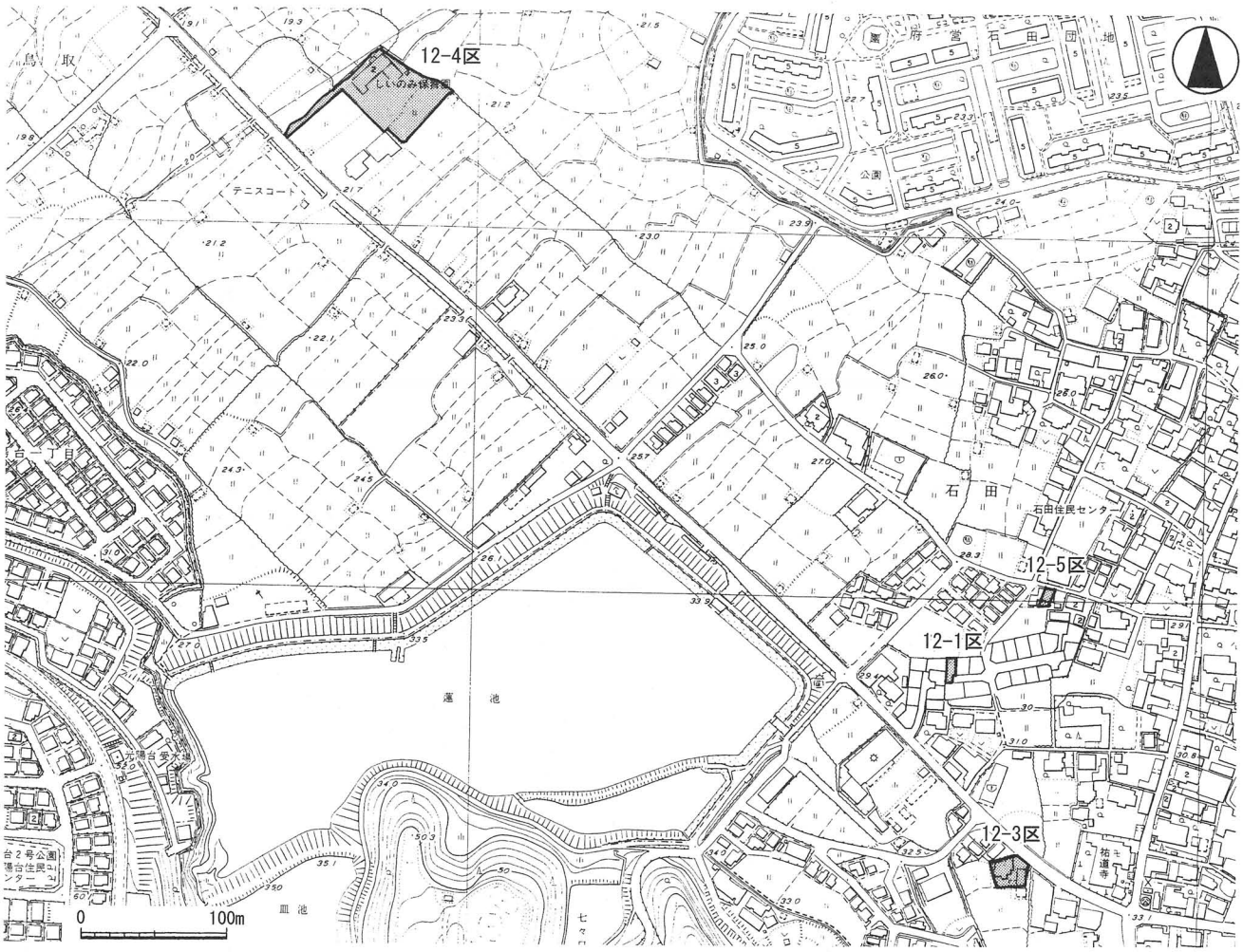
第 25 図 西鳥取遺跡 12-1 区 トレンチ位置図



1 盛土
2 耕作土
3 褐色砂混土　10YR4/6
4 にぶい黄褐色砂混粘質土　10YR5/4
5 黄褐色粘質土　10YR5/6
6 地山：明褐色粘質土（マンガン混）7.5YR5/8

0　1m

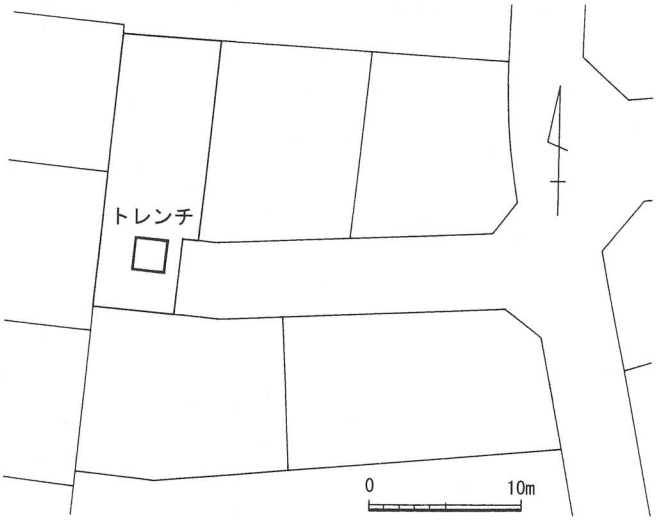
第 26 図 西鳥取遺跡 12-1 区 トレンチ北側断面図



第 27 図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図

第７節　神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は市内で古くから知られている縄文時代草創期から近世期にかけての複合遺跡である。東西約700m、南北約800mに亘り、遺跡の中央部には市内最大の灌漑用溜池である蓮池が存在し、池底から採取されたサヌカイト製有茎尖頭器は、現在のところ市内で最古の遺物となっている。既往の調査において、弥生時代中期の方形周溝墓が検出されている他、当遺跡の南部に位置する波太神社の神宮寺であった神光寺の瓦が出土していることも特筆される。



第 28 図 神光寺(蓮池)遺跡 12-1 区 トレンチ位置図

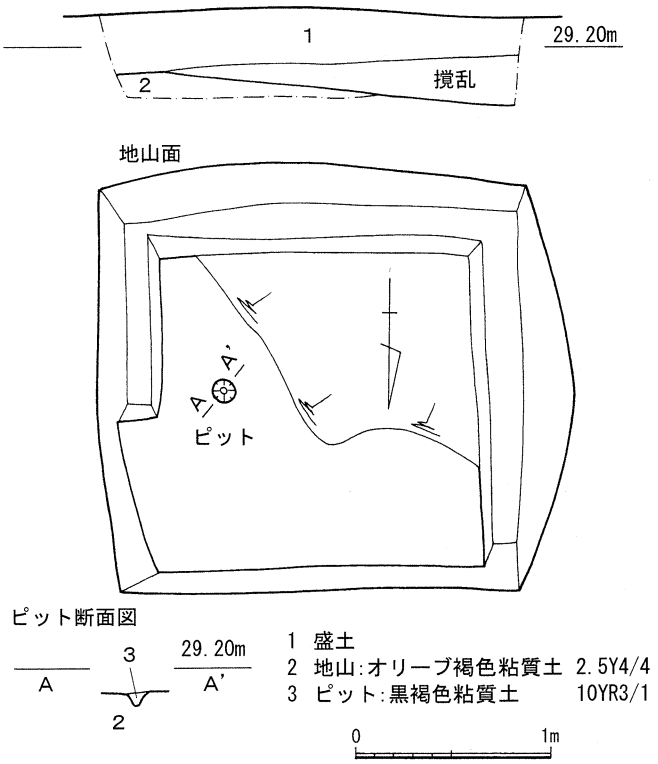
(1) 12-1区 (第27～29図)

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部に位置する。

調査区の南部に2.3m×2.2mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層オリーブ褐色粘質土2.5Y4/4の地山である。地山は地表面より約－0.35mで検出した。

遺構は地山面で直径0.13m、深さ0.07mのピットを1基検出した。埋土は黒褐色粘質土10YR3/1である。遺物は出土しなかったため、時代は不明である。



第29図 神光寺(蓮池)遺跡12-1区 トレンチ平面・断面図

(2) 12-3区 (第27・30・31図)

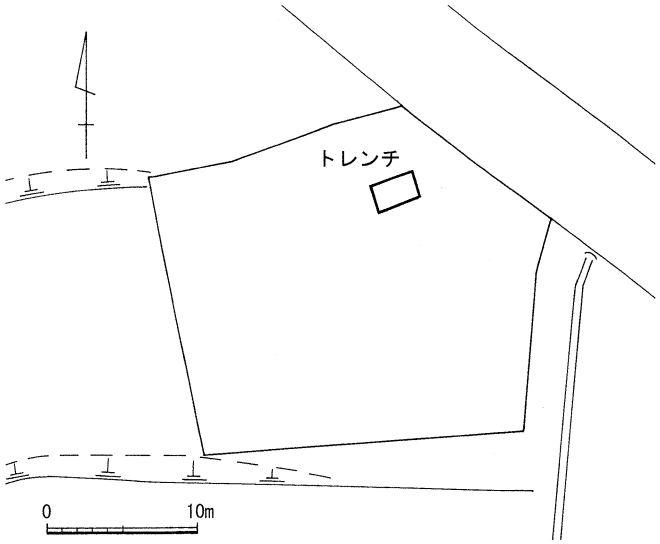
調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部に位置する。

調査区の北部に3.0m×1.8mのトレンチを設定し、調査を行った。

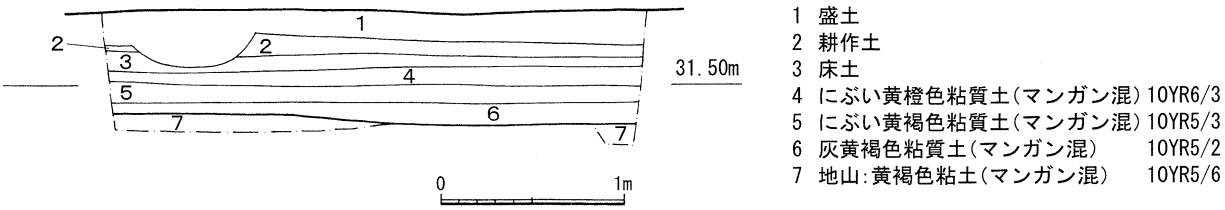
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層マンガン混じりのにぶい黄橙色粘質土10YR6/3、第5層マンガン混じりのにぶい黄褐色粘質土10YR5/3、第6層マンガン混じりの灰黄褐色粘質土10YR5/2、第7層マンガン混じりの黄褐色粘土10YR5/6である。第7層は地山で、地表面より約－0.60mで検出した。

遺物は第4層から瓦器、土師質土器、第5層から須恵器、瓦器、土師質土器、第6層から須恵器、土師質土器が出土した。いずれも中世期の包含層である。

遺構は検出されなかった。



第30図 神光寺(蓮池)遺跡12-3区 トレンチ位置図



第31図 神光寺(蓮池)遺跡12-3区 トレンチ北側断面図

(3) 12-4区（第27・32・33図）

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の北西部に位置する。

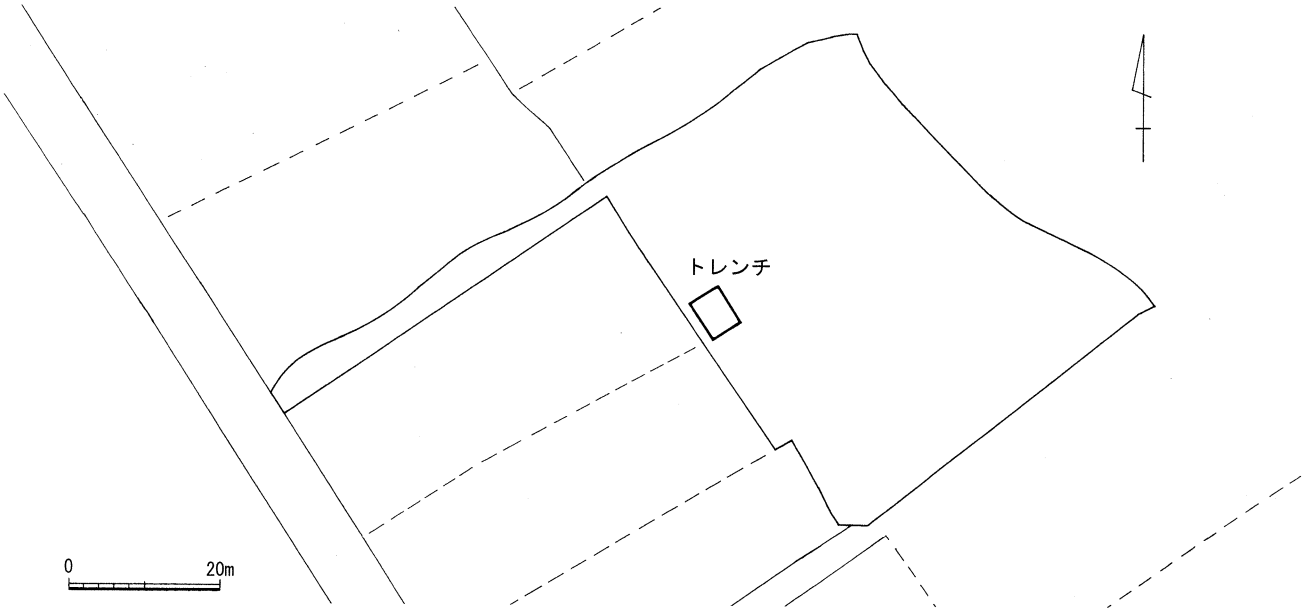
調査は調査区の西部に5.8m×4.2mのトレンチを設定し行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層浅黄色土2.5Y7/3、第5層マンガン混じりの灰白色粘質土2.5Y7/1、第6層明黄褐色粘質土2.5Y7/6、第7層にぶい黄橙色粘土10YR6/4である。第6層以下は地山で、地表面より約－1. 05mで検出した。

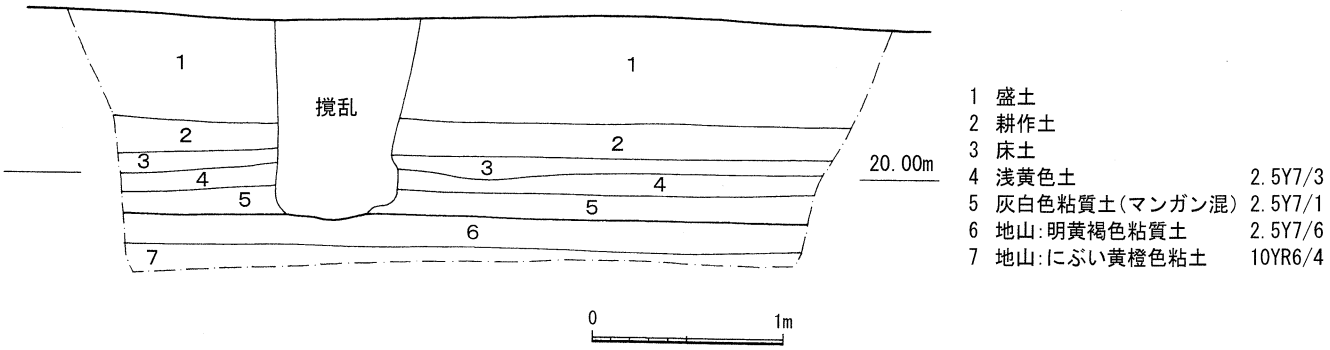
遺物は第4層から須恵器、瓦器、土師質土器、焼締陶器、第5層から須恵器、土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。いずれも中世期の包含層である。

遺構は検出されなかった。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこととなった。



第 32 図 神光寺(蓮池)遺跡 12-4 区 トレンチ位置図



第 33 図 神光寺(蓮池)遺跡 12-4 区 トレンチ西側断面図

(4) 12-5区（第27・34・35図）

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部に位置する。

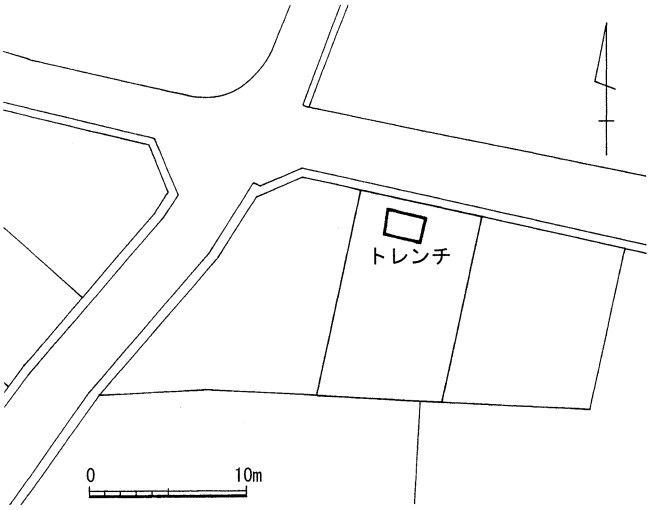
調査区の北部に2.55m×1.60mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層床土、第3層灰褐色砂質土7.5YR4/2、第4層黄褐色土

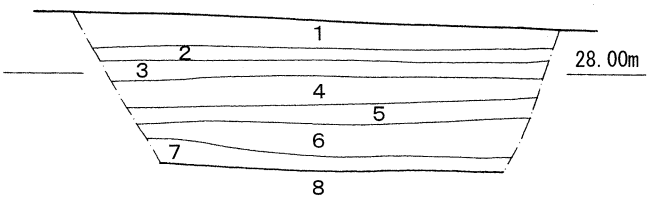
10YR5/6、第5層褐灰色土10YR4/1、第6層マンガン混じりの灰褐色礫混土5YR4/2、第7層褐灰色粘質土7.5YR4/1、第8層は明褐色粘質土7.5YR5/6の地山で、地表面より約－0.80mで検出した。

遺物は第3層から土師質土器、スサ入り焼土塊、第4層から土師質土器、瓦質土器、スサ入り焼土塊、第5層から瓦器、土師質土器、第6層から黒色土器、瓦器、土師質土器、第7層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質管状土錘が出土した。隣接する既往調査の11-1区では、第3層から近世の磁器が出土していることから第3層は近世期、第4層以下は中世期と思われる。

遺構は検出されなかったが、第7層は隣接する既往の調査11-2区で検出された石敷き土坑の埋土と同じため、トレンチ全体が土坑内になると思われる。また、トレンチ北西部の地山面で、直径10ｃｍ程度の石を検出しており、その石敷きの一部である可能性がある。



第34図 神光寺(蓮池)遺跡12-5区 トレンチ位置図



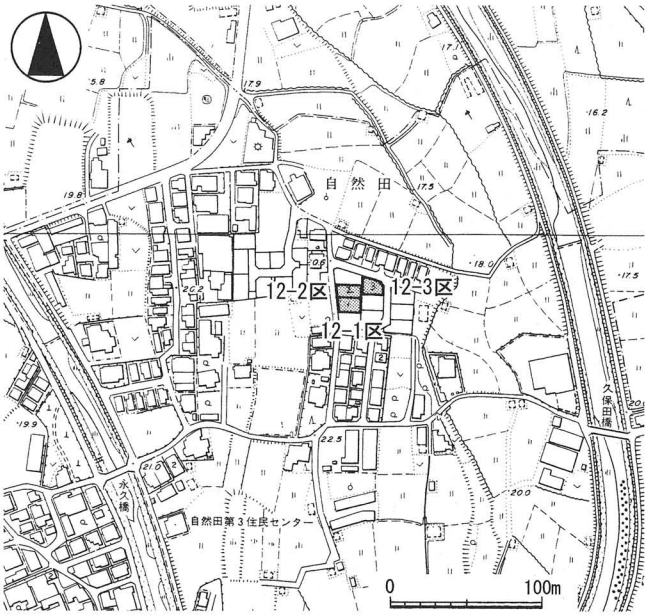
1 盛土
2 床土
3 灰褐色砂質土 7.5YR4/2
4 黄褐色土 10YR5/6
5 褐灰色土 10YR4/1
6 灰褐色礫混土(マンガン混) 5YR4/2
7 褐灰色粘質土 7.5YR4/1
8 地山:明褐色粘質土 7.5YR5/6

0 1m

第35図 神光寺(蓮池)遺跡12-5区 トレンチ北側断面図

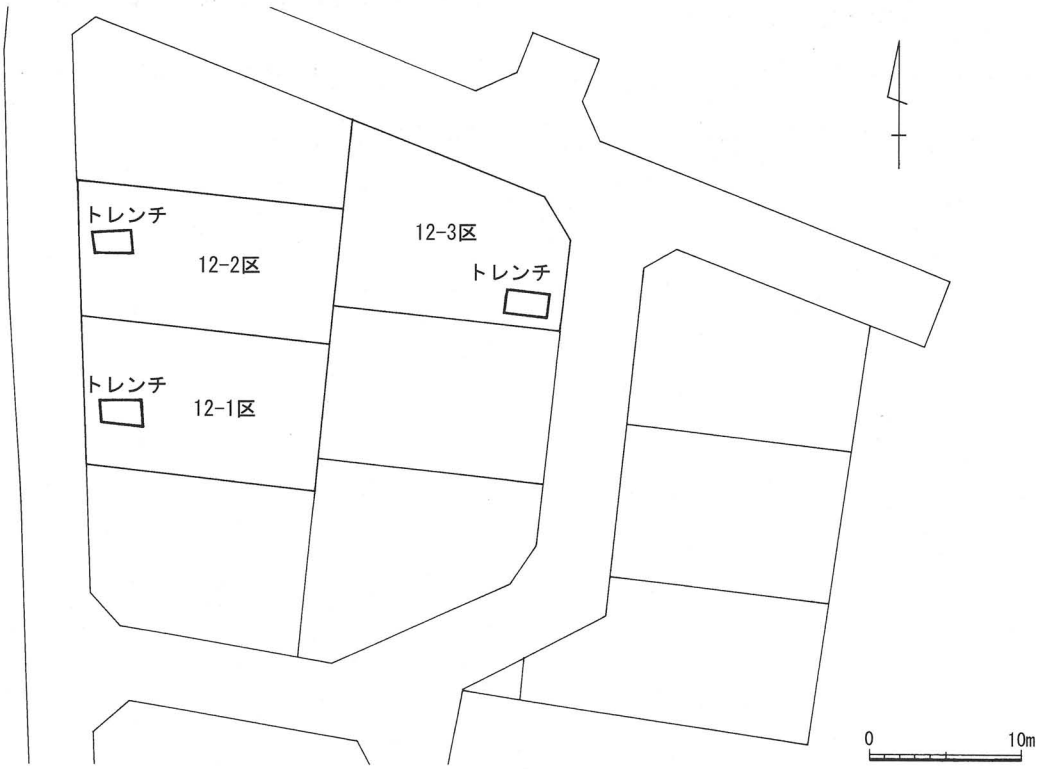
第８節　向出遺跡

向出遺跡は、阪南市の東部を流れる男里川の支流である山中川と菟砥川に挟まれた河岸段丘とその氾濫原に位置する。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。遺跡は東西約300m、南北約500mと阪南市内では比較的大きく、遺跡の北部は調査件数が少ないため詳細は不明であるが、中央部で行った00-2区と06-1区の調査では、古墳時代中期の竪穴住居が各1棟確認された。南部では、平成9(1997)年に(財)大阪府文化財センターが行った国道26号線(第2阪和国道)延長工事に先立つ事前調査で、縄文時代後期から晩期の西日本最大級の土坑墓群が検出されている。



第 36 図 向出遺跡 調査位置図

また、遺跡の南部からは中世瓦が出土しているものの、寺院等に関連する遺構は、現在のところ確認されていない。



第 37 図 向出遺跡 12-1・12-2・12-3 区 トレンチ位置図

(1) 12-1区（第36～38図）

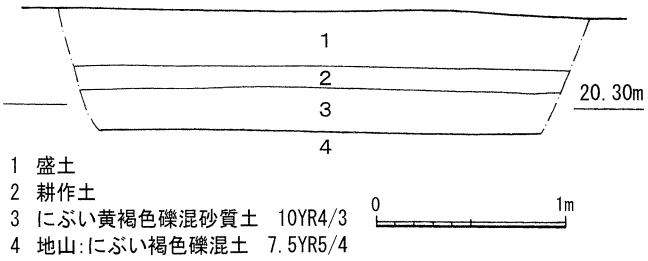
調査区は向出遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区の西部に2.8m×1.5mのトレンチを設定し行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層にぶい黄褐色礫混砂質土10YR4/3。第4層にぶい褐色礫混土7.5YR5/4は地山で、地表面より約－0.65mで検出した。

遺物は第3層から湊焼が出土した。

遺構は検出されなかった。

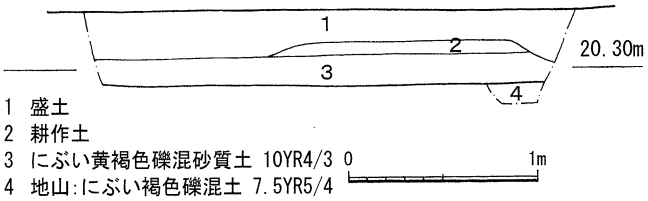


第38図 向出遺跡12-1区 トレンチ北側断面図

(2) 12-2区（第36・37・39図）

調査区は向出遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区の西部に2.6m×1.5mのトレンチを設定し行った。



第39図 向出遺跡12-2区 トレンチ南側断面図

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層にぶい黄褐色礫混砂質土10YR4/3、第4層はにぶい褐色礫混土7.5YR5/4の地山で、地表面より約－0.40mで検出した。

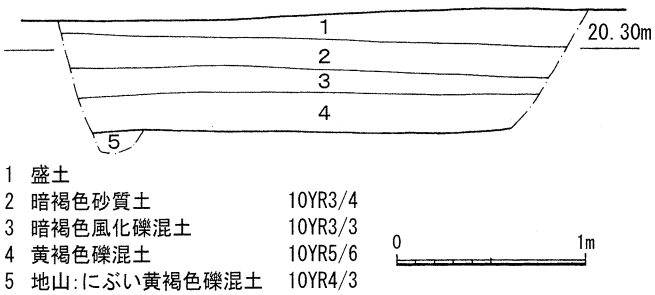
遺物は第3層から須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器が出土したが、12-1区及び隣接する既往の調査から、第3層は近世期の包含層である。

遺構は検出されなかった。

(3) 12-3区（第36・37・40図）

調査区は向出遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区の東部に2.8m×1.6mのトレンチを設定し行った。



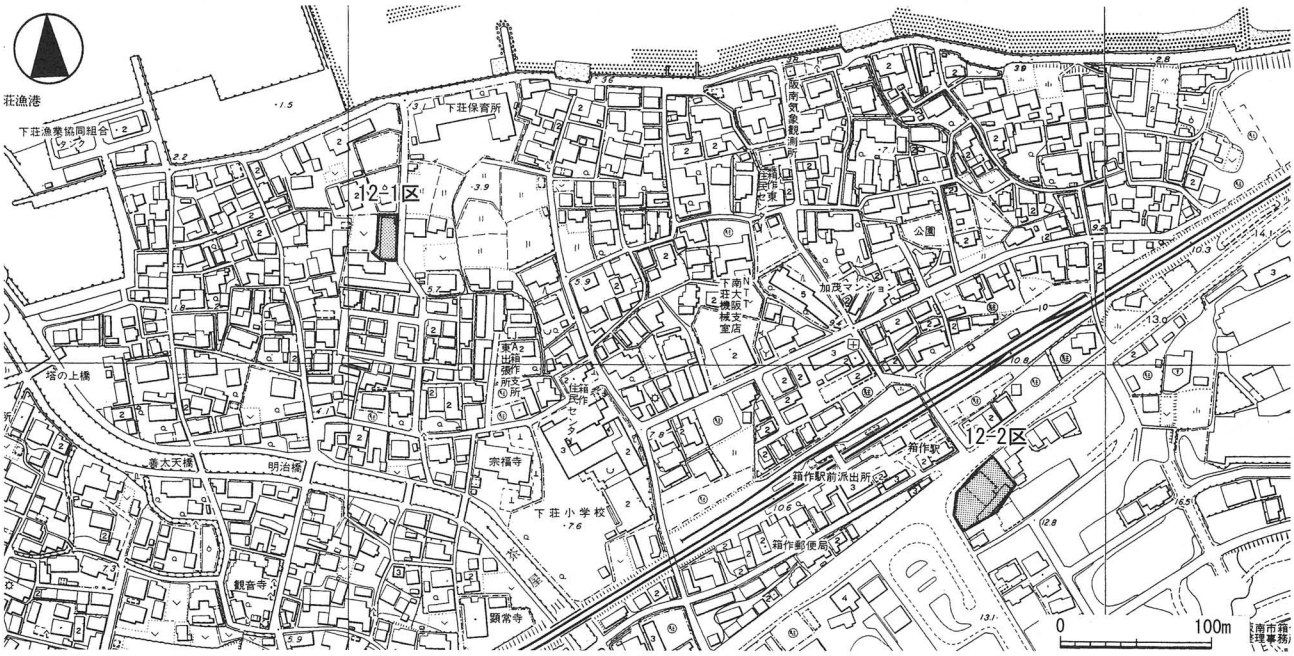
第40図 向出遺跡12-3区 トレンチ南側断面図

基本層序は第1層盛土、第2層暗褐色砂質土10Y3/4、第3層暗褐色風化礫混土10YR3/3、第4層黄褐色礫混土10YR5/6。第5層はにぶい黄褐色礫混土10YR4/3の地山で、地表面より約－0.60mで検出した。

遺物は第3層から土師器が出土しているが、隣接する既往の調査区である88-1区、08-3区、10-1区では、第3・4層は中世期の溝の埋土であることが確認されているため、トレンチ全体が中世期の溝の中に位置する。

第９節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部に位置し、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に位置する。平成5(1993)年に(財)大阪府文化財調査研究センターが区画整理事業に伴った調査を遺跡の南部で行い、その調査により奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕地化されたことが分かっている。北部は海岸線に近いことから中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁労集落の存在が想定されるものの、旧市街のために調査例は少なく、現在のところ遺跡の詳細は不明である。



第 41 図 箱作今池遺跡 調査区位置図

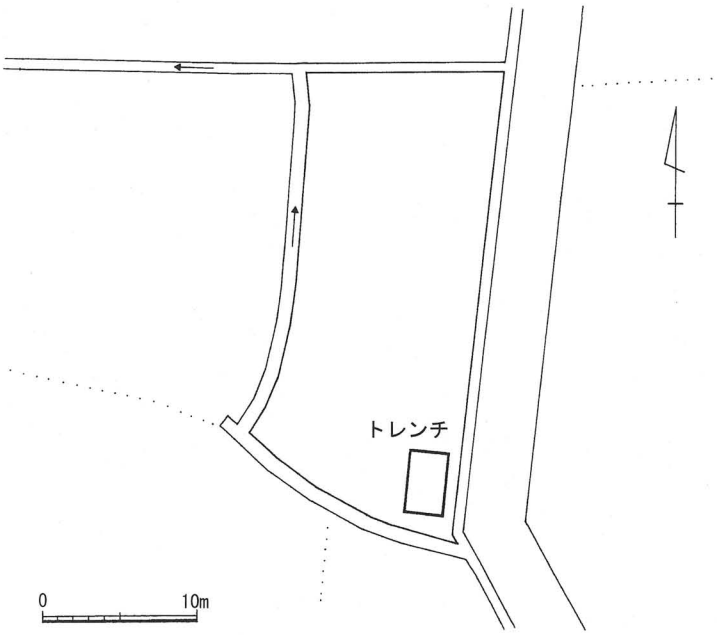
(1) 12-1区（第41～43図）

調査区は箱作今池遺跡の北西部に位置する。

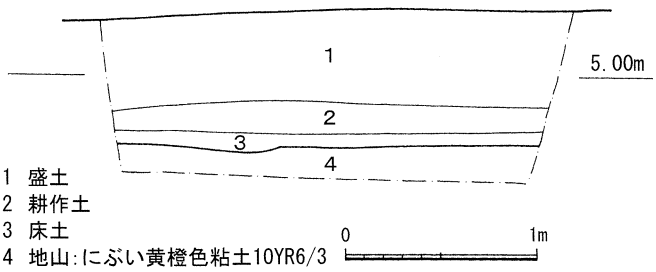
調査区の南部に4.1m×2.5mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層にぶい黄橙色粘土10YR6/3の地山である。地山は地表面より約－0.70mで検出した。

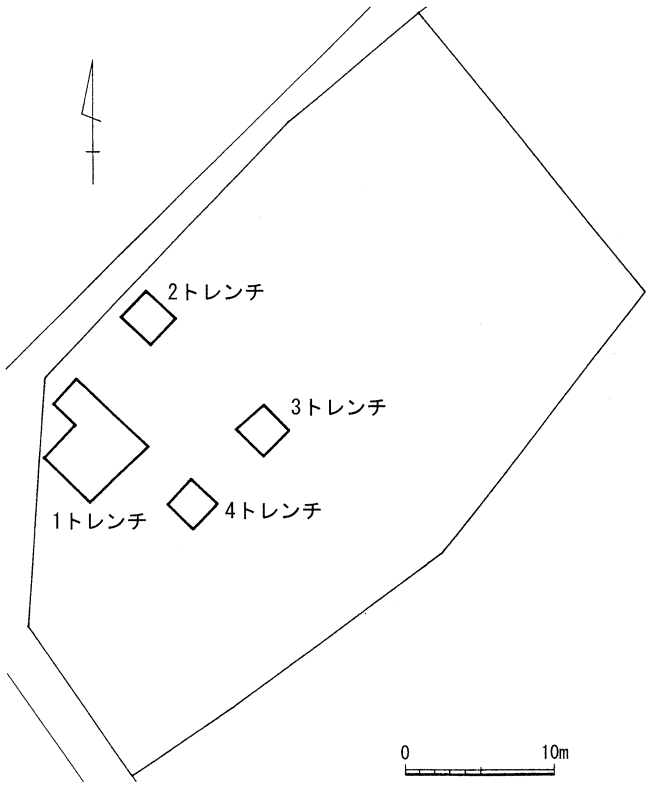
遺構、遺物ともに検出されなかった。



第 42 図 箱作今池遺跡 12-1 区 トレンチ位置図



第43図 箱作今池遺跡12-1区 トレンチ南側断面図



第44図 箱作今池遺跡12-2区 トレンチ位置図

(2) 12-2区（第41・44～47図）

調査区は箱作今池遺跡の中央部に位置する。

調査区に4か所のトレンチを設定し、全体で46.50㎡の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層明褐色砂混粘質土7.5YR5/6、第3層暗褐色砂混粘質土10YR3/3、第4層褐色粘質土10YR4/4、第5層明黄褐色粘土10YR6/6の地山である。地山は地表面から約－0.50mで検出した。

遺物は第3層から須恵器、土師質土器、土師質真蛸壺、第4層から土師器、須恵器、製塩土器、黒色土器、瓦器、土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。第3・4層とも中世期の包含層と思われる。

遺構は地山面で土坑3基、ピット3基を検出した。

土坑1

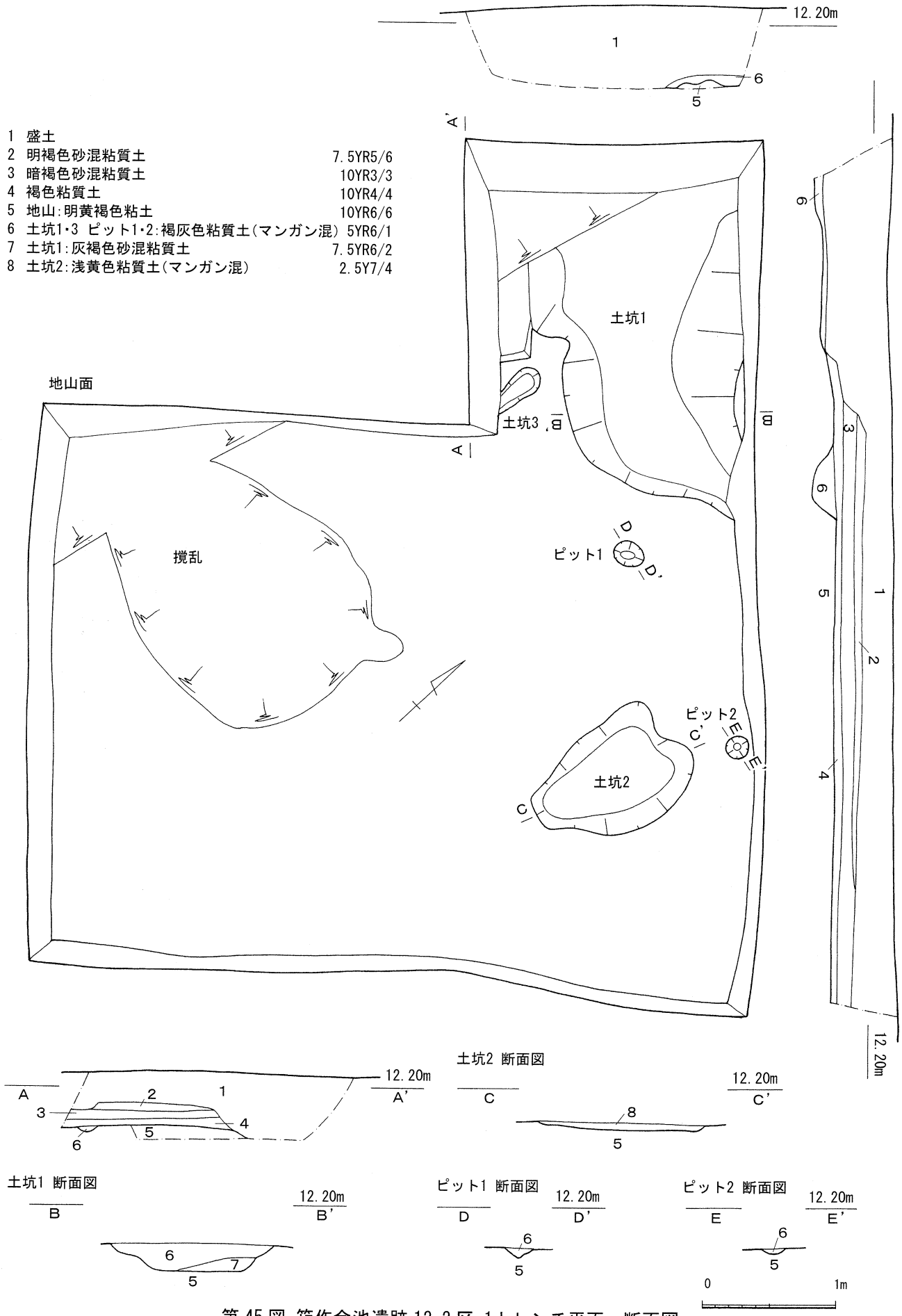
1トレンチの北部で検出した。東西1.60m以上、南北2.60m以上で、埋土は上層がマンガン混じりの褐灰色粘質土5YR6/1、下層が灰褐色砂混粘質土7.5YR6/2である。深さは0.20mであるが、北西部は大きく削平されている。遺物は上層、下層からそれぞれ土師器、須恵器、製塩土器が出土した。奈良時代の遺構と思われる。1は砲弾型の製塩土器で上層から出土した。2は土師器の皿、3は須恵器の杯身で、下層から出土した。

土坑2

1トレンチの東部で検出した。東西0.81m、南北1.25m、深さ0.05mを測る。埋土はマンガン混じりの浅黄色粘質土2.5Y7/4で、遺物は出土しなかったが覆土の褐色粘質土10YR4/4が中世期であるため、中世期もしくはそれ以前の遺構と思われる。

土坑3

1トレンチの北部で検出した。東西0.22m、南北0.45m以上、深さ0.05mを測り、南部はトレンチ外へ広がる。遺物は出土しなかったが、埋土が土坑1の上層と同じマンガン混じりの褐灰色粘質土5YR6/1のため、奈良時代の遺構と思われる。



第45図 箱作今池遺跡12-2区 1トレンチ平面・断面図

ピット1

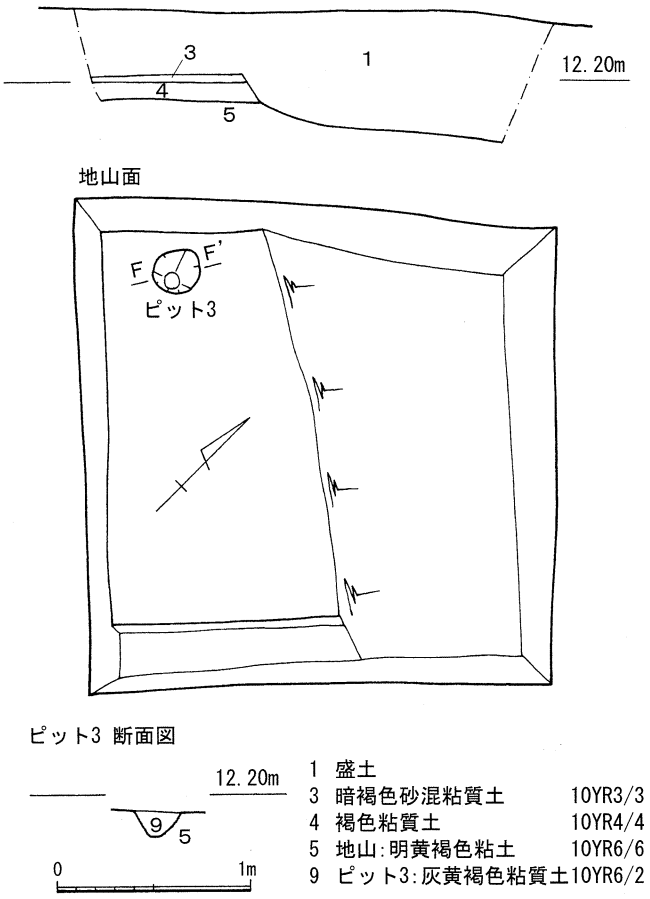
1トレンチの北部、土坑1の南側で検出した。直径0.2m、深さ0.08mを測る。遺物は出土しなかったが、埋土が土坑1の上層と同じマンガン混じりの褐灰色粘質土5YR6/1のため、奈良時代の遺構と思われる。

ピット2

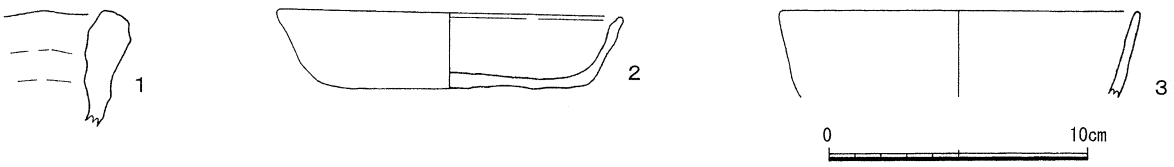
1トレンチの土坑2の北側で検出した。直径0.16m、深さ0.05mを測り、遺物は土師器が出土した。埋土は土坑1の上層と同じマンガン混じりの褐灰色粘質土5YR6/1である。奈良時代の遺構と思われる。

ピット3

3トレンチで検出した。直径0.22m、深さ0.12mを測り、埋土は灰黄褐色粘質土10YR6/2である。遺物は出土しなかったが、覆土の褐色粘質土10YR4/4が中世期であるため、中世期もしくはそれ以前の遺構と思われる。



第46図 箱作今池遺跡12-2区 3トレンチ平面・断面図



第47図 箱作今池遺跡12-2区 出土遺物

第10節　田山東遺跡

田山東遺跡は昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その後の既往調査では、土錘や蛸壺等の漁労関連遺物や中国産の青磁や白磁等の輸入陶磁器が出土しているものの、遺跡の詳細な性格は不明である。しかし、当遺跡の西側に隣接している田山遺跡でも同様の遺物が数多く出土しており、当時中国との貿易に何らかの関係があったものと推測されることから、単なる漁労関連集落にはとどまらないであろうと思われる。また、平成6(1994)年度の調査で、中世期の土師質真蛸壺焼成遺構が検出されていることが特筆される。

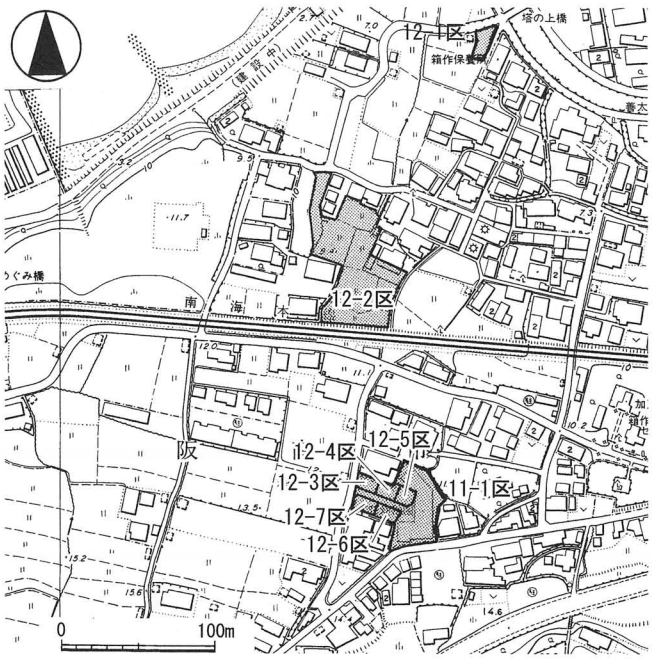
(1) 12-1区（第48～50図）

調査区は田山東遺跡の北部に位置する。

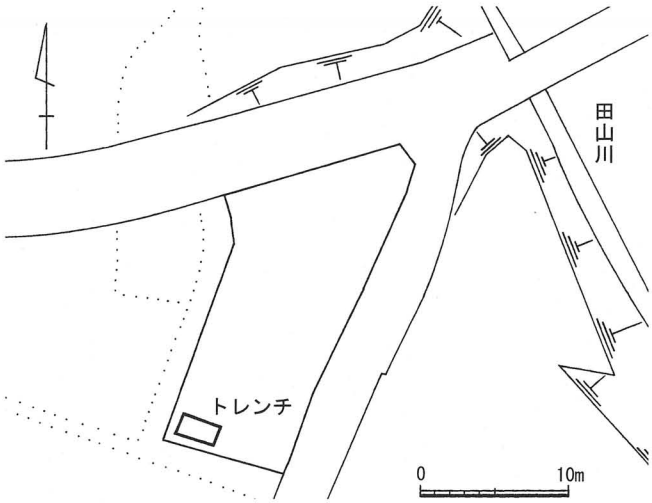
調査区の南部に1.5m×2.7mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層黄褐色礫混土10YR5/6、第3層褐色粘質土10YR4/6で、第2・3層は地山である。地山は地表面より約－0.20mで検出した。

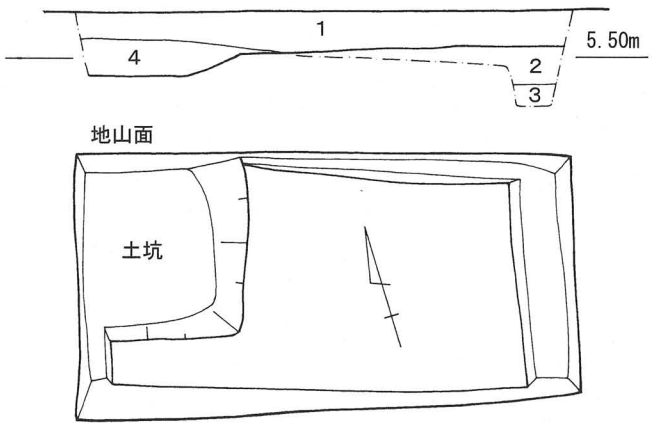
遺構は地山面で土坑を1基検出した。東西0.90m以上、南北1.00m以上、深さ0.20mで、北西部はトレンチ外へ広がる。埋土は褐灰色砂質土10YR5/1である。遺物は土師質土器が出土したが小片のため、時代については明確に判断することができない。



第48図 田山東遺跡 調査区位置図



第49図 田山東遺跡 12-1区 トレンチ位置図



1 耕作土
2 地山:黄褐色礫混土　10YR5/6
3 地山:褐色粘質土　10YR4/6
4 土坑:褐灰色砂質土　10YR5/1

第50図 田山東遺跡 12-1区 トレンチ平面・断面図

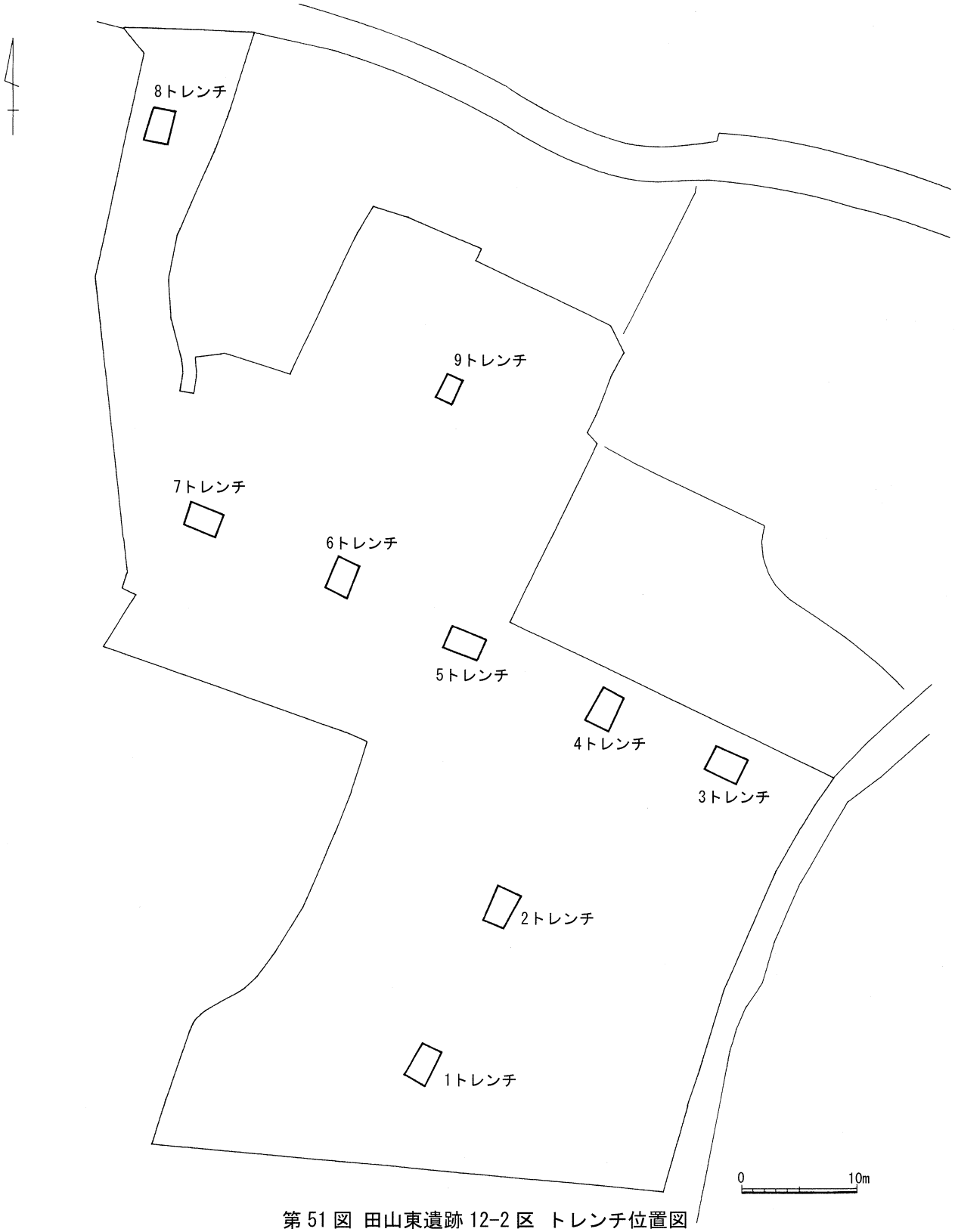
(2) 12-2区（第48・51～55図）

調査区は田山東遺跡の西端部に位置する。

調査区内に9ヶ所のトレンチを設定し、全体で56.12㎡の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層地山である。

1トレンチでは第3層と地山の間ににぶい黄褐色砂質土10YR4/3、灰黄褐色砂質土



第51図 田山東遺跡12-2区 トレンチ位置図

10YR5/2、2トレンチでは灰黄褐色砂質土10YR5/2、マンガン混じりの黄灰色砂質土2.5Y5/1、3トレンチではマンガン混じりの灰黄褐色砂質土10YR4/2、6トレンチでは暗灰黄色砂質土2.5Y4/2、7トレンチでは暗灰黄色砂質土2.5Y4/2、マンガン混じりの灰黄色砂質土2.5Y6/2、褐色粘質土10YR4/6、8トレンチでは褐色粘質土10YR4/6が存在する。

遺物は1トレンチのにぶい黄褐色砂質土10YR4/3から土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、スサ入り焼土塊、1・2トレンチの灰黄褐色砂質土10YR5/2から須恵器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、瓦質土器、青磁、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、陶器、中世瓦、スサ入り焼土塊、2トレンチのマンガン混じりの黄灰色砂質土2.5Y5/1から土師質土器、土師質真蛸壺、3トレンチのマンガン混じりの灰黄褐色砂質土10YR4/2から瓦器、土師質土器、スサ入り焼土塊、7トレンチの暗灰黄色砂質土2.5Y4/2から土師質土器、焼締陶器、スサ入り焼土塊、マンガン混じりの灰黄色砂質土2.5Y6/2から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊、鉄釘、7・8トレンチの褐色粘質土10YR4/6から須恵器、瓦器、土師質土器、スサ入り焼土塊が出土した。1・2トレンチの灰黄褐色砂質土10YR5/2は近世期。それ以外は中世期の包含層と思われる。1・2は瓦質羽釜、3は土師質管状土錘で1トレンチのにぶい黄褐色砂質土10YR4/3から、4は東播系の須恵質捏鉢、5は土師質管状土錘で1トレンチの灰黄褐色砂質土10YR5/2から、20・23は土師質土器の皿で、20は2トレンチのマンガン混じりの黄灰色砂質土2.5Y5/1から、23は7トレンチの褐色粘質土10YR4/6から出土した。

遺構は2・8トレンチ以外で、溝1条、土坑9基、ピット3基、落ち込み4基を検出した。

溝1

1トレンチのにぶい黄褐色砂質土10YR4/3除去後に検出した東西方向の溝である。長さ1.80m以上、深さ0.40mで、北部は後世の畔に伴う溝に切られている。埋土は上層がマンガン混じりの褐灰色粘質土10YR4/1、下層は黒褐色粘質土2.5Y3/1で炭化物が混じる。

遺物は上下層から土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、土師質真蛸壺、土師質及び瓦質の管状土錘、中世瓦、スサ入り焼土塊等が出土した。中世期の遺構である。6は瓦質羽釜、7は施釉陶器の皿、8・9は土師質真蛸壺、10～19は管状土錘で、10～18は土師質、19は瓦質である。6～15は上層から、16～19は下層から出土した。

土坑1

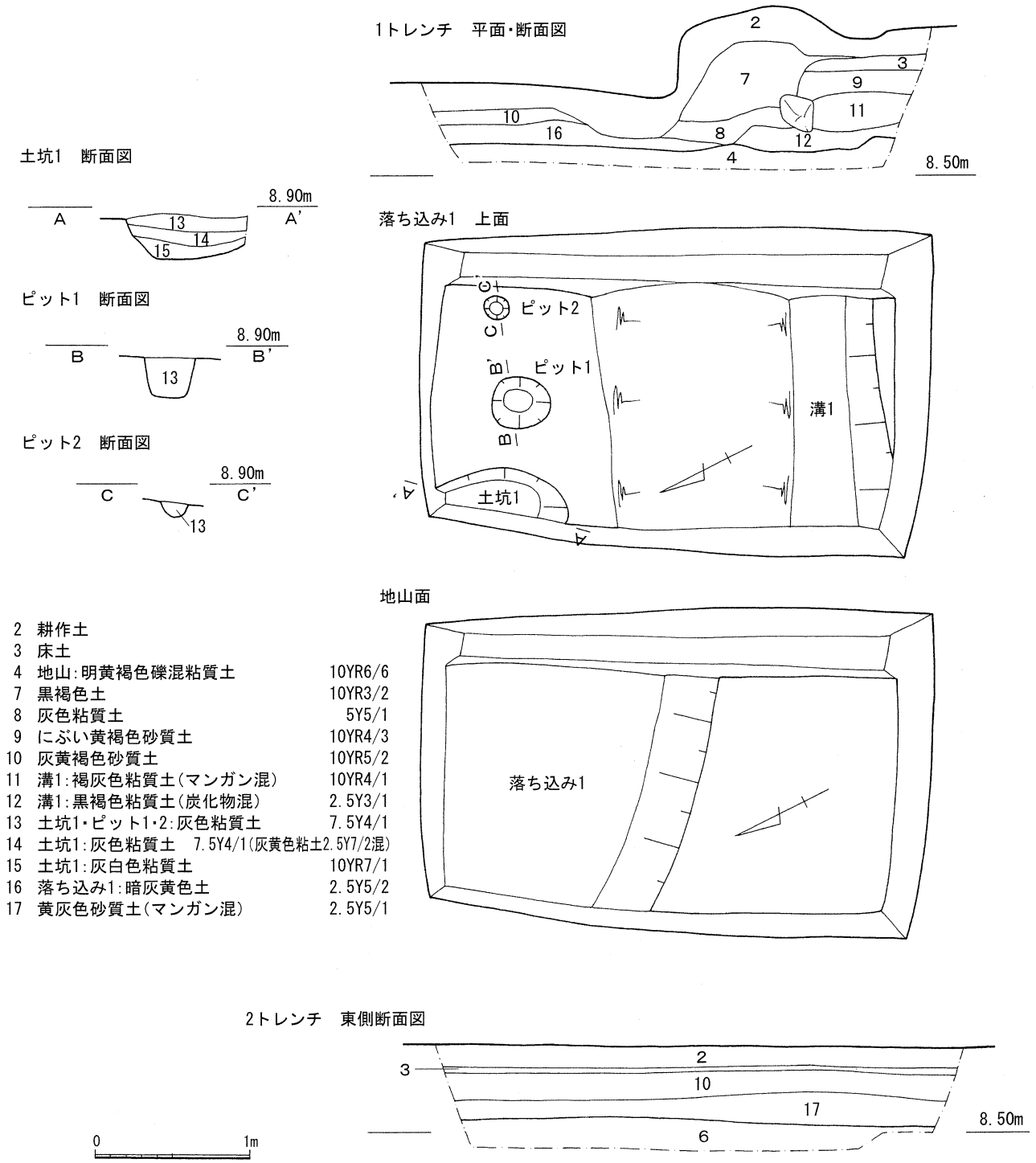
1トレンチの落ち込み1の上面で検出した。東西0.30m以上、南北0.90m以上、深さ0.30mで、北部はトレンチ外へ広がる。埋土は第1層灰色粘質土7.5Y4/1、第2層灰黄色粘土2.5Y7/2混じりの灰色粘質土7.5Y4/1、第3層灰白色粘質土10YR7/1である。遺物は瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊が出土したが、小片のため図化できなかった。中世期の遺構である。

土坑2

3トレンチの地山面で検出した。南部は撹乱により大きく削平されている。埋土は炭化物の混じる黒褐色粘質土2.5Y3/2で、瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、中世瓦、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の遺構である。

土坑3

4トレンチの地山面で検出した。東西0.25m以上、南北0.63m以上、深さ0.03mで、西部はトレンチ外へ広がる。埋土は暗灰黄色粘質土2.5Y4/2で、遺物は出土しなかったが、



第52図 田山東遺跡12-2区 1・2トレンチ平面・断面図

土坑4と同じ埋土のため中世期の遺構である。

土坑4

4トレンチの地山面で検出した。東西1.90m以上、南北0.90m以上、深さ0.08mで、北部はトレンチ外へ広がる。埋土は暗灰黄色粘質土2.5Y4/2で、遺物は瓦器、土師質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、中世瓦、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の遺構である。

土坑5

5トレンチの地山面で検出した。東西0.38m以上、南北0.40m以上、深さ0.06mで、埋土は4トレンチの土坑3・4と同じ暗灰黄色粘質土2.5Y4/2である。遺物は瓦器、土師質土器、瓦質土器が出土した。中世期の遺構である。

土坑6

5トレンチの地山面で検出した不定形土坑で、深さ0.06mを測り、北部はトレンチ外へ広がる。埋土は黄灰色砂質土2.5Y4/1で炭化物が混じる。遺物は瓦器、土師質土器、瓦質土器、砂岩製の砥石が出土した。中世期の遺構である。

土坑7

6トレンチの地山面で検出した。東西0.40m以上、南北0.95m以上、深さ0.43mで、北部はトレンチ外へ広がる。埋土は炭化物の混じるにぶい黄褐色砂質土10YR4/3である。遺物は出土しなかったが、上層の落ち込み3が中世期のため、中世期もしくはそれ以前の遺構である。

土坑8

6トレンチの地山面で検出した。東西0.80m以上、南北1.45m以上、深さ0.24mを測り、東部はトレンチ外へ広がる。埋土はマンガン混じりの灰黄褐色砂質土10YR6/2で、炭化物も混じる。遺物は出土しなかったが、上層の落ち込み3が中世期のため、中世期もしくはそれ以前の遺構である。

土坑9

7トレンチの暗灰黄色砂質土2.5Y4/2の上面で検出した。サブトレンチで検出したため全容は不明である。幅0.85m以上、深さ0.13mを測る。埋土は褐灰色土5YR4/1で、炭化物が混じる。遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

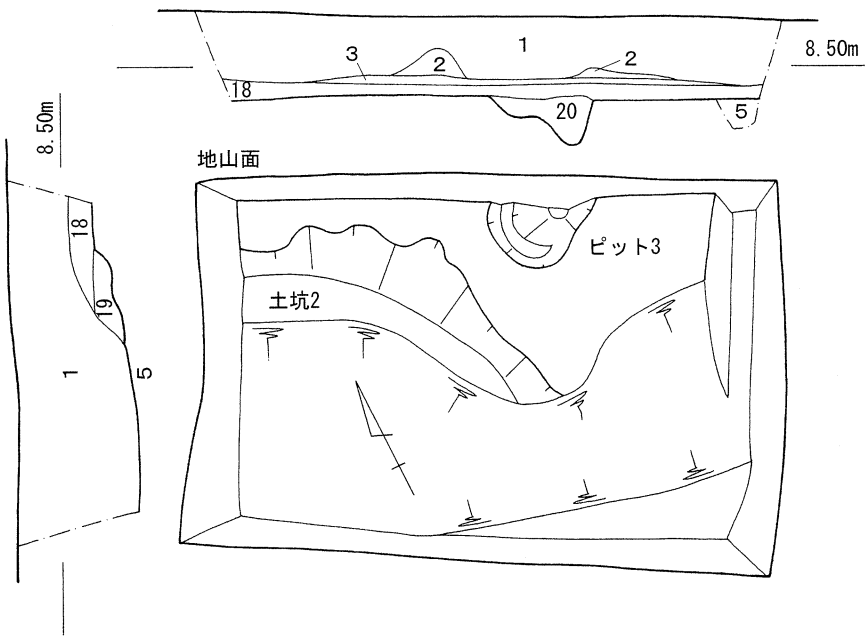
ピット1

1トレンチの落ち込み1の上面で検出した。直径0.36m、深さ0.26mで、埋土は土坑1の第1層と同じ灰色粘質土7.5Y4/1である。遺物は瓦器、土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。中世期の遺構である。

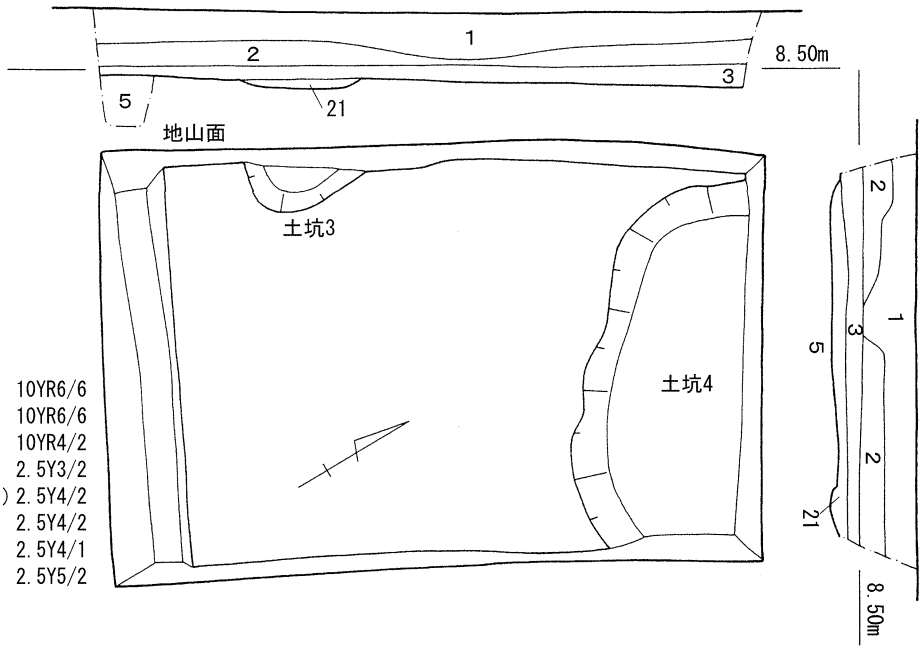
ピット2

1トレンチの落ち込み1の上面で検出した。直径0.15m、深さ0.09mで、埋土は土坑1の第1層、ピット1と同じ灰色粘質土7.5Y4/1である。遺物は出土しなかったが、中世期の遺構である。

3トレンチ　平面・断面図

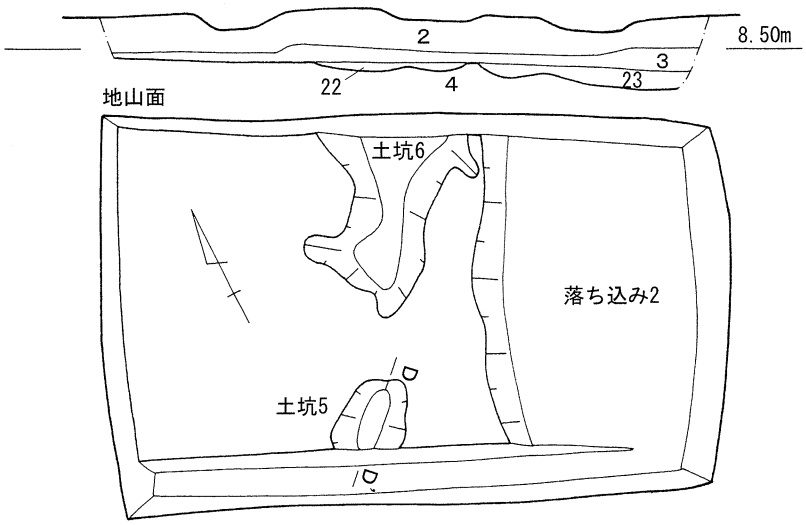


4トレンチ　平面・断面図

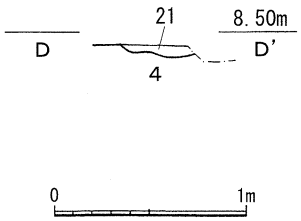


1　盛土
2　耕作土
3　床土
4　地山:明黄褐色礫混粘質土　10YR6/6
5　地山:明黄褐色粘質土(マンガン混)　10YR6/6
18　灰黄褐色砂質土(マンガン混)　10YR4/2
19　土坑2:黒褐色粘質土(炭化物混)　2.5Y3/2
20　ピット3:暗灰黄色粘質土(炭化物混)　2.5Y4/2
21　土坑3・4・5:暗灰黄色粘質土　2.5Y4/2
22　土坑6:黄灰色砂質土(炭化物混)　2.5Y4/1
23　落ち込み2:暗灰黄色砂混粘質土　2.5Y5/2

5トレンチ　平面・断面図

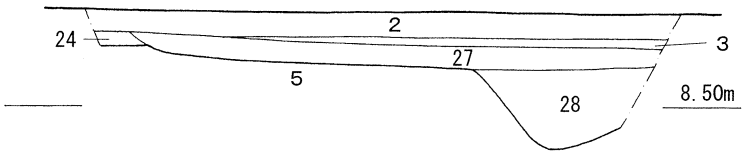


土坑5　断面図

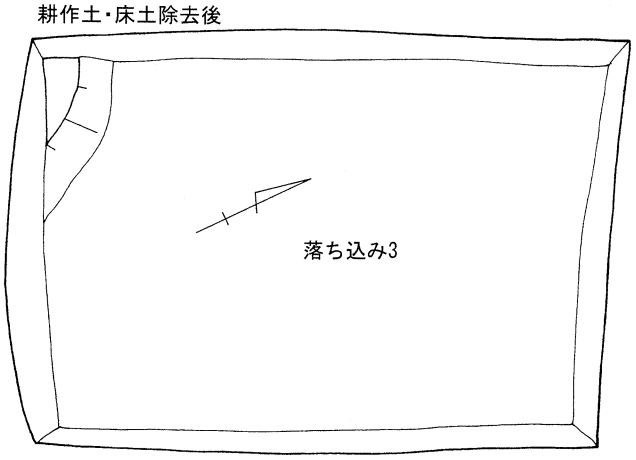


第53図 田山東遺跡12-2区 3・4・5トレンチ平面・断面図

6トレンチ　平面・断面図

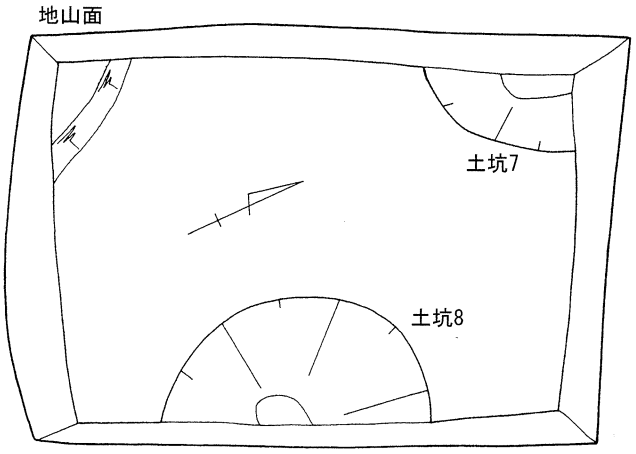


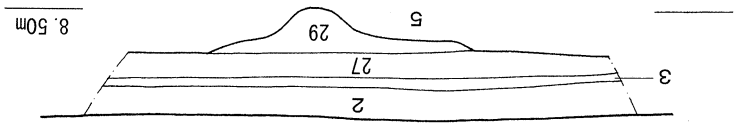
耕作土・床土除去後



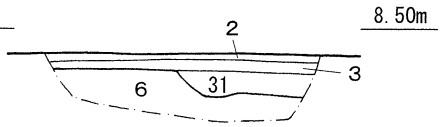
2　耕作土
3　床土
4　地山:明黄褐色礫混粘質土　10YR6/6
5　地山:明黄褐色粘質土(マンガン混)　10YR6/6
6　地山:にぶい黄橙色礫混粘質土　10YR6/4
24　暗灰黄色砂質土　2.5Y4/2
25　灰黄色砂質土(マンガン混)　2.5Y6/2
26　褐色粘質土　10YR4/6
27　落ち込み3:灰褐色砂質土　7.5Y6/2
28　土坑7:にぶい黄褐色砂質土(炭化物混)　10YR4/3
29　土坑8:灰黄褐色砂質土(マンガン・炭化物混)　10YR6/2
30　土坑9:褐灰色土(炭化物混)　5YR4/1
31　落ち込み4:暗灰黄色砂質土　2.5Y5/2

地山面

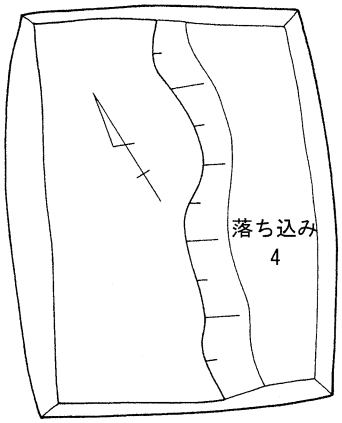




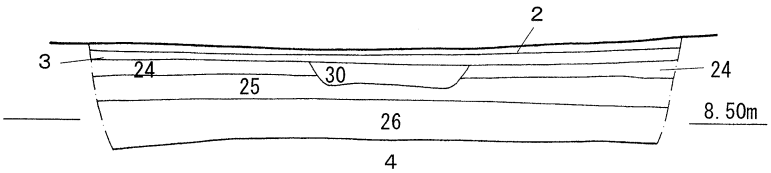
9トレンチ　平面・断面図



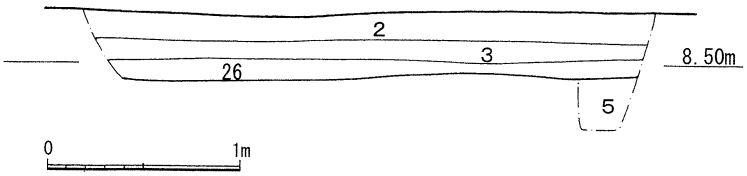
地山面



7トレンチ　北側断面図



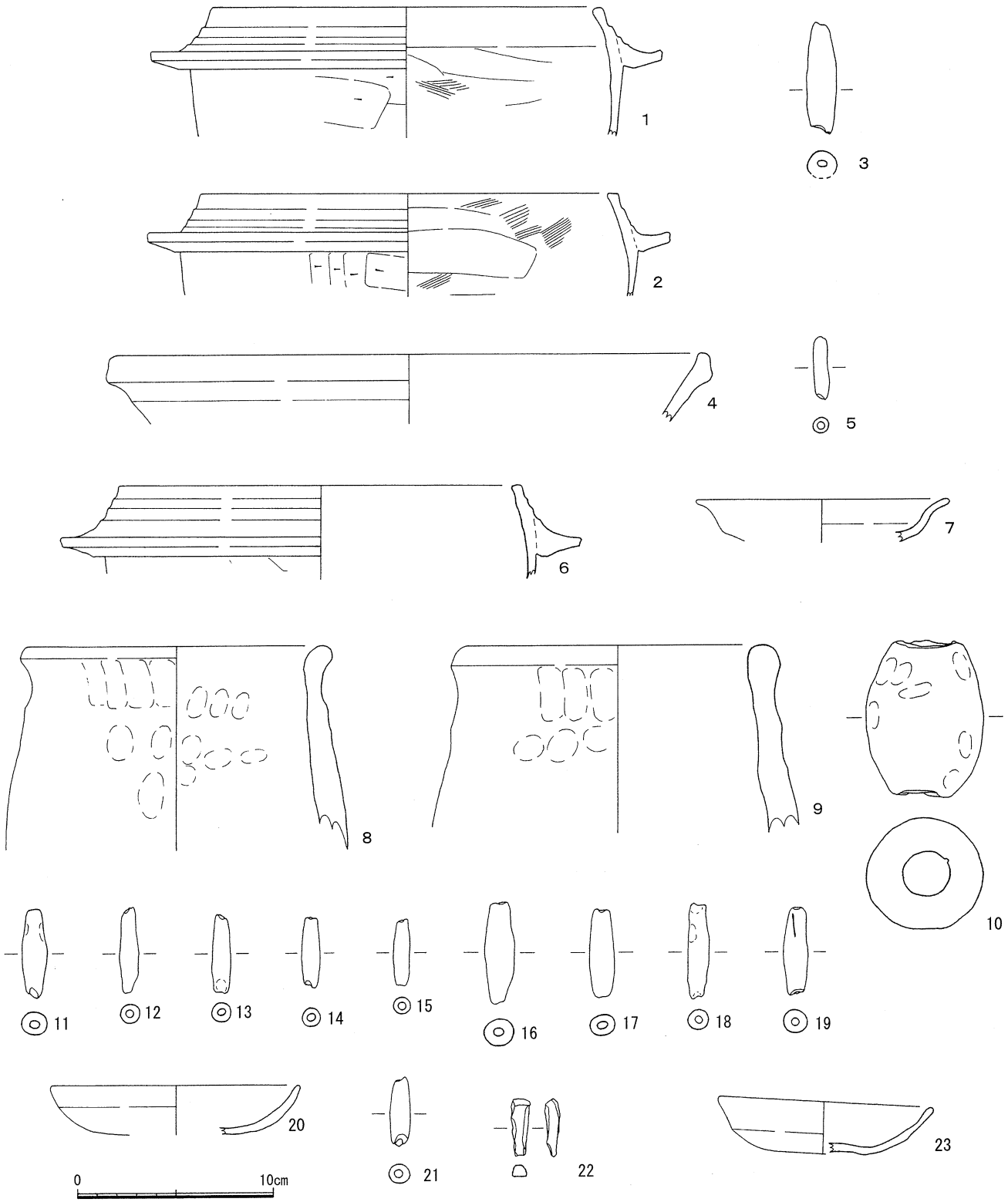
8トレンチ　西側断面図



第54図 田山東遺跡 12-2 区 6・7・8・9 トレンチ平面・断面図

ピット3

3トレンチの地山面で検出した。直径0.55m、深さ0.25mを測り、北部はトレンチ外へ広がる。埋土は暗灰黄色粘質土2.5Y4/2で炭化物が混じる。遺物は瓦器、土師質土器、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の遺構である。



第55図 田山東遺跡12-2区 出土遺物

落ち込み1

1トレンチの地山面で検出した。トレンチ中央部で北方向に落ちる。深さ0.17mを測り、埋土は暗灰黄色土2.5Y5/2である。遺物は出土しなかったが、上面で検出した遺構が中世期のため、中世期もしくはそれ以前の遺構と思われる。

落ち込み2

5トレンチの地山面で検出した。トレンチ中央部で東方向に落ちる。深さ0.10mを測り、埋土は暗灰黄色砂混粘質土2.5Y5/2である。遺物は瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、焼締陶器、鉄釘、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の遺構である。21は土師質管状土錘、22は断面方形の鉄釘である。

落ち込み3

6トレンチの耕作土及び床土除去後に検出した。トレンチのほぼ全体が落ち込みにあたる。埋土は灰褐色砂質土7.5Y6/2で、遺物は瓦器、土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊が出土したが、いずれも小片のため図化できなかった。中世期の遺構と思われる。

落ち込み4

9トレンチの地山面で検出した。トレンチ中央部から東方向へ落ちる。埋土は暗灰黄色砂質土2.5Y5/2である。遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこととなった。

(3) 11-1区（第48・56～59図）

調査区は田山東遺跡の南端部に位置する。

調査区内に5ヶ所のトレンチを設定し、全体で35.32㎡の調査を実施したが、3・4トレンチは既設建物により攪乱を受けていた。

基本層序は西半部の1・2トレンチでは第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、第5層灰オリーブ色砂質土5Y5/2、第6層黄褐色砂質土2.5Y5/3、第7層マンガン混じりのにぶい黄褐色砂質土10YR5/4、第8層にぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4の地山であるが、2トレンチでは第5層灰オリーブ色砂質土5Y5/2はなく、明黄褐色砂質土10YR6/6、灰黄褐色砂質土10YR6/2が存在する。1・2トレンチでは地山は地表面から約－1.40mで検出した。

遺物は第4層で土師質土器、第5層で瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、第6層で瓦器、土師質土器、瓦質土器、第7層で瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺が出土した。

また、2トレンチの明黄褐色砂質土10YR6/6からは土師質土器、灰黄褐色砂質土10YR6/2からは瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺が出土している。1は1トレンチの第7層から出土した土師質土器の小皿で、底部に糸切痕がある。2は2トレンチの灰黄褐色砂質土10YR6/2

から出土した土師質土器の小皿である。

北部の5トレンチは第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層褐色砂質土7.5YR4/6、第5層にぶい褐色砂質土7.5YR5/4、第6層明褐色砂質土7.5YR5/6、第7層マンガン混じりのにぶい黄橙色砂質土10YR6/4、第8層にぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4の地山である。地山は地表面から約－１.90ｍで検出した。

遺物は第4層で須恵器、瓦器、土師質土器、第5層で瓦器、土師質土器、スサ入り焼土塊、第6層で土師器、青磁、土師質土器が出土した。3は青磁椀で、5トレンチの明褐色砂質土7.5YR5/6から出土した。

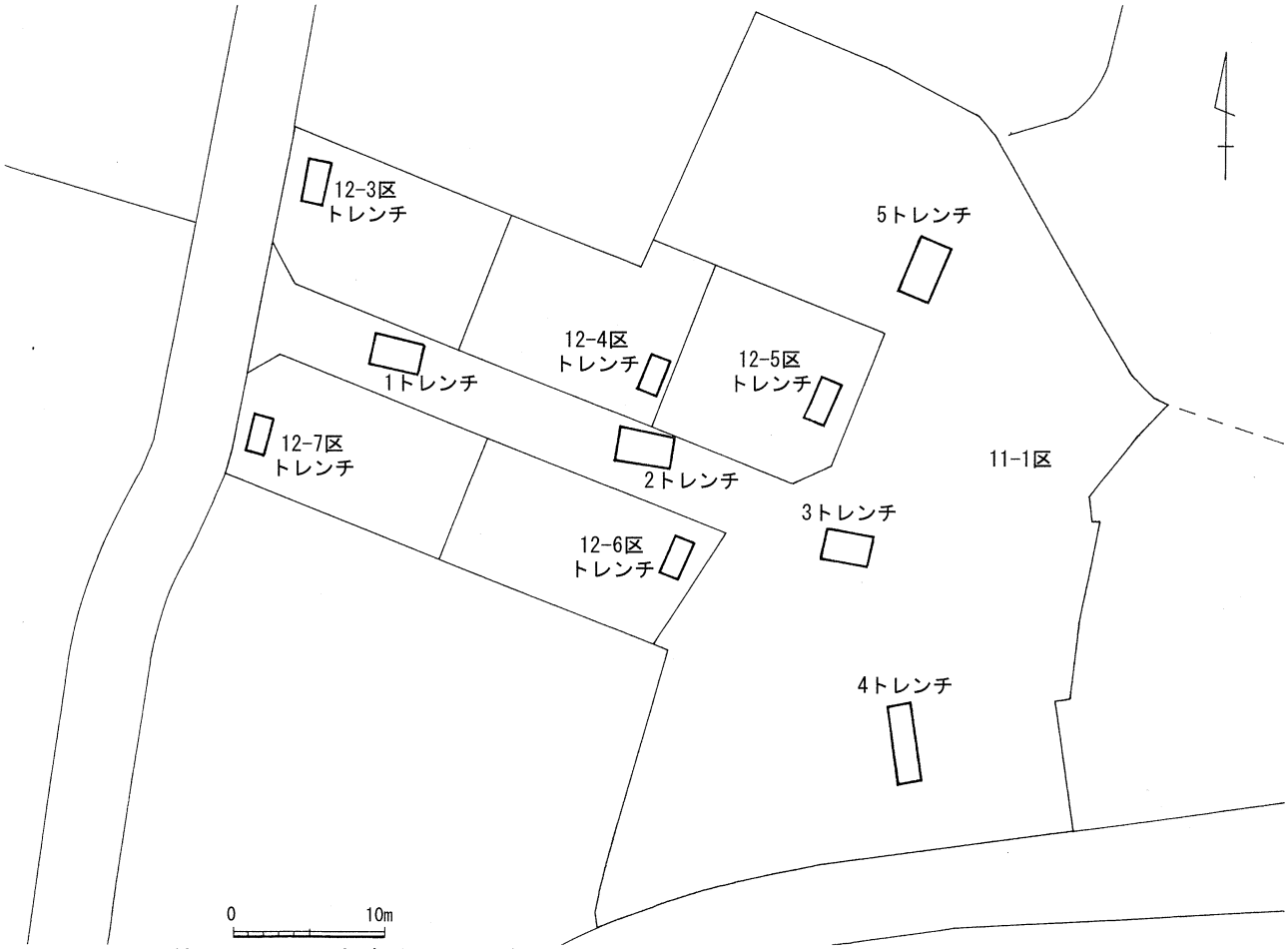
遺構は溝5条、土坑3基、ピット2基を検出した。

溝１

1トレンチの第6層上面で東西方向の溝を検出した。長さ2.20ｍ以上、幅0.30ｍ、深さ0.06ｍで、埋土は第5層と同じ灰オリーブ色砂質土5Y5/2である。遺物は瓦器が出土した。中世期の遺構である。

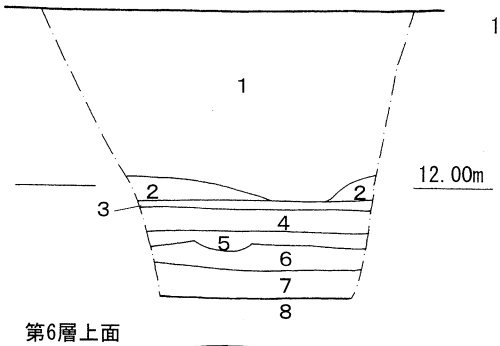
溝2～5

2トレンチの第6層上面で検出した南北方向の溝群で、鋤溝と思われる。長さ1.30ｍ以上、幅0.12～0.50ｍ、深さ0.02～0.07ｍで、埋土は灰黄褐色砂質土10YR6/2である。遺物は瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺が出土した。中世期の遺構である。

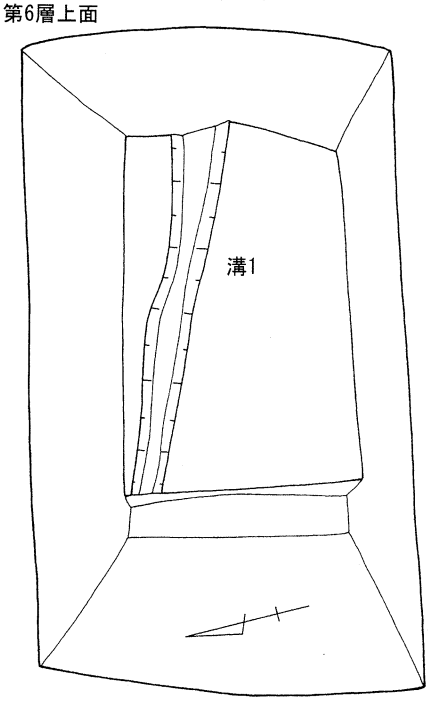


第56図 田山東遺跡11-1・12-3・12-4・12-5・12-6・12-7区 トレンチ位置図

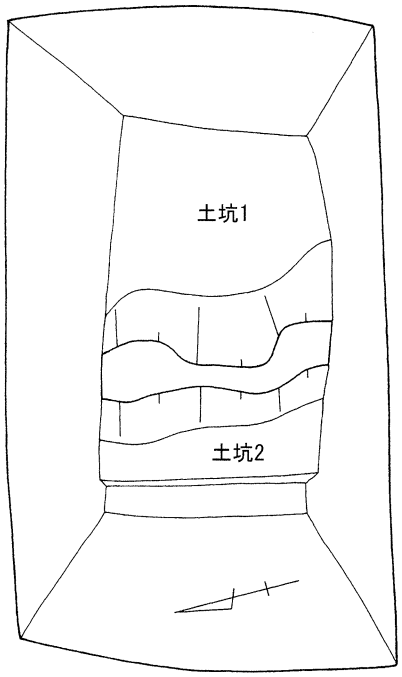
1トレンチ　平面・断面図

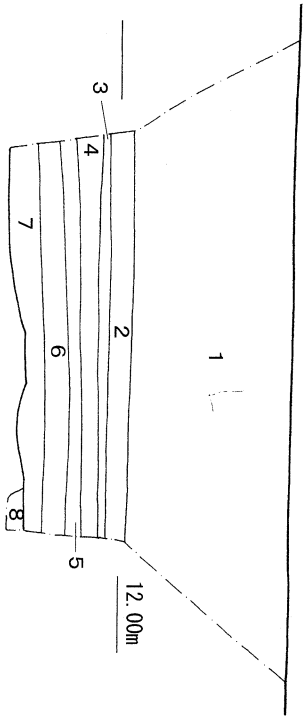


第6層上面

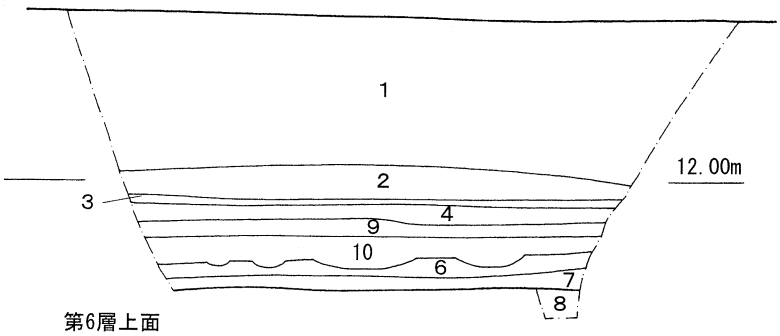


地山面

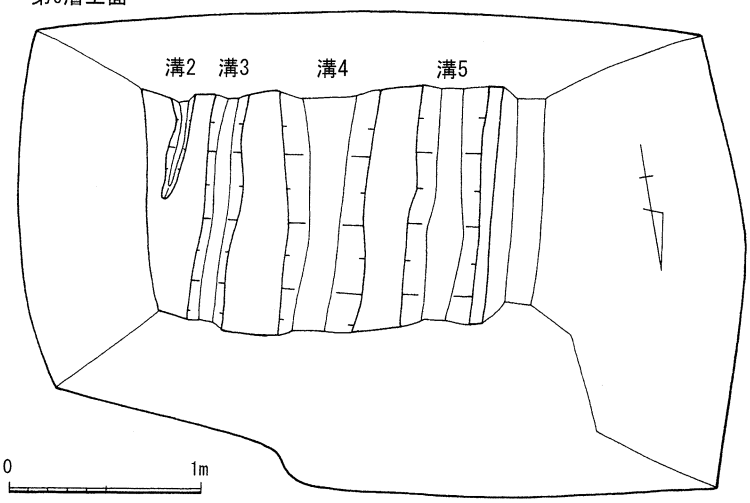




2トレンチ　平面・断面図



第6層上面

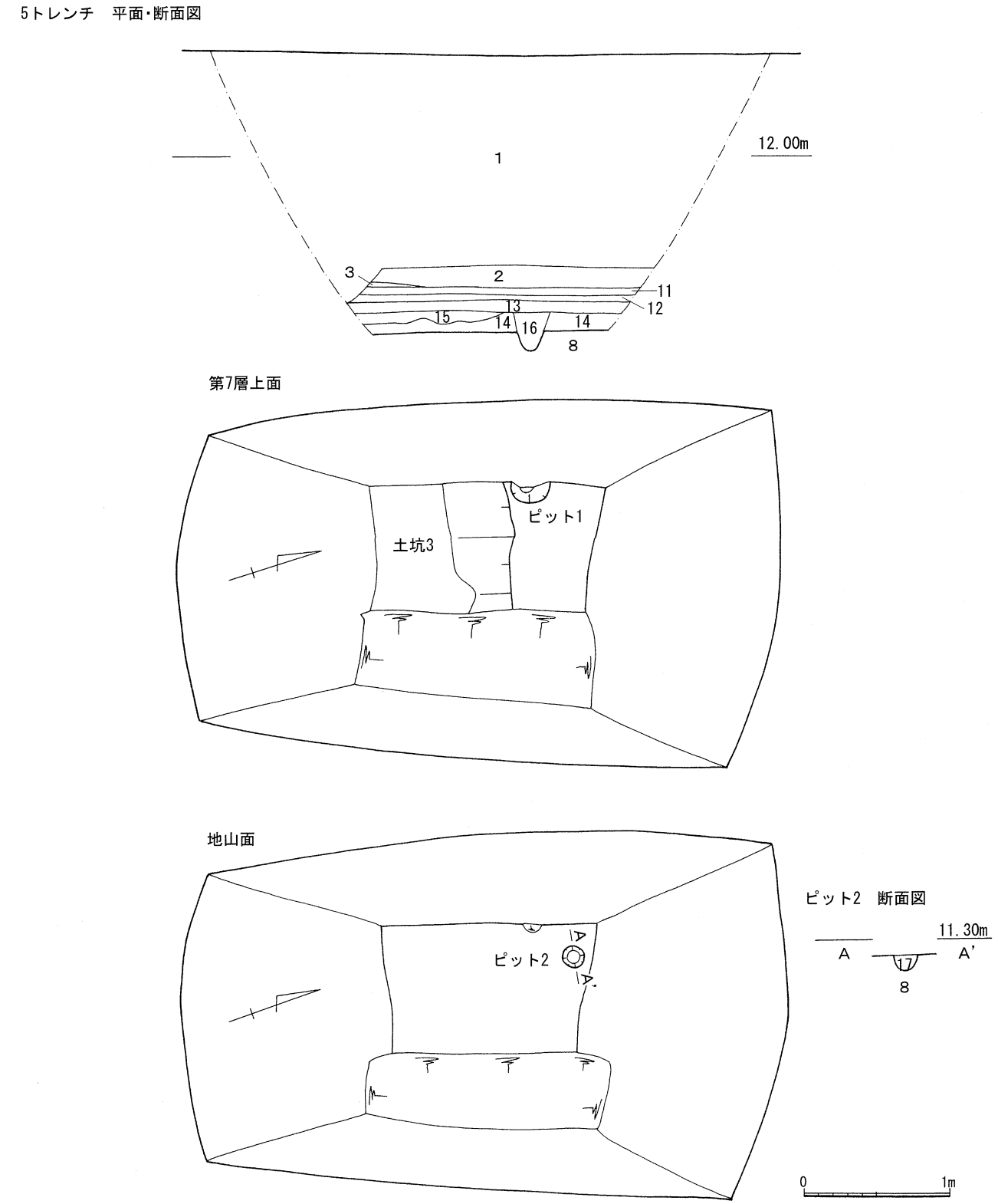


1	盛土	
2	耕作土	
3	床土	
4	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3
5	灰オリーブ色砂質土	5Y5/2
6	黄褐色砂質土	2.5Y5/3
7	にぶい黄褐色砂質土(マンガン混)	10YR5/4
8	地山:にぶい黄色砂混粘質土	2.5Y6/4
9	明黄褐色砂質土	10YR6/6
10	灰黄褐色砂質土	10YR6/2
11	褐色砂質土	7.5YR4/6
12	にぶい褐色砂質土	7.5YR5/4
13	明褐色砂質土	7.5YR5/6
14	にぶい黄橙色砂質土(マンガン混)	10YR6/4
15	土坑3:暗褐黄色砂質土(マンガン混)	2.5Y5/2
16	ピット1:黄褐色砂質土(マンガン混)	2.5Y5/4
17	ピット2:褐灰色砂質土	10YR4/1

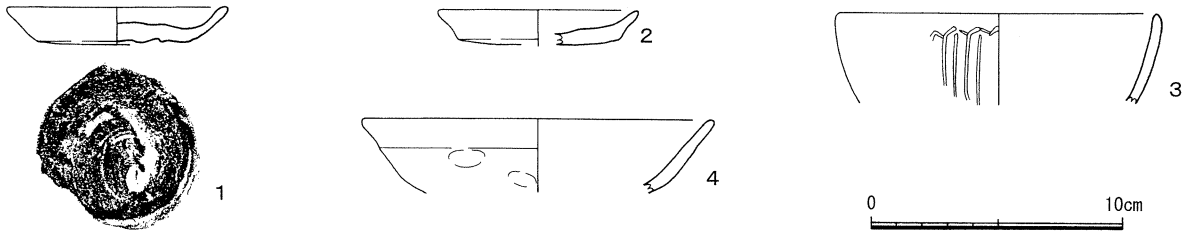
第57図 田山東遺跡11-1区 トレンチ平面・断面図

土坑１

１トレンチの地山面で検出した。東西1.30m以上、南北1.20m以上、深さ0.14mで、埋土は第7層と同じマンガン混じりのにぶい黄褐色砂質土10YR5/4である。遺物は瓦器、土師質土器が出土した。中世期の遺構である。



第58図 田山東遺跡11-1区 トレンチ平面・断面図



第59図 田山東遺跡11-1区 出土遺物

土坑2

1トレンチの地山面で検出した。東西0.85m以上、南北1.20m以上、深さ0.06mで、埋土は第7層と同じマンガン混じりのにぶい黄褐色砂質土10YR5/4である。遺物は瓦器が出土した。中世期の遺構である。

土坑3

5トレンチの第7層上面で検出した。東西1.00m以上、南北0.90m以上、深さ0.09mで、埋土はマンガン混じりの暗褐黄色砂質土2.5Y5/2である。遺物は土師質土器が出土した。中世期の遺構である。

ピット1

5トレンチの土坑3と同じく、第7層上面で検出した。直径0.25m、深さ0.27mで、埋土はマンガン混じりの黄褐色砂質土2.5Y5/4である。遺物は4の瓦器椀が1点出土した。中世期の遺構である。

ピット2

5トレンチの地山面で検出した。直径0.15m、深さ0.11mで、埋土は褐灰色砂質土10YR4/1である。遺物は出土しなかったので、時代は不明であるが、覆土が中世期のため、中世期もしくはそれ以前の遺構である。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこととなった。

(4) 12-3区（第48・56・60図）

調査区は田山東遺跡の南端部に位置する。

調査区の西部に2.9m×1.35mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は11-1区の1トレンチに準じ、第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、第5層灰オリーブ色砂質土5Y5/2、第6層黄褐色砂質土2.5Y5/3、第7層マンガン混じりのにぶい黄褐色砂質土10YR5/4。第8層はにぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4の地山である。地山は地表面より約－1.15mで検出した。遺構は検出されなかったが、第7層が隣接する11-1区の本調査で確認している落ち込みの埋土と一致し、トレンチ全体が落ち込み内に位置していることが分かる。

遺物は第7層から瓦器、土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。11-1区の本調査では第4～7層から中世期の遺物が出土している。

(5) 12-4区（第48・56・60図）

調査区は田山東遺跡の南端部に位置する。

調査区の東部に2.5m×1.3mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は前述の11-1区2トレンチと同じ、第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、第6層黄褐色砂質土2.5Y5/3、第7層マンガン混じりのにぶい黄褐色砂質土10YR5/4。第8層はにぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4の地山である。地山は地表面より約－1.15mで検出した。第4層と第6層の間に第5層が存在せず、明黄褐色砂質土10YR6/6、灰黄褐色砂質土10YR6/2が存在し、それが11-1区の本調査で確認した溝の埋土と一致することから、南北方向の溝であることが分かった。

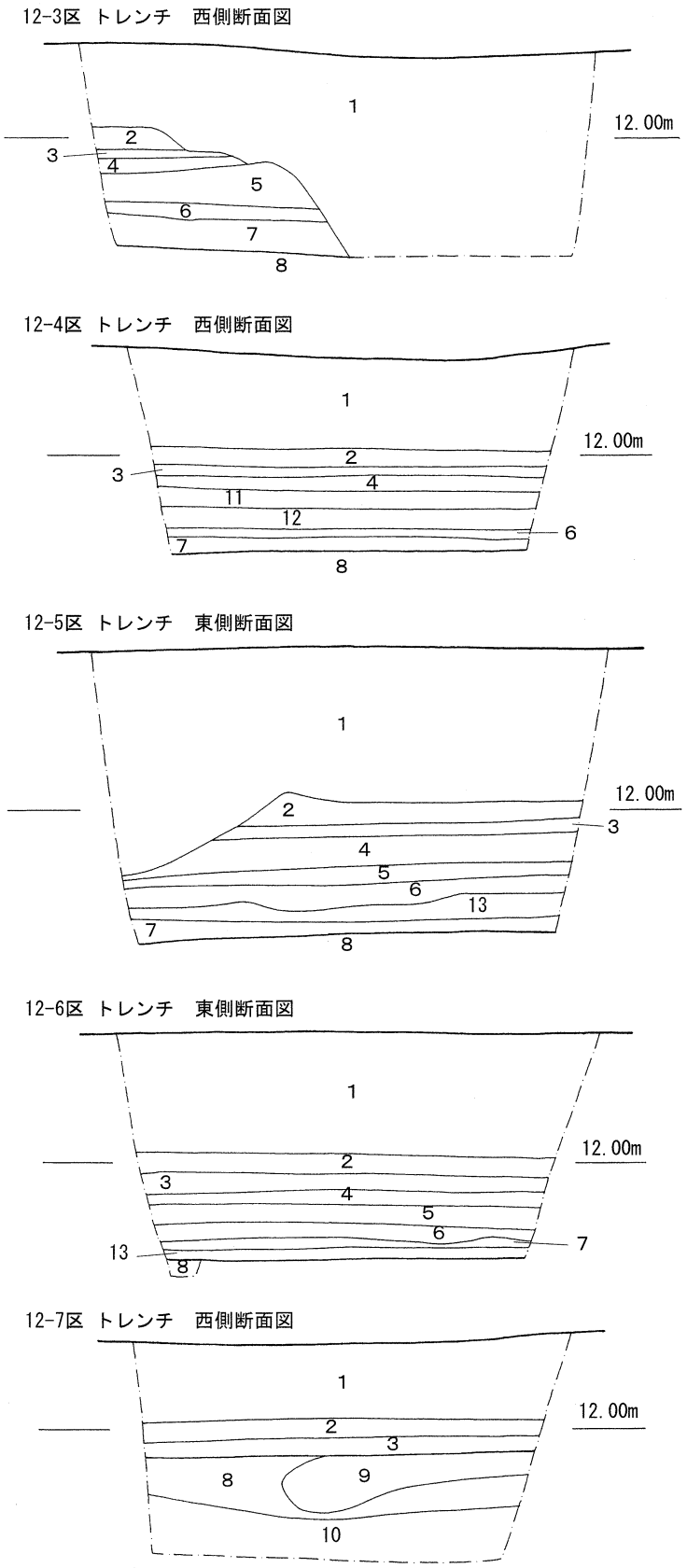
遺物は出土しなかったが、11-1区では第4～7層から中世期の遺物が出土している。

(6) 12-5区（第48・56・60・61図）

調査区は田山東遺跡の南端部に位置する。

調査区の東部に2.9m×1.4mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、第5層灰オリーブ色砂質土5Y5/2、第6層黄褐色砂質土2.5Y5/3、第7層マンガン混じりのにぶい黄褐色砂質土10YR5/4。第8層はにぶ



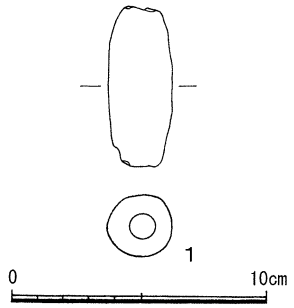
1	盛土				
2	耕作土				
3	床土				
4	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	9	地山:にぶい黄橙色礫	10YR7/3
5	灰オリーブ色砂質土	5Y5/2	10	地山:灰黄褐色粘土	10YR5/2
6	黄褐色砂質土	2.5Y5/3	11	明黄褐色砂質土	10YR6/6
7	にぶい黄褐色砂質土(マンガン混)	10YR5/4	12	灰黄褐色砂質土	10YR6/2
8	地山:にぶい黄色砂混粘質土	2.5Y6/4	13	明赤褐色砂質土	5YR5/6

第60図 田山東遺跡 12-3・4・5・6・7区 トレンチ断面図

い黄褐色砂質土10YR5/4。第8層はにぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4の地山であるが、第6層と第7層の間に明赤褐色砂質土5YR5/6が存在する。地山は地表面より約－1.65mで検出した。

遺物は第4層から1の土師質管状土錘が1点出土した。

遺構は検出されなかった。



第61図 田山東遺跡12-5区出土遺物

(7) 12-6区（第48・56・60図）

調査区は田山東遺跡の南端部に位置する。

調査区の東部に2.7m×1.35mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は12-5区と同じである。

遺物は第4層から土師質土器、スサ入り焼土塊、第5層から土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

遺構は検出されなかった。

(8) 12-7区（第48・56・60図）

調査区は田山東遺跡の南端部に位置する。

調査区の西部に2.45m×1.3mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層にぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4、第5層にぶい黄橙色礫10Y7/3、第6層灰黄褐色粘土10YR5/2。第4層以下は地山で、遺物包含層は存在しなかった。

遺構は検出されなかった。

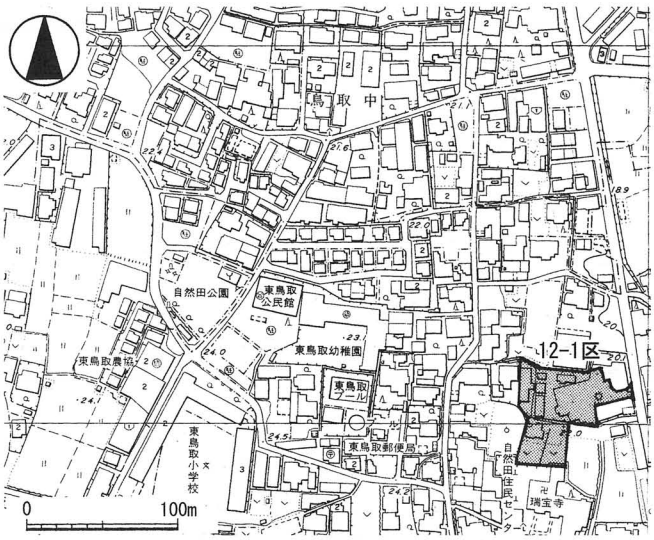
第11節　自然田範囲外

(1) 12-1区（第62～66図）

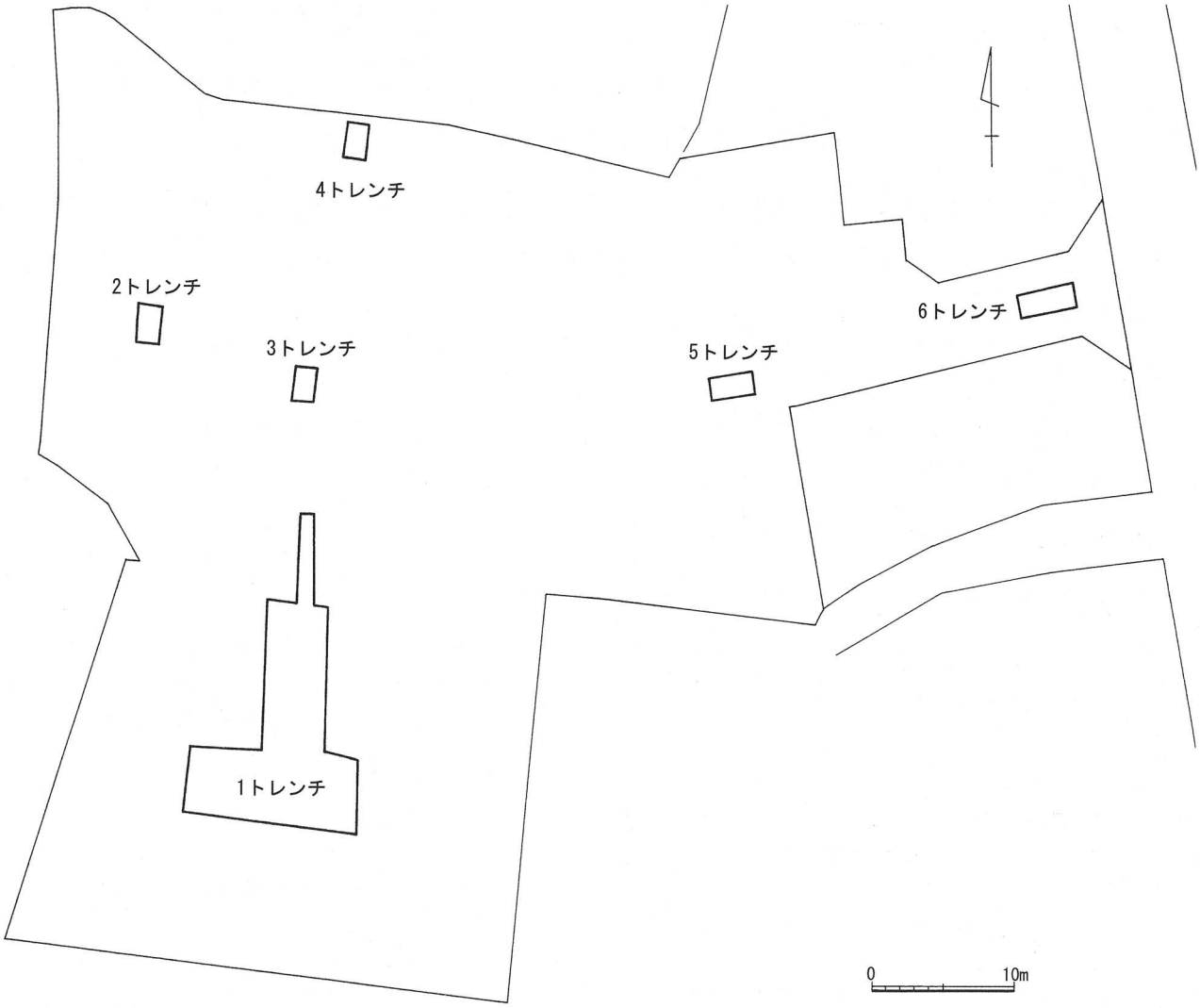
調査区は自然田北部に位置し、南側は玉田山瑞宝寺に隣接する。埋蔵文化財包蔵地外であるが、当地域での埋蔵文化財の情報が乏しいため、その状況を把握するべく調査が必要であると判断した。

瑞宝寺は山号を玉田山と称し、創建不明であるが、延宝（1673～1681年）のはじめ覚誉利察上人によって浄土宗鎮西派に改宗。玉田山瑞宝寺と号し、知恩院直末となった。

調査区内に6ヶ所のトレンチを設定し、全体で135.98㎡の調査を行った。



第 62 図 自然田範囲外 調査区位置図

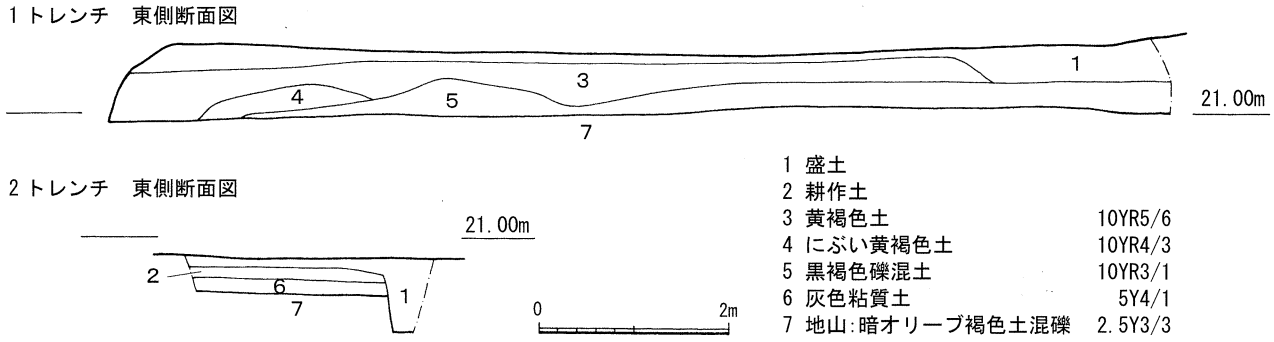


第 63 図 自然田範囲外 12-1 区　トレンチ位置図

1トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層黄褐色土10YR5/6、第3層にぶい黄褐色土10YR4/3、第4層黒褐色礫混土10YR3/1、第5層暗オリーブ褐色土混礫2.5Y3/3である。第5層は地山で、地表面より約－0.85mで検出した。

遺物は各層から須恵器、黒色土器、土師質土器、陶器、磁器、中世瓦、塼等が出土しているが、第4層から現代の遺物が出土したため、すべての層が現代の整地層と考えられる。1は黒色土器椀、2～4は中世期の平瓦で、2は両面離れ砂が付き、3は凸面縄目叩き、凹面布目で離れ砂も付く。4は凸面離れ砂、凹面は丁寧なナデ調整である。5は塼で、両面とも丁寧なナデ調整である。6は信楽焼の擂鉢である。1・2は第2層、3は第3層、4～6は第4層から出土した。

遺構は検出されなかった。

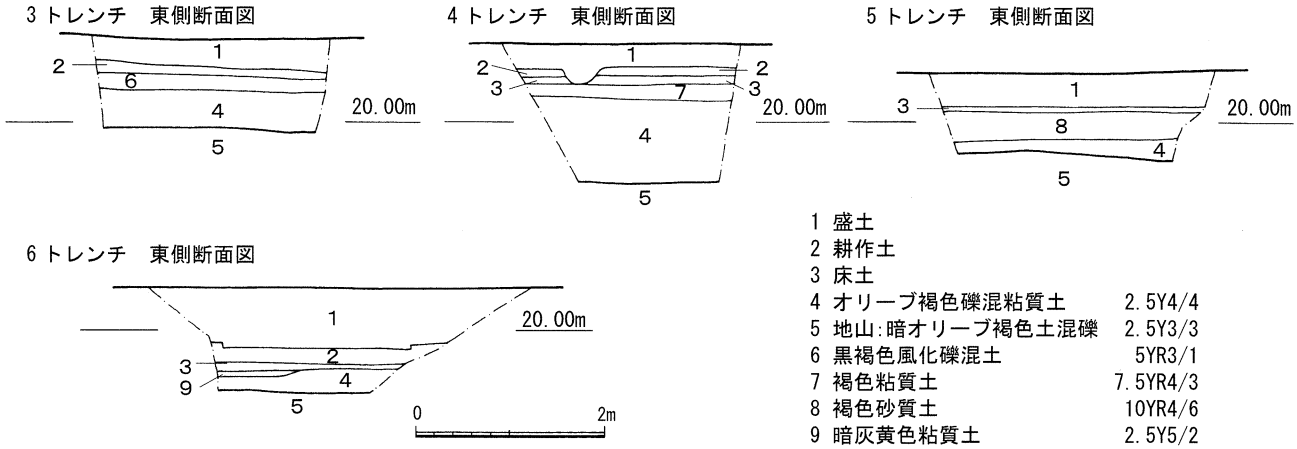


第64図 自然田範囲外12-1区　1・2トレンチ断面図

2トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色粘質土5Y4/1。第4層は1トレンチと同じ、暗オリーブ褐色土混礫2.5Y3/3の地山である。地山は地表面より約－0.35mで検出した。第3層は遺物が出土しなかったため、時代は不明である。

遺構は検出されなかった。

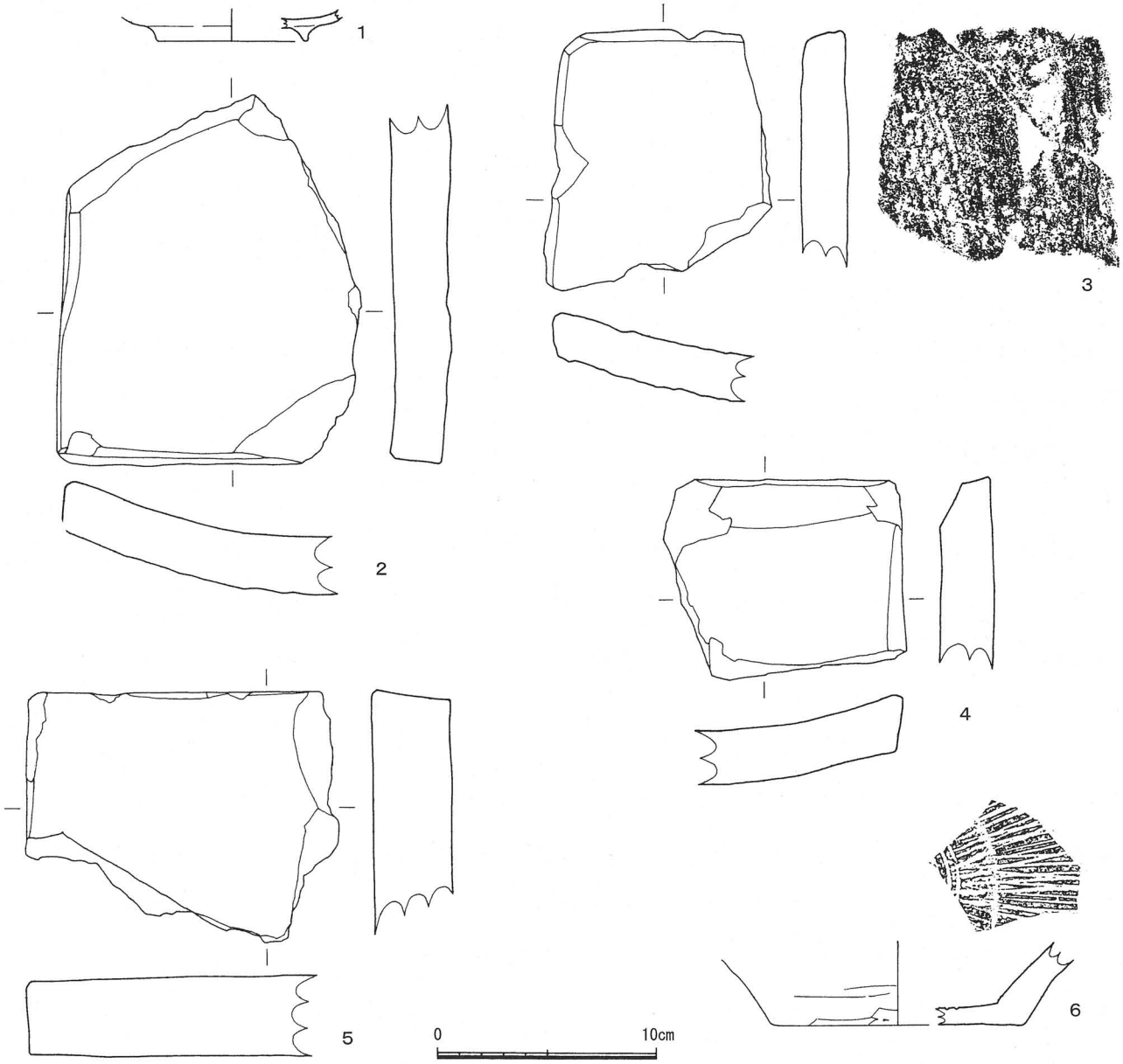
3～6トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層オリーブ褐色礫混粘質土2.5Y4/4であるが、いずれのトレンチでも第4層上面に土色の違う層が存在した。第5層は1・2トレンチと同じ、暗オリーブ褐色土混礫2.5Y3/3の地山である。



第65図 自然田範囲外12-1区　3・4・5・6トレンチ断面図

地山は3トレンチでは地表面より約－1.00m、4トレンチでは地表面より約－1.50m、5トレンチでは地表面より約－0.85m、6トレンチでは地表面より約－1.00mで検出した。いずれの層からも遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

遺構は検出されなかった。



第66図 自然田範囲外12-1区　出土遺物

第2章　まとめ

今年度も例年同様に小規模な調査が多数を占めたが、それらの内3件は本調査へと繋がり、阪南市の歴史に新たな手がかりを得ることができた。

とりわけ田山東遺跡12-2区の本調査では、中世期の遺構・遺物が多数検出され、遺跡範囲が西部に拡張されることが判明した。この調査では、真蛸壺焼成窯が本市に於いて初めて検出された。これまでに田山東遺跡や馬川遺跡で蛸壺焼成土坑は検出されていたが、今回の調査で、焼成窯の全容がほぼ明らかとなり、複数の窯跡が確認されたことから、蛸壺を製作する工房の存在も想定される。

本市の東側に隣接する泉南市に於いても蛸壺焼成窯が検出されており、今後、蛸壺に施されたヘラ記号などを基に、蛸壺生産地の特定や、消費地の範囲などが解明されるかもしれない。出土遺物の量も膨大であり、整理作業にはかなりの期間を要するであろうが、いずれ報告したいと考えている。

自然田範囲外12-1区の調査では、調査区が瑞宝寺に隣接していることから、寺院関連の遺構・遺物の検出が期待されたが、調査地に建てられていた大型工場による撹乱が激しく、遺構は検出されなかった。しかし、出土した瓦類については、すべて中世期のものであった。

瑞宝寺は山号を玉田山と称し、創建は不明であるが、延宝(1673～1681年)のはじめに覚誉利察上人により浄土宗鎮西派に改宗。現在は玉田山瑞宝寺と号し、知恩院直末となったことは第11節にも記したが、中世期には根来寺に属する真言宗寺院で、玉田山と地続きの瑞宝寺山にあったとの言い伝えがある。その後、現在の地に移転した時期は不明であるが、元禄7(1694)年の自然田村絵図では、現在地に描かれている。また、安政6(1859)年の本堂大改修のおり、正面欄間に「元文三(1738)年六月廿七日施主大阪石田屋喜左衛門」の墨書銘が見つかっている。この墨書の部材が建築物の創建時のものかは不明ではあるが、瑞宝寺に伝わる「鉦講」で使用される双盤鉦にも「元文三年」銘のものが2基現存することから、中興の時代であったと考えられる。以上のように現存する資料は、すべて江戸時代のものであるが、今回の調査で出土した中世瓦が瑞宝寺のものであるなら、創建時期は言い伝えのように中世期にまでさかのぼるであろう。

発掘調査は、人類祖先の営みを知る手段のひとつであり、文字を持たなかった時代に於いては、唯一の手立てである。今後も調査の規模にかかわらず、この地に残る未だ知られていない事実を地道に掘り起こしていきたい。

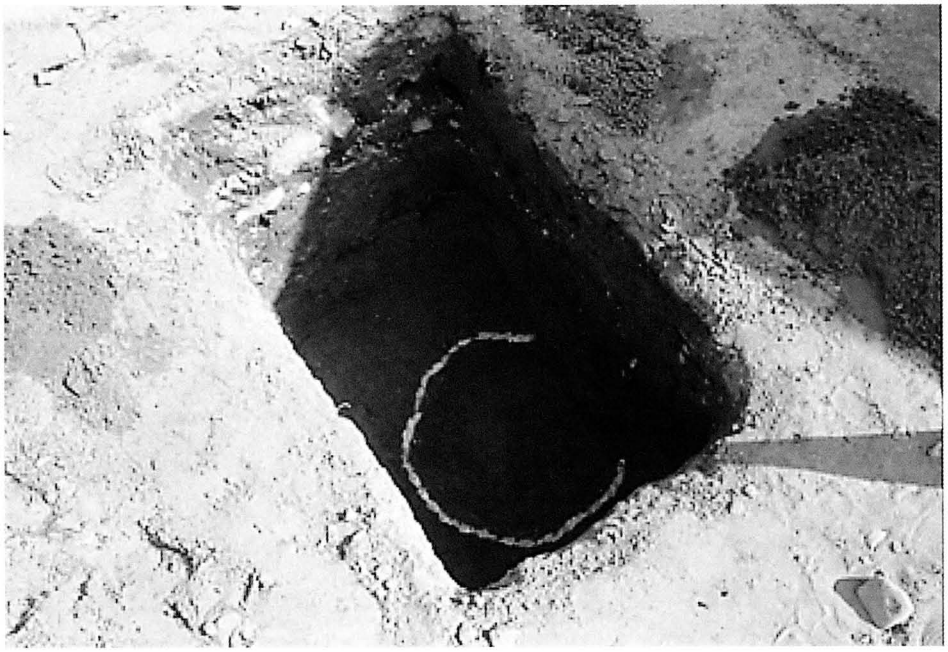
報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう３０
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＸＸ
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	51
編著者名	田中早苗・上野　仁・大川　健
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室
所在地	〒599－0292　大阪府阪南市尾崎町３５－１　TEL　072－471－5678
発行年月日	2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
尾崎海岸（おざきかいがん）	尾崎町（おざきちょう）	27232	65	34　21　37	135　14　30	20120726・0727	2.00	記録保存調査
尾崎海岸（おざきかいがん）	尾崎町（おざきちょう）	27232	65	34　21　39	135　14　28	20120921～0924	5.60	記録保存調査
内畑（うちはた）	下出（しもいで）	27232	40	34　21　20	135　14　46	20121001～1005	16.00	記録保存調査
下出（しもいで）	下出（しもいで）	27232	66	34　21　14	135　15　00	20121210～1213	6.60	記録保存調査
黒田南（くろだみなみ）	鳥取中（とっとりなか）	27232	51	34　21　02	135　14　35	20120918～0920	14.15	記録保存調査
鳥取南（とっとりみなみ）	鳥取（とっとり）	27232	55	34　20　45	135　14　04	20120605～0608	9.33	記録保存調査
西鳥取（にしとっとり）	鳥取（とっとり）	27232	56	34　20　45	135　14　00	20121015～1016	2.00	記録保存調査
神光寺（じんこうじ）（蓮池（はすいけ））	石田（いしだ）	27232	20	34　20　34	135　14　51	20120830・0831	5.06	記録保存調査
神光寺（じんこうじ）（蓮池（はすいけ））	石田（いしだ）	27232	20	34　20　30	135　14　54	20121030・1031	5.40	記録保存調査
神光寺（じんこうじ）（蓮池（はすいけ））	石田（いしだ）	27232	20	34　20　47	135　14　37	20121203～1218	24.36	記録保存調査
神光寺（じんこうじ）（蓮池（はすいけ））	石田（いしだ）	27232	20	34　20　36	135　14　56	20121004・1205	4.08	記録保存調査
向出（むかいで）	自然田（じねんだ）	27232	43	34　20　51	135　15　31	20120523・0524	4.20	記録保存調査
向出（むかいで）	自然田（じねんだ）	27232	43	34　20　51	135　15　31	20120525～0528	3.90	記録保存調査
向出（むかいで）	自然田（じねんだ）	27232	43	34　20　51	135　15　31	20120529・0530	4.48	記録保存調査
箱作今池（はこつくりいまいけ）	箱作（はこつくり）	27232	24	34　20　21	135　12　44	20121108～1113	10.25	記録保存調査
箱作今池（はこつくりいまいけ）	箱作（はこつくり）	27232	24	34　20　16	135　12　59	20121114～1119	46.50	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　17	135　12　33	20120620・0621	4.05	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　13	135　12　30	20120903～0914	56.12	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　07	135　12　30	20120322～0330	35.32	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　07	135　12　30	20121107	3.92	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　07	135　12　30	20121101	3.25	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　07	135　12　30	20121105	4.06	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　07	135　12　30	20121106	3.65	記録保存調査
田山東（たやまひがし）	箱作（はこつくり）	27232	58	34　20　07	135　12　30	20121107	3.19	記録保存調査
自然田範囲外（じねんだはんいがい）	自然田（じねんだ）	27232	－	34　20　44	135　15　16	20120806～0815	135.98	試掘・確認調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	散布地	中世期～近世期	土坑	弥生土器、土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、土師質管状土錘、土師質真蛸壺、貨幣、スサ入り焼土塊	
尾崎海岸	散布地	近代期		陶器、磁器、土師質管状土錘、陶質管状土錘、土師質真蛸壺、近世瓦、近代瓦、鉄製品	
内　畑	散布地	近代期	落ち込み	黒色土器、土師質土器、陶器、磁器、土師質管状土錘	
下　出	散布地		土坑（倒木痕）	土師質真蛸壺	
黒田南	散布地	中世期	土坑	サヌカイト製石鏃、須恵器、瓦器、土師質土器、陶器、磁器、中世瓦、土師質真蛸壺、製塩土器	
鳥取南	散布地	中世期	流路	須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器	
西鳥取	散布地				
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓		ピット		
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期		須恵器、瓦器、土師質土器	
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期		須恵器、瓦器、土師質土器、焼締陶器	
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期～近世期	土坑	黒色土器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質管状土錘、スサ入り焼土塊	
向　出	散布地			土師質土器	
向　出	散布地	近世期		須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器	
向　出	散布地	中世期	溝	土師器	
箱作今池	散布地、生産集落				
箱作今池	散布地、生産集落	奈良～中世期	土坑、ピット	土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、製塩土器	
田山東	散布地、生産集落		土坑	土師質土器	
田山東	散布地、生産集落	中世期	土坑、ピット、溝、落ち込み	須恵器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、瓦質土器、焼締陶器、青磁、土師質管状土錘、土師質蛸壺、中世瓦、スサ入り焼土塊	
田山東	散布地、生産集落		土坑、ピット、溝	土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊	
田山東	散布地、生産集落	中世期	落ち込み	瓦器、土師質土器	
田山東	散布地、生産集落	中世期	溝		
田山東	散布地、生産集落	中世期		土師質管状土錘	
田山東	散布地、生産集落	中世期		土師質土器、スサ入り焼土塊	
田山東	散布地、生産集落				
自然田範囲外				須恵器、黒色土器、土師質土器、陶器、磁器、中世瓦、塼	

図版1



尾崎海岸遺跡12－２区
トレンチ全景（北より）

尾崎海岸遺跡12－３区
トレンチ全景（西より）

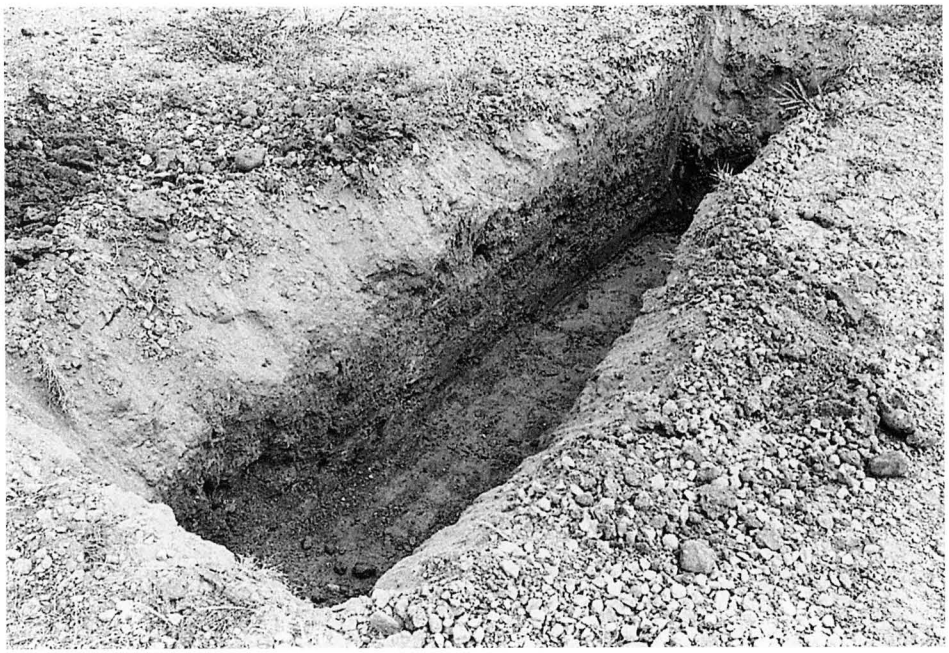
内畑遺跡12－１区
トレンチ全景（西より）

図版2

下出遺跡12－１区
１トレンチ全景（西より）

下出遺跡12－１区
２トレンチ全景（東より）

黒田南遺跡12－１区
１トレンチ全景（北より）

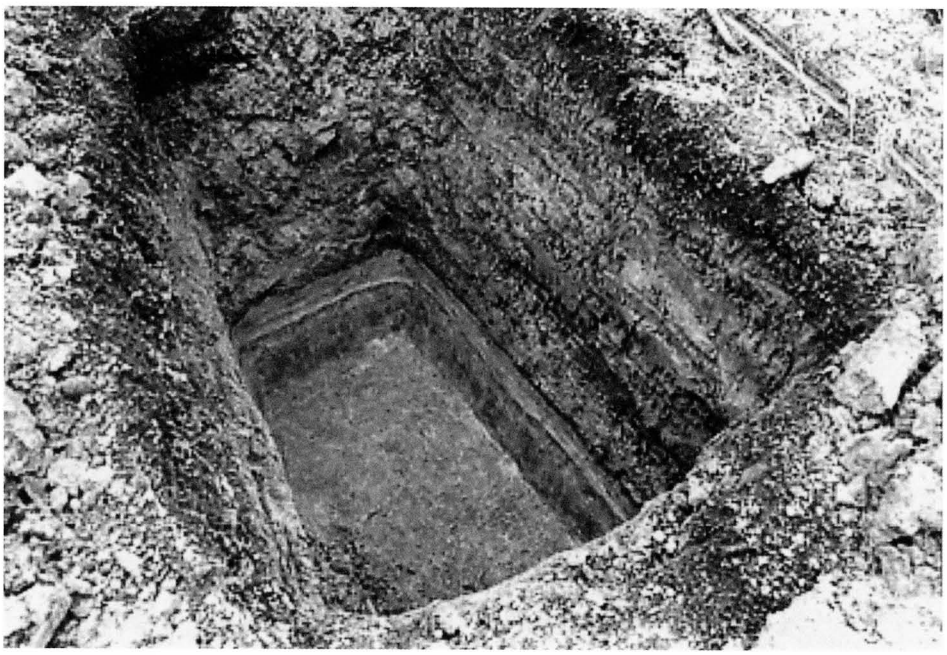


黒田南遺跡12－１区
２トレンチ全景（西より）

黒田南遺跡12－１区
３トレンチ全景（北より）

鳥取南遺跡12－１区
１トレンチ全景（西より）

図版4



鳥取南遺跡12－１区
２トレンチ全景（西より）

鳥取南遺跡12－１区
３トレンチ全景（西より）

西鳥取遺跡12－１区
トレンチ全景（東より）

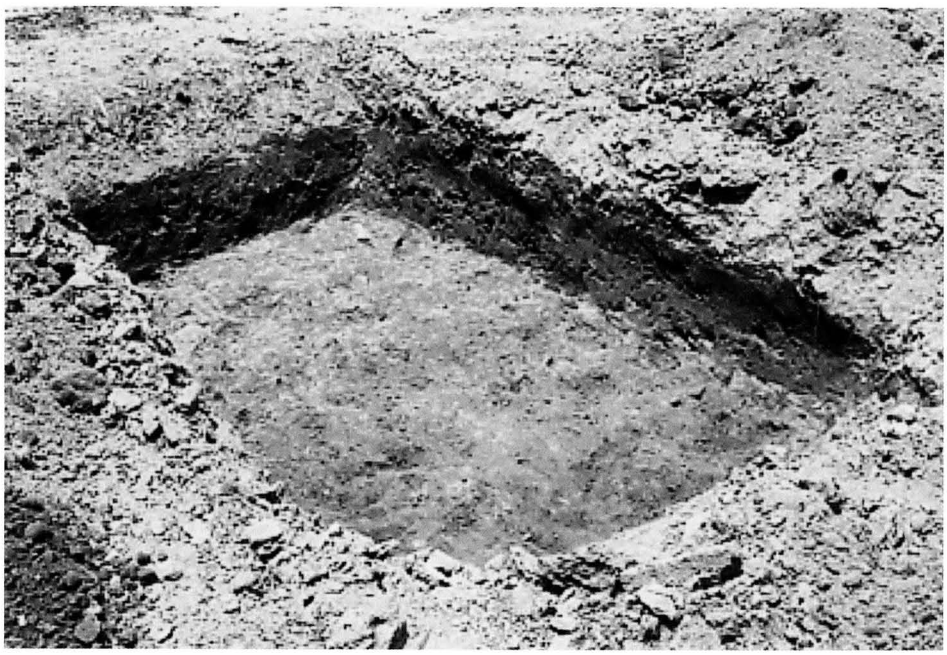
神光寺(蓮池)遺跡12－１区
トレンチ全景(北より)

神光寺(蓮池)遺跡12－３区
トレンチ全景(西より)

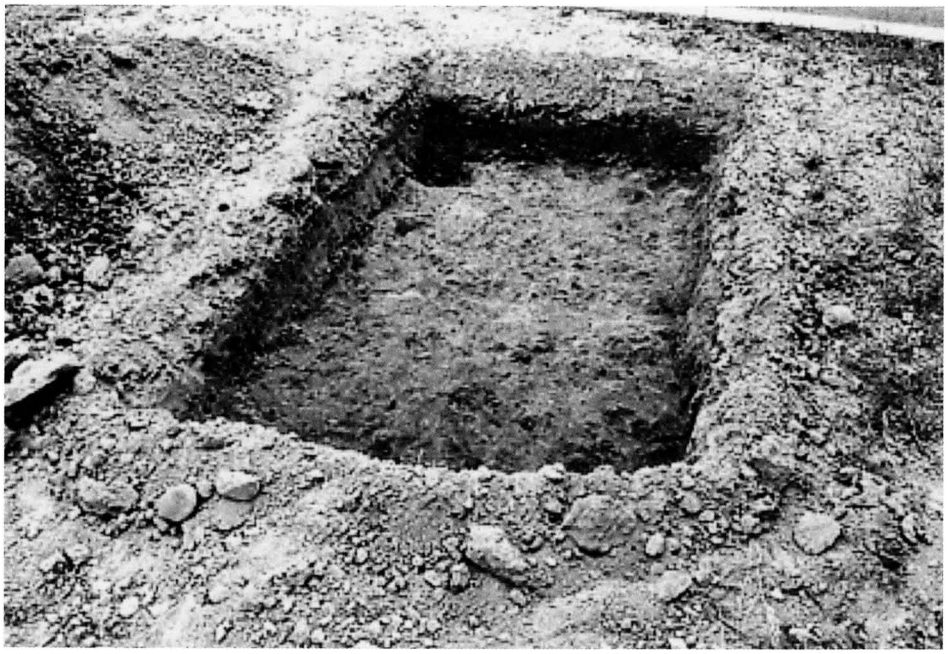
神光寺(蓮池)遺跡12－４区
トレンチ全景(東より)

図版6

神光寺(蓮池)遺跡12－5区
トレンチ全景(東より)



向出遺跡12－1区
トレンチ全景(西より)



向出遺跡12－2区
トレンチ全景(東より)

向出遺跡12－３区
トレンチ全景（西より）

箱作今池遺跡12－１区
トレンチ全景（北より）

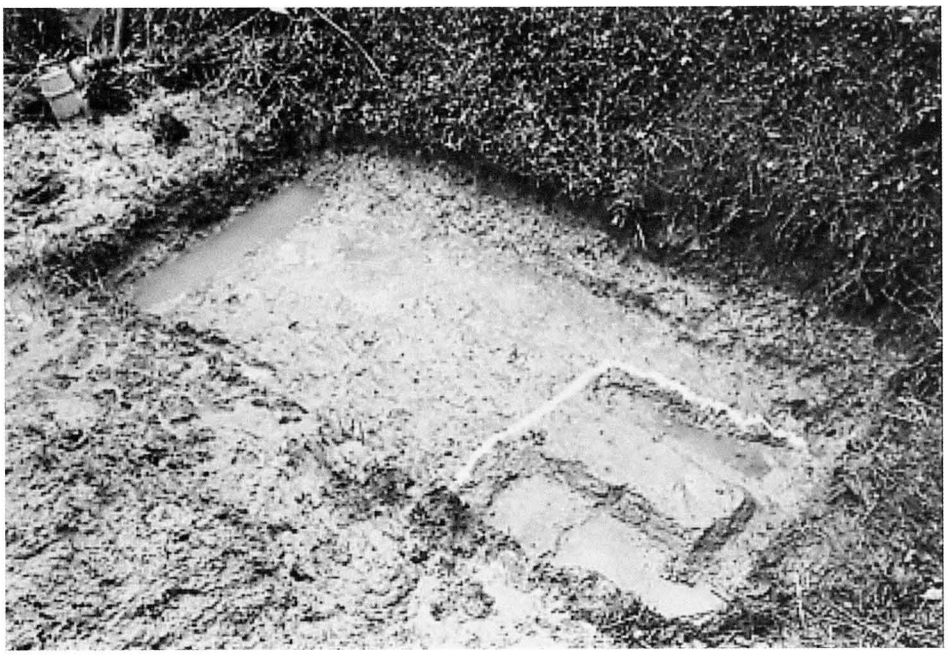
箱作今池遺跡12－２区
１トレンチ全景（北より）

図版8

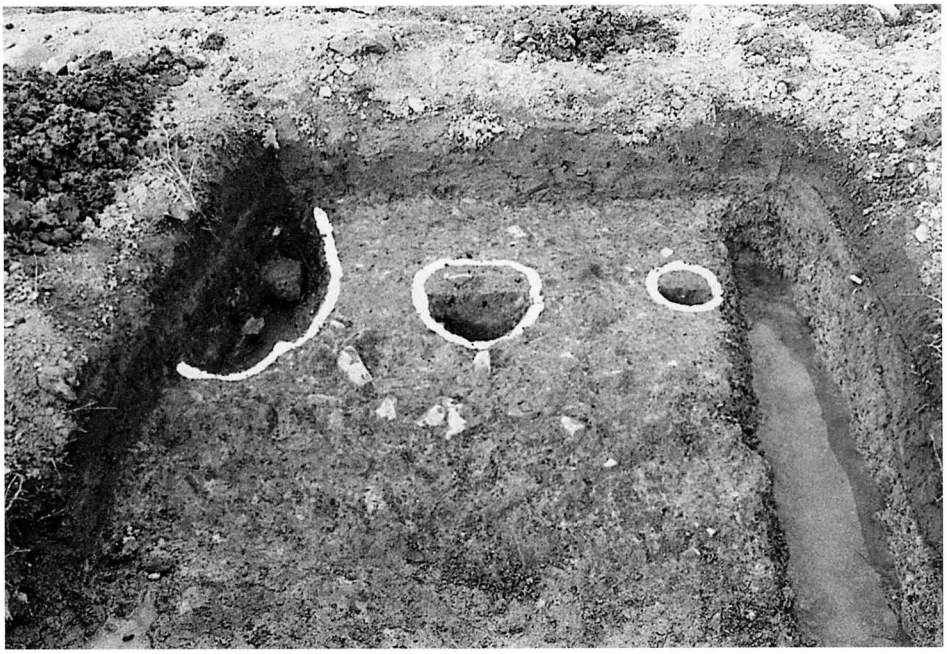
箱作今池遺跡12－２区
２トレンチ全景（西より）

箱作今池遺跡12－２区
３トレンチ全景（南より）

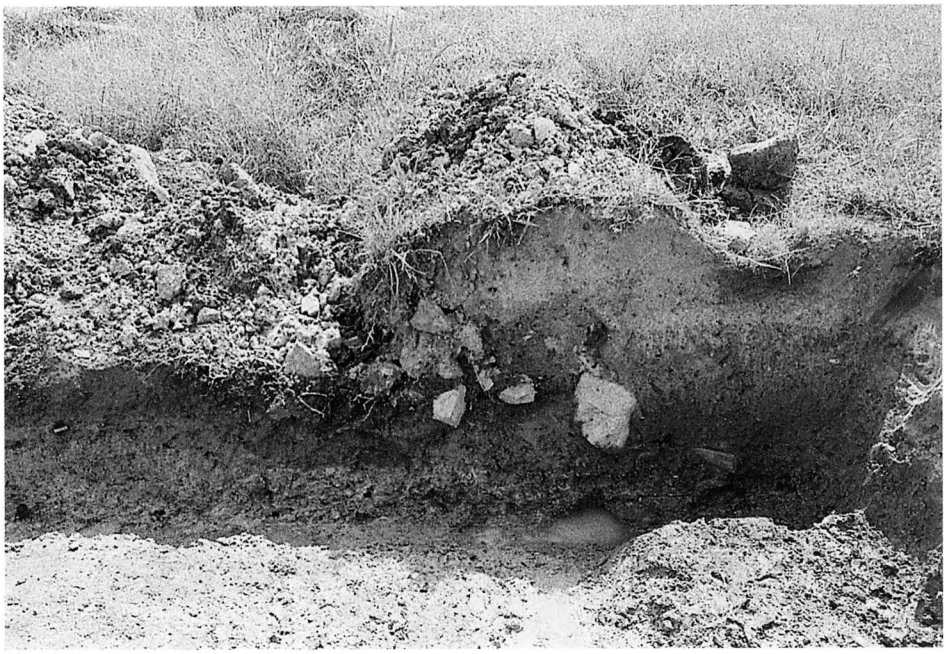
箱作今池遺跡12－２区
４トレンチ全景（北より）



田山東遺跡12－１区
トレンチ全景（北より）



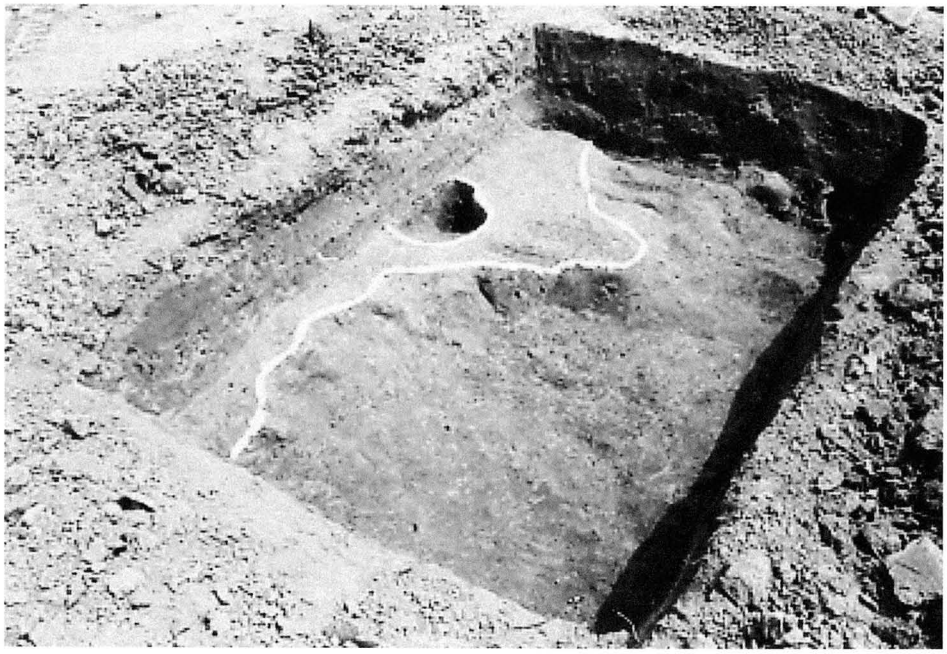
田山東遺跡12－２区
1トレンチ土坑1、ピット1・2（南より）



田山東遺跡12－２区
１トレンチ東側断面

図版10

田山東遺跡12－２区
２トレンチ東側断面



田山東遺跡12－２区
３トレンチ全景（西より）

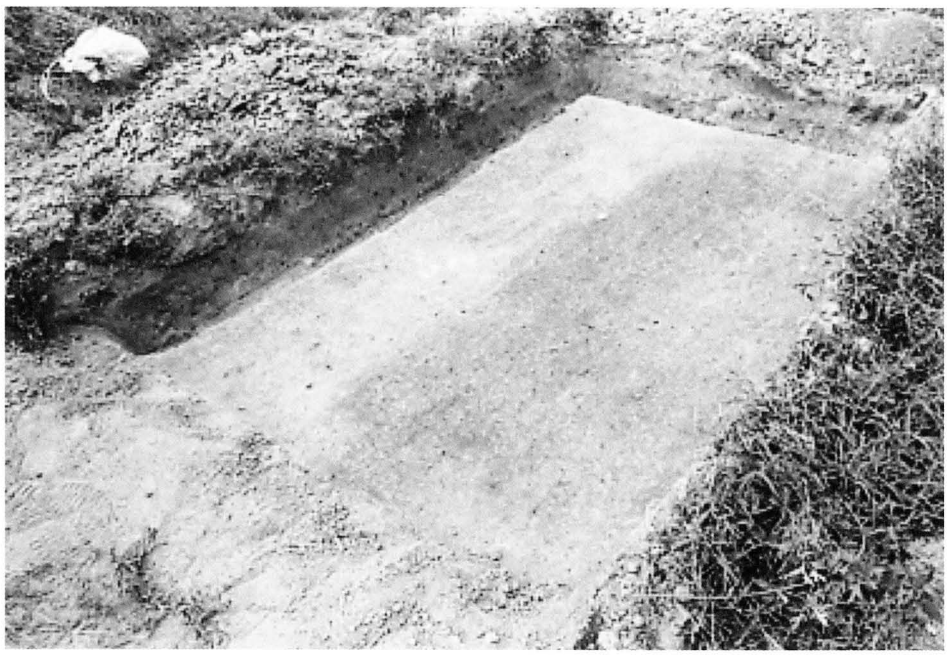
田山東遺跡12－２区
４トレンチ全景（南より）

田山東遺跡12－２区
５トレンチ全景（東より）

田山東遺跡12－２区
６トレンチ西側断面

田山東遺跡12－２区
７トレンチ北側断面

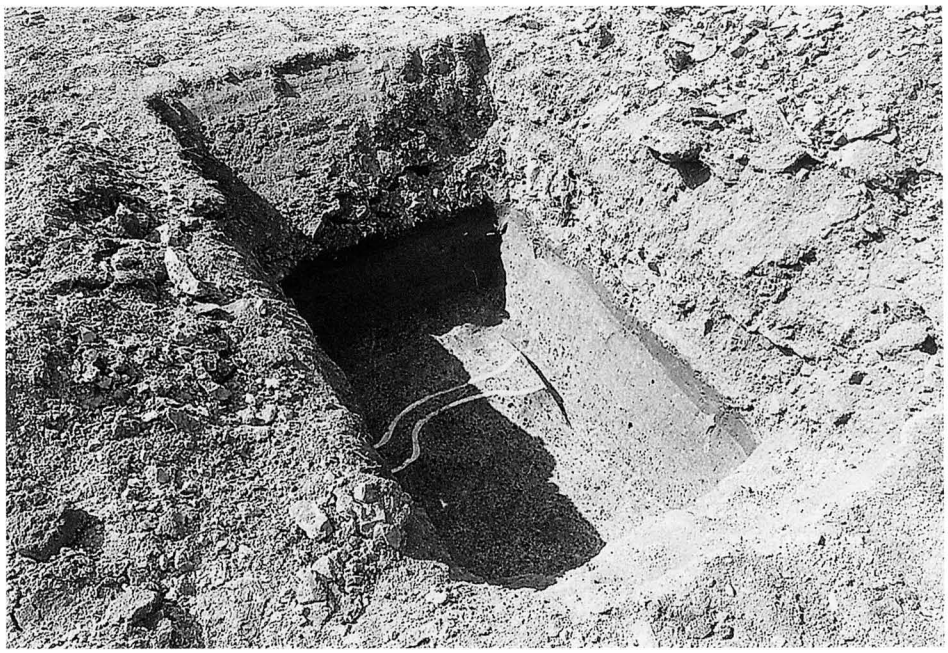
図版12



田山東遺跡12－２区
８トレンチ全景（南より）

田山東遺跡12－２区
９トレンチ全景（北より）

田山東遺跡11－１区
１トレンチ溝１（東より）

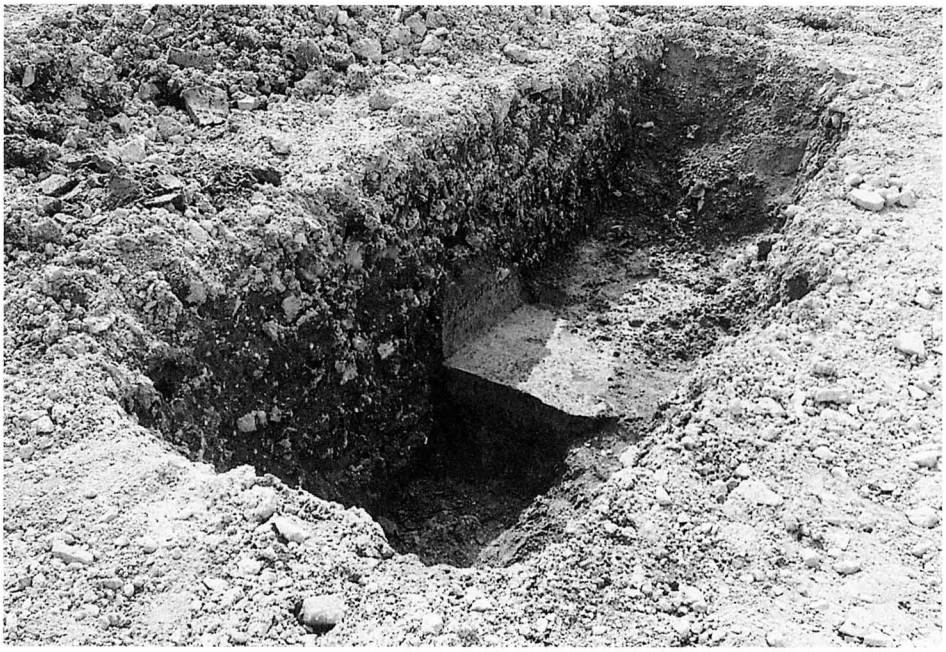


田山東遺跡11－1区
1トレンチ土坑1･2(東より)

田山東遺跡11－1区
2トレンチ全景(西より)

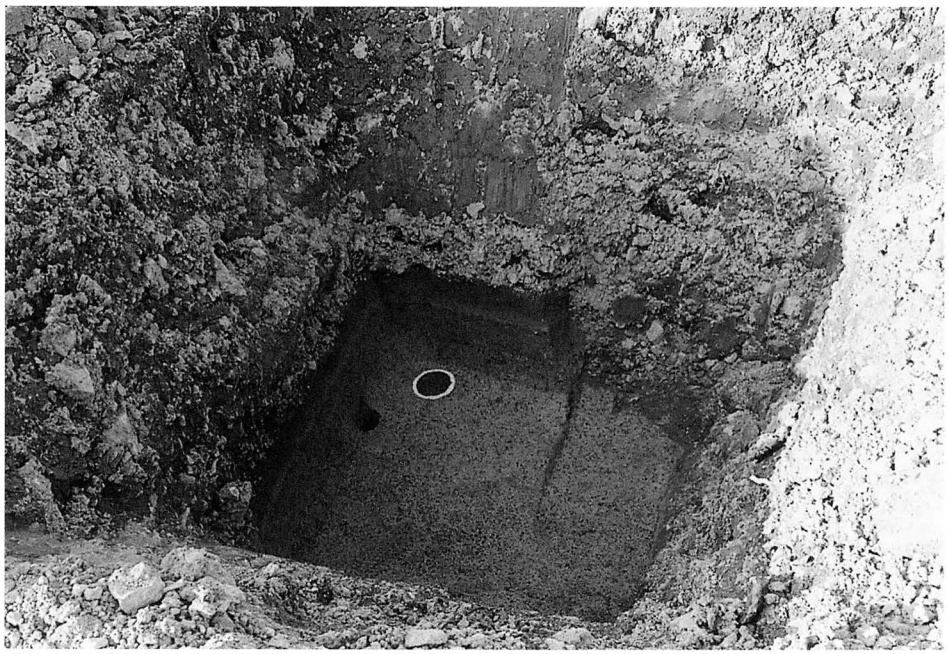
田山東遺跡11－1区
3トレンチ全景(西より)

図版14



田山東遺跡11－1区
4トレンチ全景(北より)

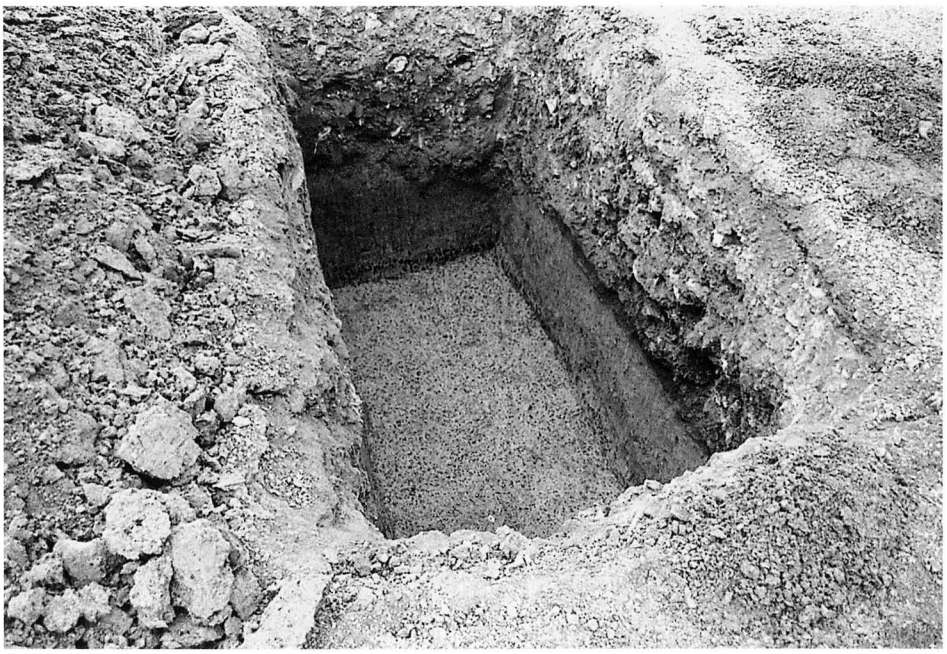
田山東遺跡11－1区
5トレンチ土坑3・ピット1(南より)



田山東遺跡11－1区
5トレンチピット2(南より)

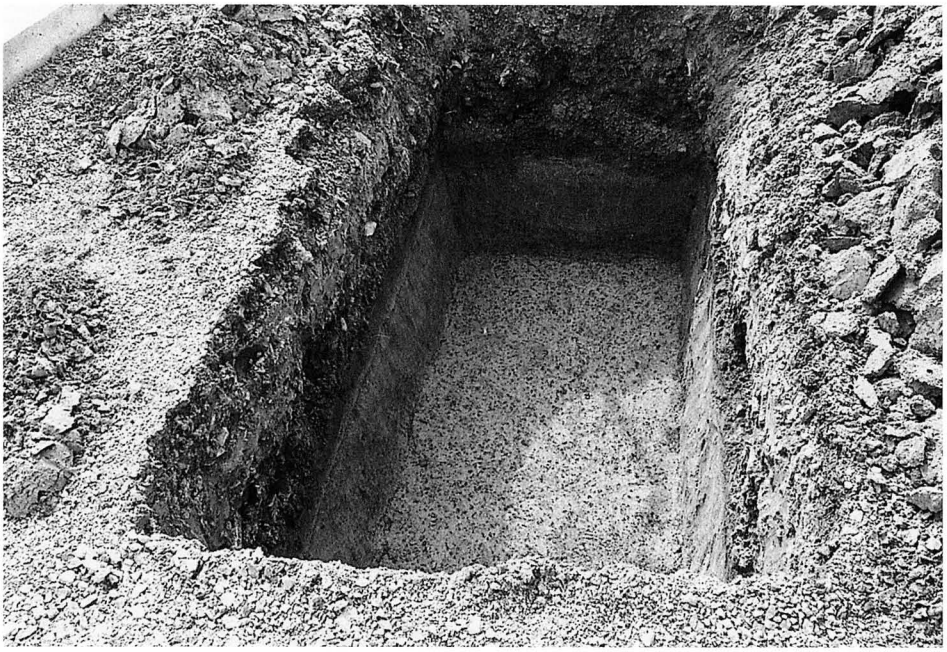
田山東遺跡12－３区
トレンチ全景（北より）

田山東遺跡12－４区
トレンチ全景（北より）



田山東遺跡12－５区
トレンチ全景（南より）

図版16

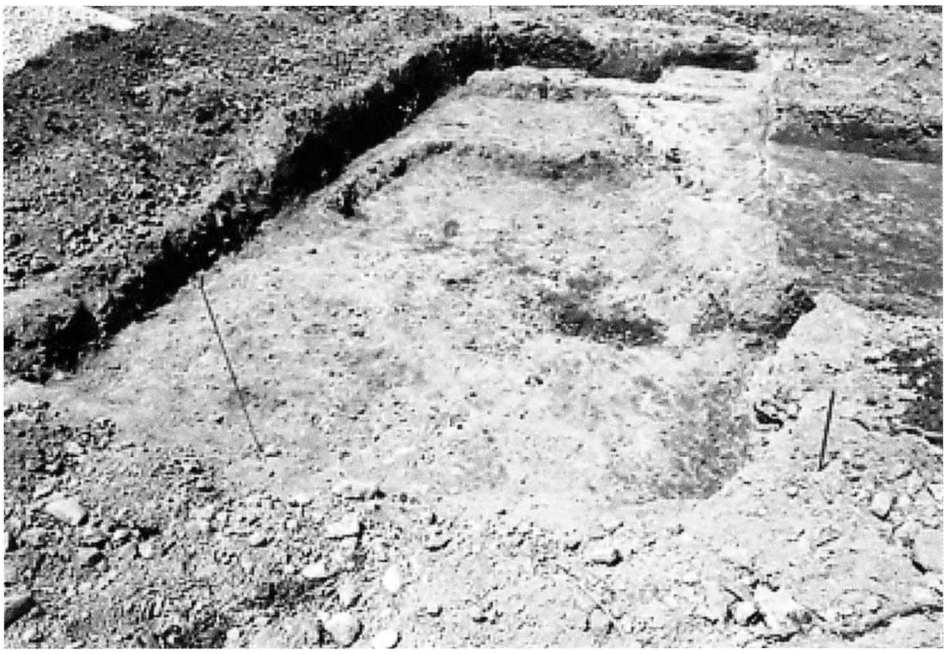


田山東遺跡12－６区
トレンチ全景（北より）

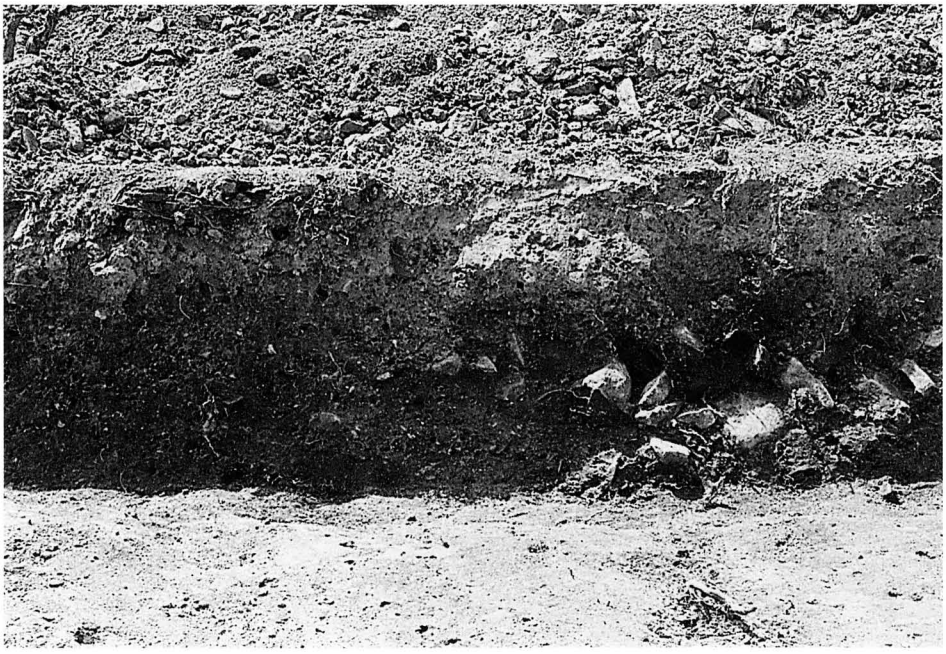
田山東遺跡12－７区
トレンチ全景（北より）

自然田範囲外12－１区
１トレンチ北部（北より）

自然田範囲外12－１区
１トレンチ中央部(南より)



自然田範囲外12－１区
１トレンチ南部(東より)



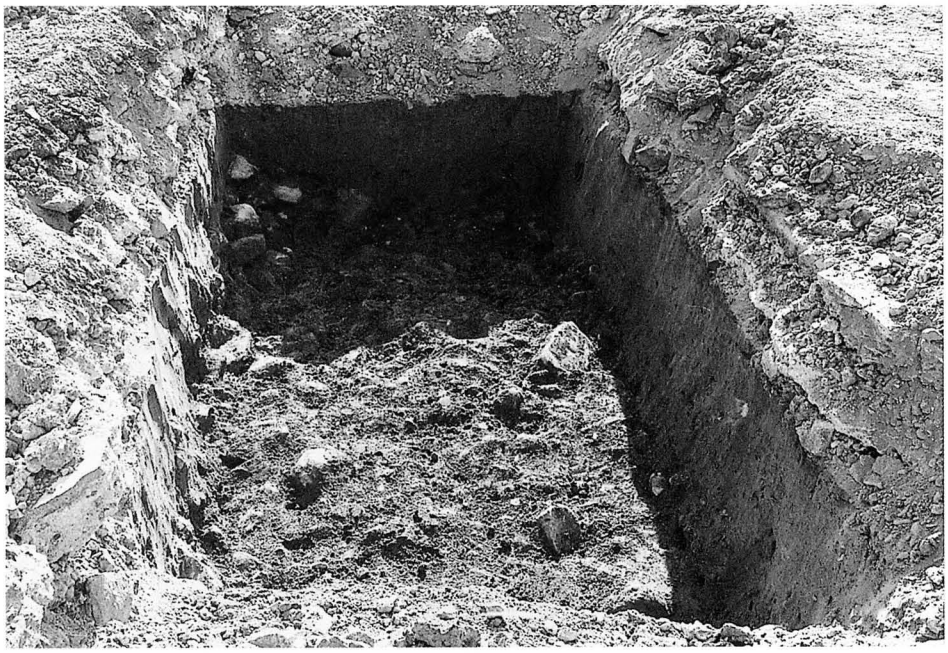
自然田範囲外12－１区
１トレンチ南側断面

図版18

自然田範囲外12－１区
２トレンチ全景（南より）

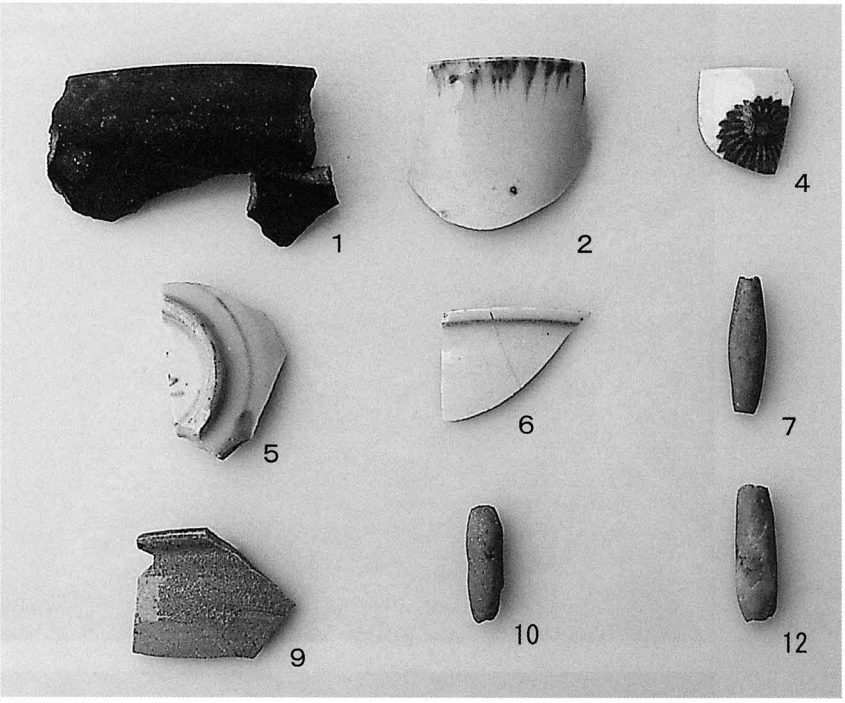
自然田範囲外12－１区
３トレンチ全景（北より）

自然田範囲外12－１区
４トレンチ全景（東より）

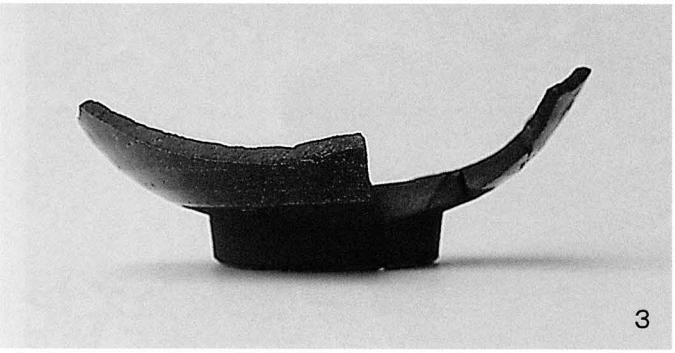


自然田範囲外12－１区
５トレンチ全景（東より）

自然田範囲外12－１区
６トレンチ全景（西より）



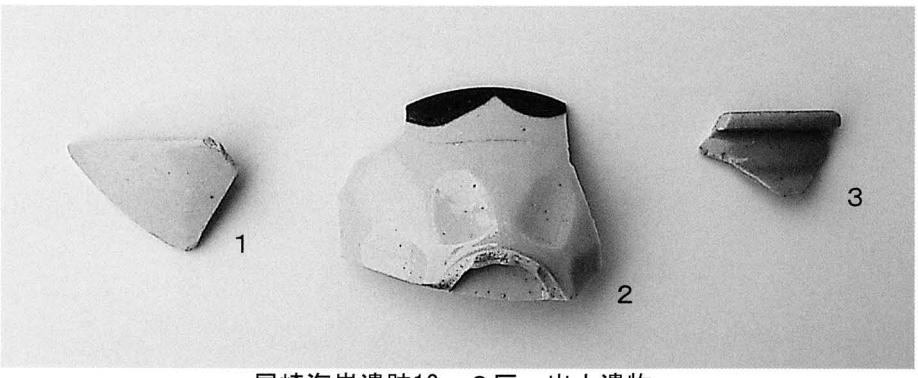
尾崎海岸遺跡12－２区　出土遺物



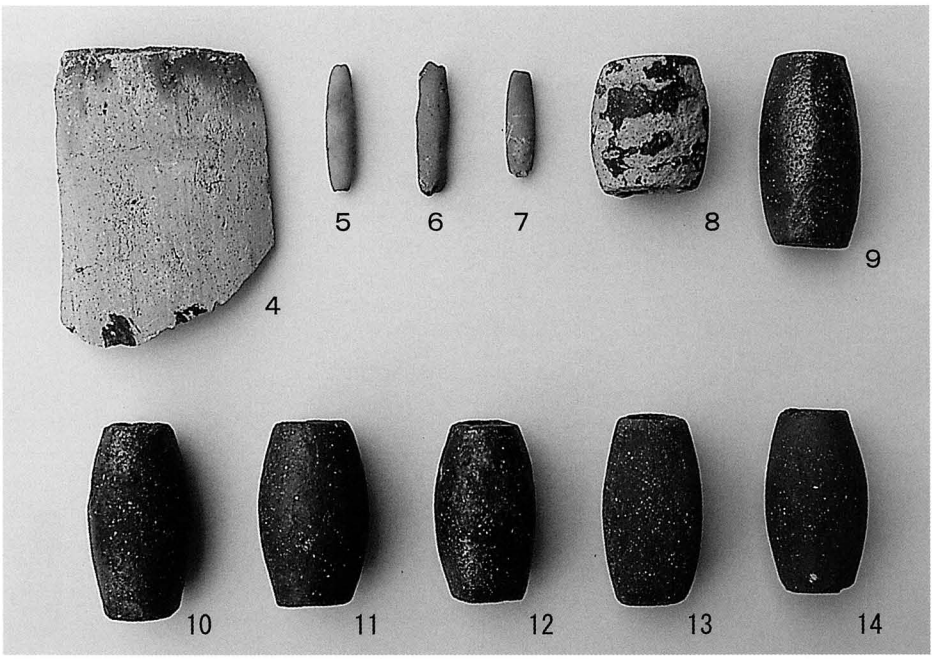
尾崎海岸遺跡12－２区　出土遺物

尾崎海岸遺跡12－２区　出土遺物

尾崎海岸遺跡12－２区　出土遺物

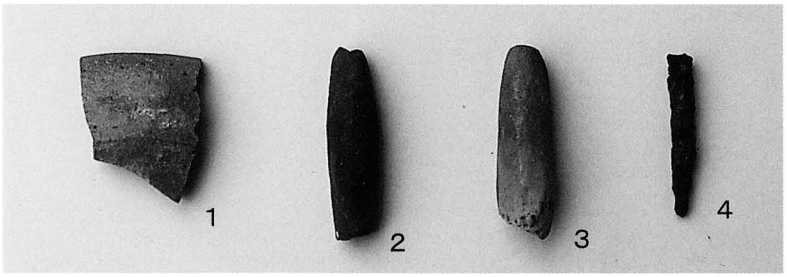


尾崎海岸遺跡12－３区　出土遺物

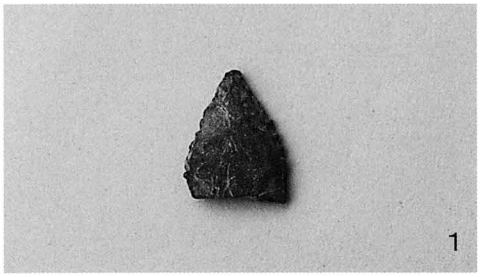


尾崎海岸遺跡12－３区　出土遺物

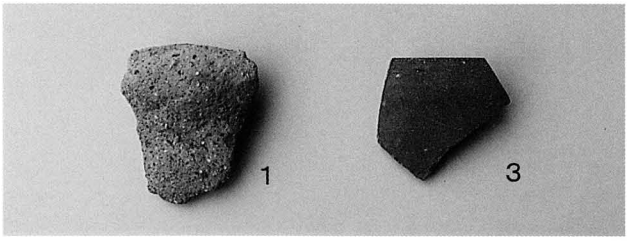
尾崎海岸遺跡12－３区　出土遺物



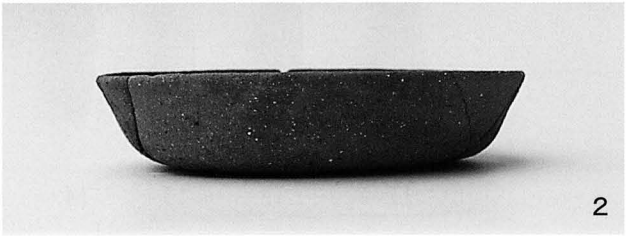
内畑遺跡12－１区　出土遺物



黒田南遺跡12－１区　出土遺物

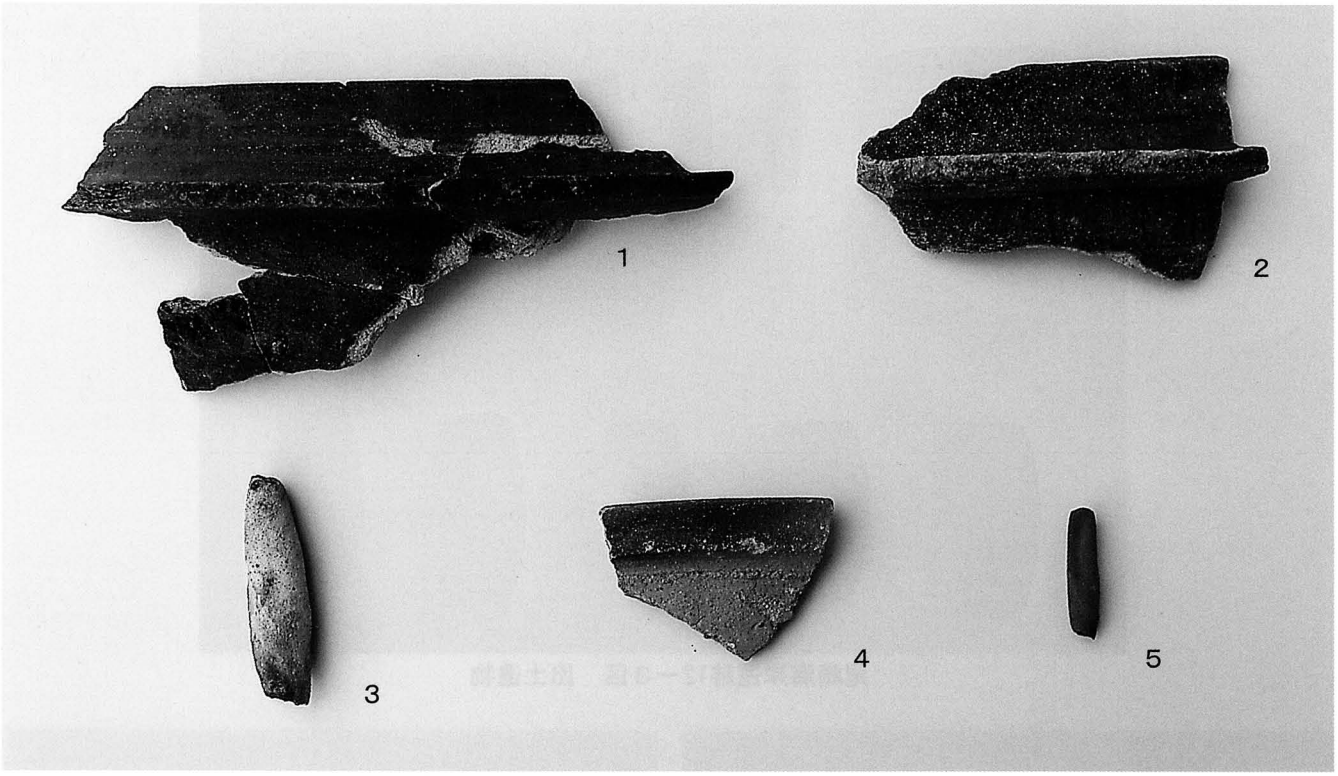


箱作今池遺跡12－２区　出土遺物

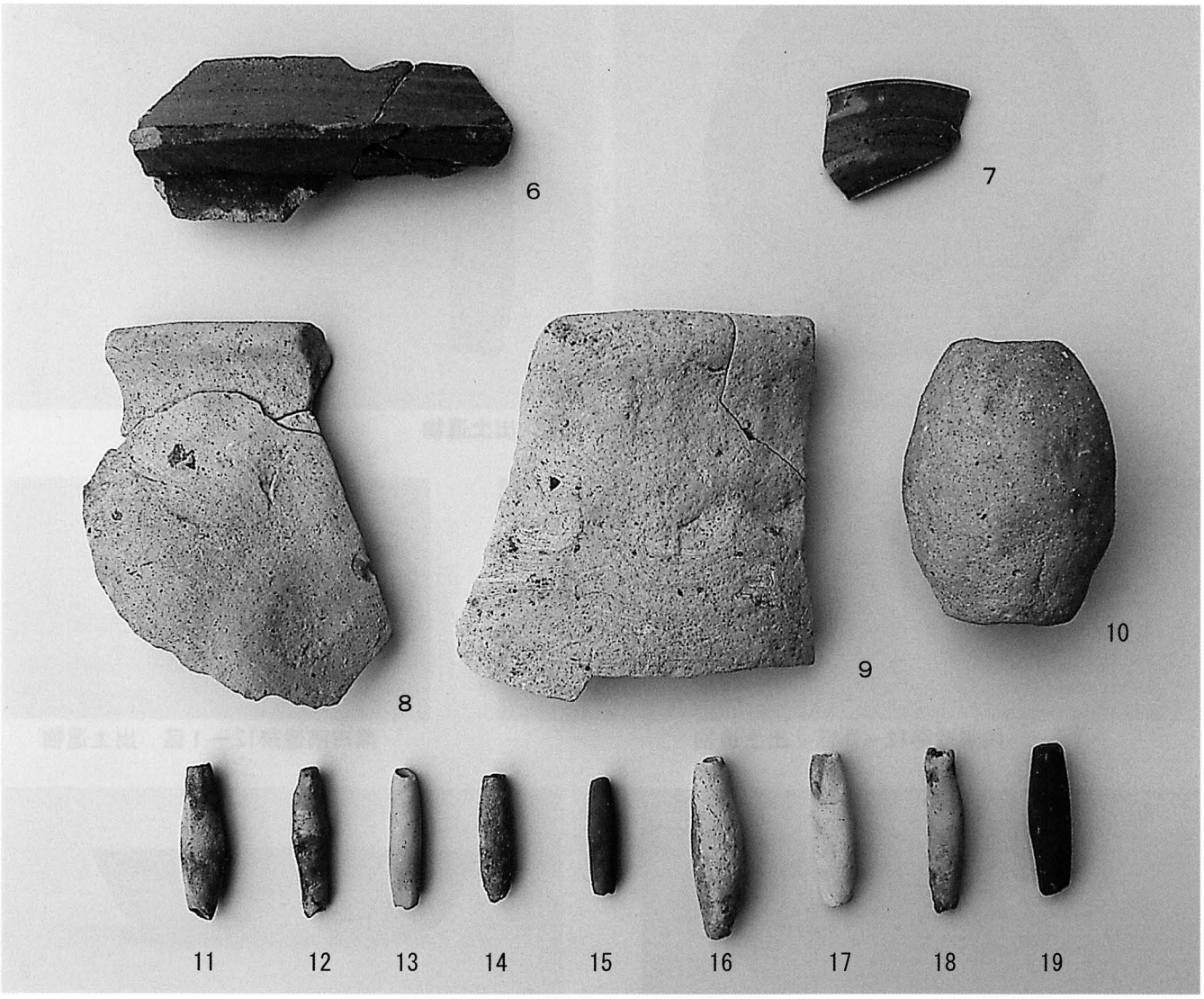


箱作今池遺跡12－２区　出土遺物

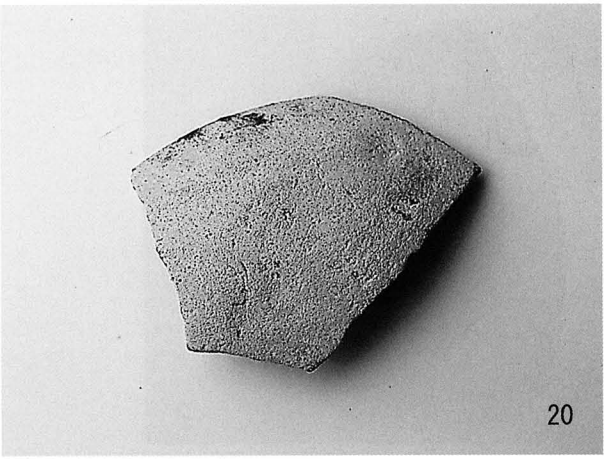
図版22



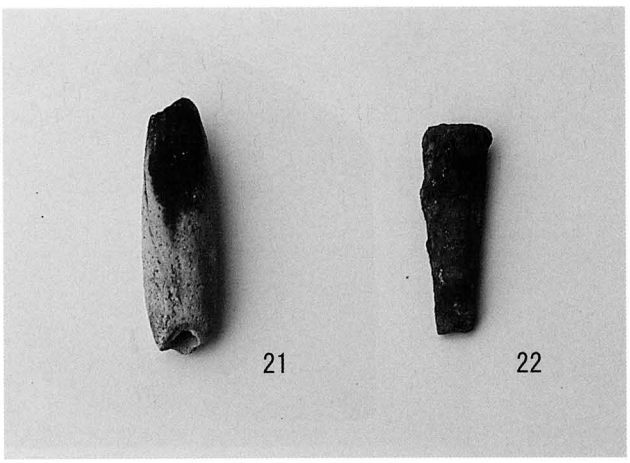
田山東遺跡12－２区　１トレンチ　出土遺物



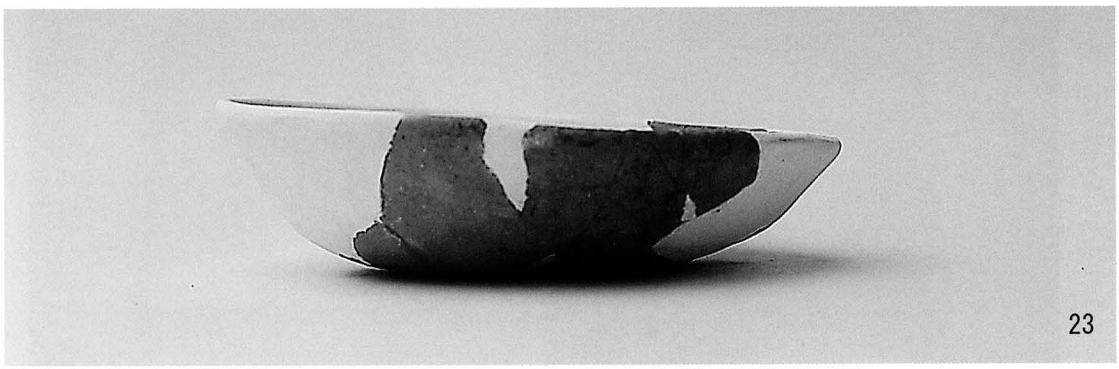
田山東遺跡12－２区　１トレンチ溝１　出土遺物



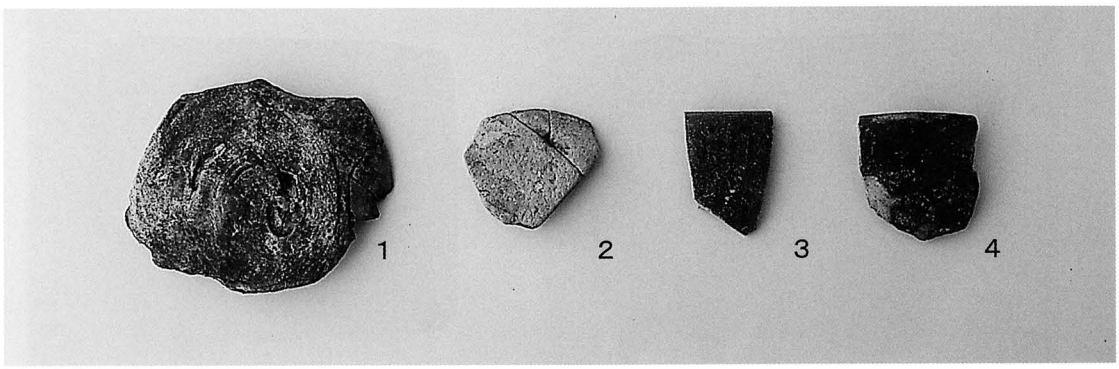
田山東遺跡12－２区　２トレンチ　出土遺物



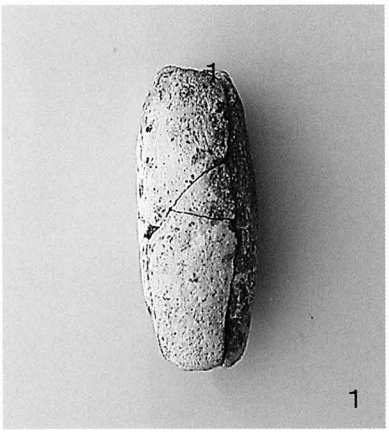
田山東遺跡12－２区　５トレンチ落ち込み２　出土遺物



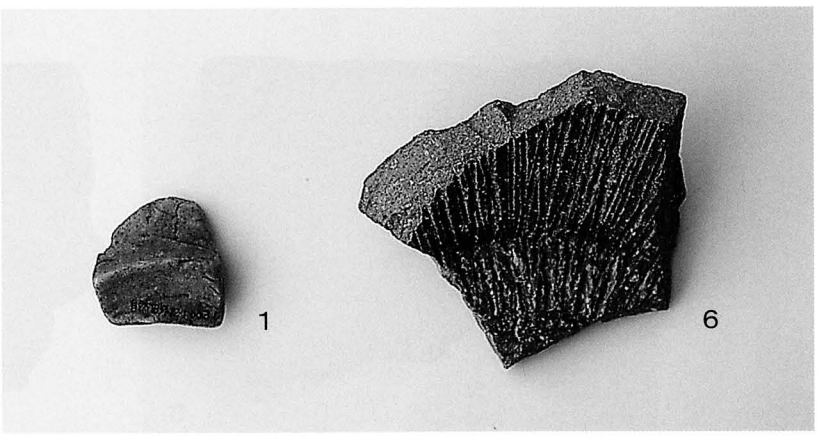
田山東遺跡12－２区　７トレンチ　出土遺物



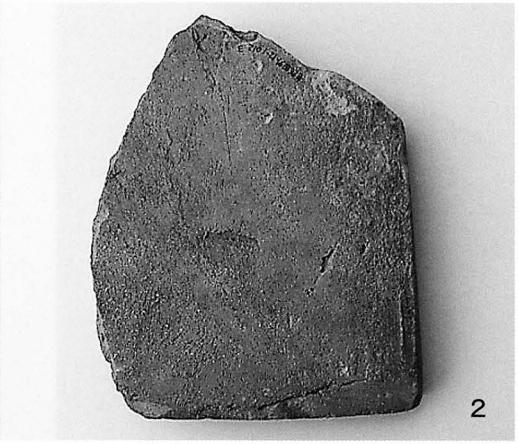
田山東遺跡11－１区　出土遺物

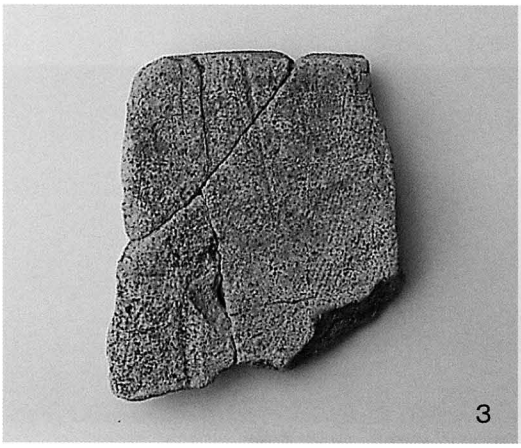


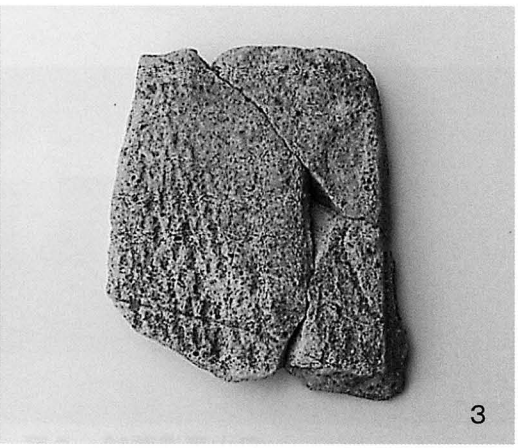
田山東遺跡12－５区　出土遺物

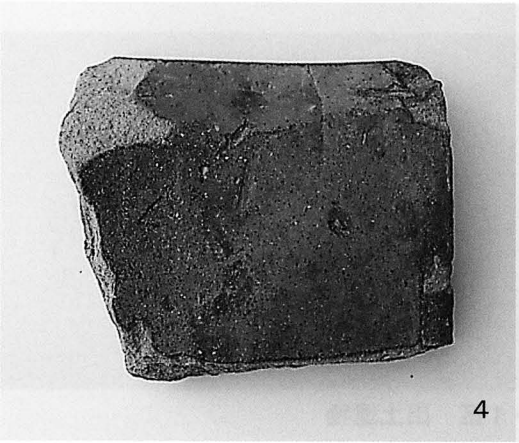


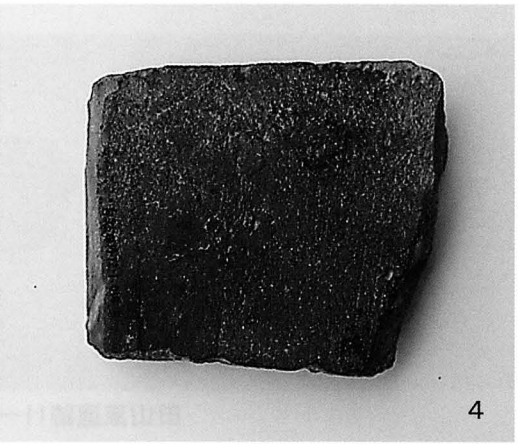
自然田範囲外12－１区　出土遺物

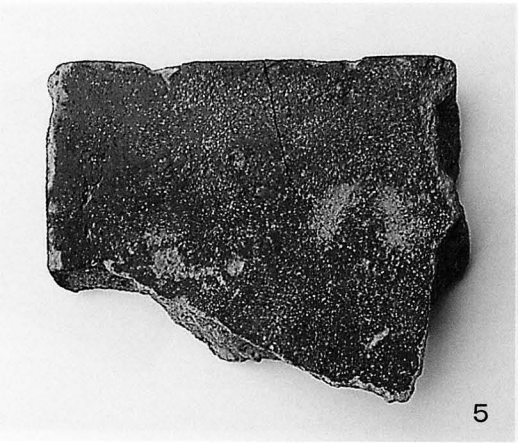


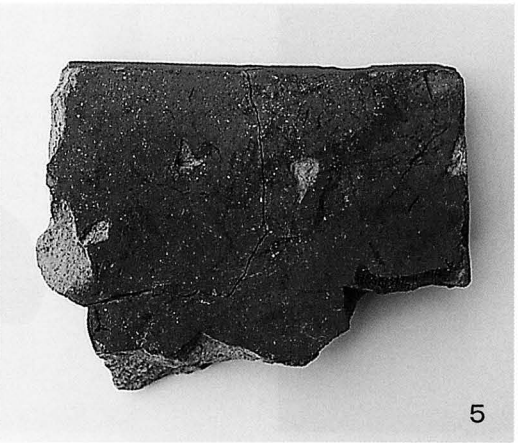












自然田範囲外12－１区　出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 51
阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＸＸ

２０１３年３月

発　行：阪南市教育委員会生涯学習部
生涯学習推進室
大阪府阪南市尾崎町 35 の 1
印刷社：有限会社 山村印刷所